2010 3



Architecture and Society
建築と社会

東海支部復活50周年記念号／
東海―TOKAIオムニバス

日本建築協会



「日本建築協会80年史1917-1996」

増刷頒布中　頒価　3,000円

1999年７月に発刊した「日本建築協会80年史1917-1996」は、各方面から好評をいただいておりますが、このたび、皆様の強いご要望により、増刷・頒布することにいたしました。大正６年３月30日に関西建築協会として誕生した日本建築協会の80年の歴史を、様々な事業や委員会活動を通じて、また、本会設立者の片岡安、武田五一以降現在までの会員たちの社会活動を通して知ることができる記念誌として、A4判・240頁にまとめています。

とくに、協会草創期の大正・昭和初期の片岡安ら協会のメンバーと当時の大阪市長・関　一との交流を物語る一文は、大阪の都市計画史、あるいは関西の建築人物誌ともなっています。本会の歴史を知るだけでなく、建築を通して、それぞれの時代の雰囲気を身近に感じることができる大変貴重な資料となるものです。

購入ご希望のかたは、下記要領でお申し込み下さい。

＊

申 込 先　社団法人 日本建築協会
〒540-6591　大阪市中央区大手前1-7-31
大阪マーチャンダイズ・マートビル7階B室
TEL 06-6946-6981　FAX 06-6946-6984

頒　　価　１部3,000円(税・送料込み)

※増刷部数には限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。

「日本建築協会80年史」

A4判・240頁・並製本

●日本建築協会の沿革／委員会活動／「建築と社会」の変遷／大正時代から現在までの本会主催の博覧会・展覧会・講演会／よろず相談住宅展／青年建築家・青年技術者顕彰／工高生デザインコンクール入選者etc.

●日本建築協会創立者と会を支えた38人のプロフィール（片岡　安・設楽貞雄・武田五一・池田　實・波江悌夫・竹腰健造・尾崎久助・東畑謙三・塚本猛次・福田朝生・佐野正一・葛野壯一郎・横濱　勉・松本禹象・宗　兵蔵・園部文雄・日高　胖・野村一郎・古宇田　實・松室重光・松井貴太郎・安井武雄・中澤誠一郎・坂　靜雄・今林彦太郎・井上新二・松本儀八・池田宮彦・錢高輝之・中西六郎・大林芳郎・鴻池藤一・伊東五郎・竹中錬一・鷲尾健三・松村雄吉・横尾義貫・足立　孝）

●座談会「戦中から戦後初期の協会活動」―尾亀清四郎・大林芳郎・小西　岬・佐野正一・横尾義貫・三品哲夫の6氏による終戦前後の協会活動の証言―

＊

■執筆ワーキンググループ
坂本勝比古／安達英俊／石田潤一郎／植松清志／梅宮弘光／桐浴邦夫／酒井一光／橋寺知子／山形政昭／吉田高子／和田康由

■80年史編纂委員会
長谷部朔郎／安達英俊／近藤達夫／谷淳之介／十倉　毅／原見昌志／和田康由／吉田悦二



「日本建築協会の遺産と功績」（坂本勝比古）より



「草創期の人々」より片岡安の項

会告

平成21年度 第2回通常総会開催

平成21年度第２回通常総会を右記のとおり開催いたしますので、ご出席頂きますようお願いします。
お問い合わせ先：
（社）日本建築協会　総務課
06-6946-6981

と　き　平成22年３月24日（水）
午後4時から4時40分
ところ　大阪マーチャンダイズ・マートビル
２階３号会議室
大阪市中央区大手前1-7-31

議　案　・第１号議案
平成22年度事業計画（案）の件
・第２号議案
平成22年度収支予算（案）の件
・第３号議案
名誉正会員推薦の件

◎お願い
開催通知を個人正会員、団体正会員あて別途送付いたしております。
最近、委任状の提出率が低下傾向にありますので、ご欠席の場合は『返信用ハガキ』にて必ず委任状の送付をお願いします。

第9回　読者と選ぶ「建築と社会」賞のためのアンケート回答募集

2009年1～12月号「建築と社会」誌から

「建築と社会」という本誌の趣旨にふさわしい社会性・環境などに配慮した有意義な建築作品や建築にかかわる論文・記事などを顕彰する。選考にあたっては、会員の声を反映し、広く開かれた賞とする。

■選考対象
「建築と社会」2009年１～12月号に掲載された作品、及び個別の論文・記事を対象とする。
・「作品作風頁」欄、及び「本会支部作品頁及びそれに準ずる作品頁」掲載の建築作品
・「特集頁」掲載の個々の論文・記事
―特集頁全体は選考対象としない―
・「シリーズ頁」の論文・記事（研究の風景、gallery、法令コーナー、構造の頁、設備の頁、再読関西近代建築、関西の建築界／群像、このまちが好き、REPORT頁ほか）

■賞の部門
作品部門／１～４点
論文・記事の部門／１～４点

■会員読者による第一次選考
会員読者から投票された「作品」及び「論文・記事」に、編集委員会の意見を加味して各部門10点程度選出。これを第二次選考対象とする。

■選考委員会による第二次選考
第一次選考を通過した選考対象を、選考委員会で選出。（該当者に写真、図面、設計主旨などの説明資料を求めることがある）

■第９回選考委員
徳矢典子（弁護士、徳矢法律事務所）
江川直樹（関西大学環境都市工学部建築学科・教授）
多田元英（大阪大学大学院工学研究科・教授）
鈴木克彦（京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科・教授、編集委員）

■発表と表彰
作品部門は建築主、設計者、施工者の中の代表者に、論文・記事部門は執筆者（複数の場合は代表者）に、賞状（記念楯）を贈呈する。入賞発表は「建築と社会」2010年８月号予定。

■投票締め切り
2010年４月10日（土）

■送付先
（社）日本建築協会
FAX 06-6946-6984
mail：kyoukai@aaj.or.jp
〒540-6591
大阪市中央区大手前1-7-31
OMMビル７階

なお、日本建築協会ホームページhttp://www.aaj.or.jpからも、ご投票いただけます。

＊2009年の誌面詳細は、2009年12月号p45に掲載している総目録または日本建築協会HPをご覧ください。

「建築と社会」賞読者アンケート

送付先
㈳日本建築協会
FAX06-6946-6984
e-mail：kyoukai@aaj.or.jp

「建築と社会」2009年１～12月号でよいと思われた作品・論文・記事、その他のご意見をご記入の上、e-mailまたはFAXで、（社）日本建築協会へご投票下さい。（2009年○月号掲載の作品、論文・記事名及び同執筆者名を明記してください）

（１）お名前

（２）勤務先または連絡先

（３）とくによいと思われた作品とその理由

（４）とくによいと思われた記事とその理由

（５）本誌についてのご意見や、取り上げてほしい内容などがありましたら、ご記入下さい。

2010年は9月号掲載で、応募締め切りが6月30日となります！

若き創造者たちへ

「建築と社会」平成22年9月号
「第57回青年技術者特集号」へのおさそい

日本建築協会誌「建築と社会」は毎年「青年技術者特集号」を企画し、すでに56回にわたって若き優秀なプランナー、アーキテクト、エンジニアをめざす人たちを紹介してきました。

今回も、青年技術者選考委員会を設けて、青年技術者を選考いたしますが、昨今の建築に携わる技術者の多様化を考慮し、設計だけに限らず、計画、構造、設備、施工およびその他広く、建築に関連する分野から、優秀な青年技術者を募って、その不断の研究努力とすぐれた実績への情熱などを、「建築と社会」に掲載し、顕彰することにしております。

57回の企画にあたり、日常目立たない対象の実績も含めて、優秀な実績を積まれている青年技術者のみなさまのご応募をお待ちしております。

応募提出規定

1．応募される人は満35歳（平成22年７月31日現在）以下の青年技術者であって、本会個人会員に限る。

2．原則として、本会会員であるすいせん者を通じて応募する。

すいせん者は被すいせん者（青年技術者）の勤務する組織の上司か上長とする。すいせん者が学校教官である場合はこの限りでない。また本人が組織の代表者である場合は自せんとする。

3．応募分野は特定しない。応募者は、たとえば計画、一般設計、住宅・インテリア設計、構造、設備、施工、技術開発、行政、情報、コーディネート等々その他の分野にあって、なしとげたすぐれた実績について、すいせんをうけ、下記の所要資料を1部、本会に期日までに提出する。

4．提出された資料は「青年技術者選考委員会」にかけて選考する。（なお、提出資料は特に指示のない限り返却はいたしません）

5．「青年技術者選考委員会」において選考された青年技術者は「第57回青年技術者特集号」（平成22年９月号）に掲載するとともに、表彰式を行い、記念品を贈呈する。

6．提出資料

■すいせん用紙

請求は、すいせん依頼先担当部署、または本会事務局へ。

■略歴

本人の氏名、生年月日、最終学歴、業歴、作品経歴など

■選考資料

資料は、④を含めて**A3判用紙5枚以内にまとめる。**

① 設計の場合――鮮明な写真、配置図および主要平面図、概要、設計要旨、その他設計内容を説明するに十分な資料

② 計画、構造、設備、施工の場合（それぞれの設計計画なども含む）――上に準じた資料

③ 上記以外の分野の場合――それぞれの分野にふさわしい資料

④ 上記①～③のいずれかの資料の実績において、応募者本人が関与した程度、役割、立場等を明らかにし、資料中、**本人が特に貢献した部分、または力量が活かされたと思われる部分の詳細な説明、考え方および将来的展望などについて、2000字以内に平易簡明にまとめたもの**（必要に応じ、図・表を用いて差し支えない）。ただし応募者本人の執筆に限る。**このコンセプトは、応募者の考え方を知る上で大変重要と考えているので、十分配慮されたい。**

7．**提出期限**　平成22年6月30日（水）

8．**提出先**　日本建築協会「青年技術者選考委員会」
〒540-6591　大阪市中央区大手前1-7-31
大阪マーチャンダイズ・マートビル7階
電話 06-6946-6981　FAX. 06-6946-6984
Email：ken-sha@aaj.or.jp

9．**青年技術者選考委員会**（平成22年度）

委員長　設楽　貞樹／安井建築設計事務所常務取締役

委　員　木多　道宏／大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻准教授
北村　[illegible]／[illegible]建築事務所理事設計部長
長谷川[illegible]／[illegible]プロジェクト開発推進本部(西日本)本部長
吉田　文男／[illegible]アトリエフォルム代表取締役
太田　寛／[illegible]
桑原　進／大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻准教授
伊藤　昌明／日建設計設備設計部門設計長
井村　隆／清水建設関西事業本部設備設計部グループ長
宇城　英彦／大成建設関西支店建築部品質管理室長
鈎吉　敬／大林組本店建築生産技術部長

折衝中

平成18年度から、青年技術者の公募は早めています。第57回青年技術者は、本年6月30日(水)までに応募できるよう準備をお願いします。

建築と社会

Architecture and Society

2010
No.1056
日本建築協会

3

■特集予告
4月号／食と建築・都市
5月号／ホスピタリティのあるケア空間

編集委員会（平成21年度）

■副会長
井上　豊
松村　孝治
■編集担当理事
上原　正行
木戸　徹
佐藤　栄一
佐藤友美子
◎設楽　貞樹
竹中　統一
立成　良三
松村　孝夫
吉村　英祐
■特集小委員会
■計画分科会
★計画系
△飯田　匡
飯沼　清明
鈴木　克彦
田中　慎治
田中　直人
紅谷　昇平
松田奈緒子
三宅　次郎
守井　辰
吉村　英祐
★建築計画系
荒木　宏之
奥村　朋孝
菅野　忠司
神戸　嘉也
木多　彩子
楠　敦士
静　茂夫
△下坂　浩和
所　千夏
野田　隆史
枇杷　健一
松森　織江
米山　剛史
★インテリア・住宅系
小倉　一平
加藤　力
△神谷　浩司
黒柳　亮
田中　浩介
戸井賢一郎
ペリー史子
間渕　一博
■構造分科会
秋田　智
石田　大三
△岸本　光平
小芝　淳一
志摩　好宣
瀧野　敦夫
角田　耕一
難波　尚
房安　智也
松村　健
向井　洋一

■設備分科会
△赤澤　正治
梶井　宏修
北野　勝也
谷野　太志
夏井　重行
難波　利幸
福谷　周
桝井　貴廣
宮崎ひろ志
村上幸三郎
渡邊　裕之
■施工材料分科会
桜井　和男
中川　恒
平田　茂良
藤丸　啓一
山岡　篤人
△吉田　正友
■法令分科会
近都　学
河野　学
田上　幸二
西林　浩一
濱崎　秀和
文山　達昭
△鷲尾　真弓
■作品作風小委員会
○居内　章夫
池上　明
稲垣　和江
井上　雅祐
岩佐　進
加嶋　章博
倉渕奈千子
澤田　純一
戸川　勝之
鞆野　淳司
豊田　充広
鳥居　久人
西田　佳代
芳谷　晴彦
増田　敬彦
山田　俊紀
■広告企画小委員会
上田　訓将
宇城　英彦
江本　孝弘
○虎谷　伸幸
○前田　衛
南澤　浩司
森川　幸信
■10年委員会
赤木　隆
川上比奈子
熊田　将男
河野　浩司
齋藤　幸代
菅原　幸也
中村　文紀
○前川　治彦

◎委員長　○副委員長　△幹事

印　刷　2010年2月25日
発　行　2010年3月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市中央区大手前1-7-31
電　話　06-6946-6981
振替口座　00910-9　39975
印刷所　㈱NPCコーポレーション
定　価　1200円〔税込〕

Journal of the Architectural Association of Japan

特集●東海支部復活50周年記念号
東海—TOKAIオムニバス

■東海支部会員作品2010
総合青山病院 —— 14
医療法人 社団同潤会 眼科杉田病院 —— 16
医療法人 安間眼科（増改築） —— 18
ナトコ中央研究所 —— 20
NNPビルディング —— 22
日本オプティカル本社社屋 —— 24
桑名信用金庫弥富支店 —— 25
JA鈴鹿総合相談センター —— 26
新東工業株式会社 新東エスビーテックカンパニー 一宮事業所 第一生産グループ 組立工場 —— 27
刈谷市総合文化センター —— 28
金山センタープレイス —— 32
名古屋ビルデイング —— 34
ららぽーと磐田 —— 36
豊橋駅東口複合商業施設「ココラアベニュー」 —— 38
フォルクスワーゲングループ ジャパン 第2カーサイロ —— 40
Tokai Sketch Book —— 41

■身近な街道、宿場町：愛知
序文にかえて—愛知の街道…東海道を中心に—●河田克博 —— 44
—有松から宮宿へ　受け継ぐものと伝えるもの…●谷淳之介 —— 46
東海道二川宿　本陣・旅籠屋の復原と町並み景観整備●澤村喜久夫 —— 48
岩倉街道　名古屋城下の台所を担った岩倉街道●中村哲士 —— 50
小牧・犬山の街道今と昔●今津芳清 —— 52
帝国ホテルスダレ煉瓦の里「常滑」●福田泰造 —— 54
レトロ建築探訪●加藤亜紀子 —— 56

■東海の建築：環境/エコ
～緑化推進のプラットフォーム～大島造園土木㈱豊田支店●株式会社伊藤建築設計事務所 —— 58
～太陽光パネルを取込んだファサード～NTN株式会社要素技術研究開発センター●株式会社大林組 —— 59
～ずらした壁がもたらす自然光～みなと医療生協協同組合宝神生協診療所●株式会社竹中工務店 —— 60
～今あるものを活かした学校の再構築～西原中学校—環境省モデル校—●株式会社東畑建築事務所 —— 61
～西日遮蔽ルーバーとダブルグレージングでファサードをつくる～名古屋ビルデイング●株式会社日建設計 —— 63
～ガラスアトリウムのハイブリッド空調換気システム～アクア・トト●株式会社安井建築設計事務所 —— 63

■東海支部会員が語る
東海支部復活の経緯とその後●中島　一 —— 64

会告　平成21年度第2回通常総会開催．第9回読者と選ぶ「建築と社会」賞のためのアンケート回答募集．若き創造者たちへ　1
作品作風　特別養護老人ホーム　梅香園　4
モリサワ本社ビル　6
N4. TOWER　8
研究の風景　安藤直見研究室（法政大学デザイン工学部建築学科）　10
gallery　「山崎の家」●今村文彦　12
法令コーナー　全国建築審査会協議会の「建議」について●宮川和久　66
構造の頁　建築における振動と固体音の低減にポリウレタン防振材を使う●小林久良雄　67
このまちが好き　「わが町中津」を考える会（霊崎伸行）　68
再読 関西近代建築　千里ニュータウン●三好庸隆　69
関西の建築界群像　森田一弥●古谷隆祥　73
information　「聴竹居」と藤井厚二展—日本の気候風土に根ざした住宅の追求—．「村山龍平邸和館」見学会．「郷土の遺産再発見～幻燈で見る明治・大正・昭和の都市遺産」．竹中大工道具館「技と心」セミナー開催．ミラノサローネ2010視察ツアー．第17回空間デザイン・コンペティション応募要項．「名古屋デザインDO！2010」．「創っ展（ソクッテン）2010—ACT関西学生卒業作品展」．グッゲンハイム美術館の設立50周年記念展招待作家として．「第41回日展」開催．西宮市大谷記念美術館新収蔵品展．太田三郎新作展「子供の時代」．「筆飛将軍」林閬苑—異色の唐画師—．特別展「喜寿記念　上村淳之展」～鳥たちに魅せられて～．INAXギャラリー大阪糸あやつりの万華鏡．特別展『M.C.エッシャ展～視覚の魔術師～』．「大恐竜展～知られざる南半球の支配者～」　74
月間の動き　平成22年1月分　80

本文　デザイン　高橋善丸

今月の表紙
企画　間渕一博　企画・写真・デザイン　花城辰男

～民家のまちなみ～
富田林・寺内町（じないまち）には、430年の都市史を持つ民家建築のまちなみが保存されています。重要文化財「旧杉山家」に見られる本瓦葺四重の妻、周辺に広がる三層の蔵や見越しの松などがまちなみに変化を与え、人々の暮らしに現代も息づいています。（間渕一博）

富田林市寺内町（じないまち）





山の地形に合わせゆるやかな曲線を描く東側外観

所 在 地———神戸市北区山田町小部字南山2-35
敷地面積———5,659.22㎡
建築面積———1,236.60㎡
延床面積———2,994.11㎡
構造規模———RC　4F
工　　期———2008年12月 1 日～2009年 9 月30日
最 寄 駅———神戸電鉄有馬線・鈴蘭台駅
撮　　影———SS大阪

北西側外観（1・2階に特養・ショートステイ等のユニット、3階に管理諸室・デイサービスセンターを配置）



作品風作

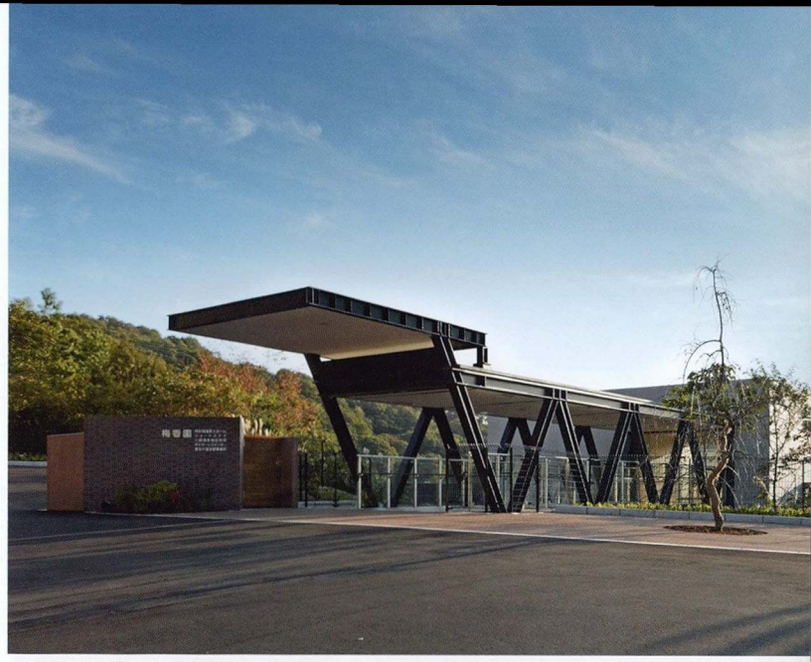
設計・監理■
安井建築設計事務所

施工■
安藤建設

特別養護老人ホーム 梅香園

神戸市北区鈴蘭台の豊かな自然を背景として建つ、小規模特別養護老人ホーム・ショートステイ・小規模多機能型施設・デイサービスセンターからなる複合施設である。
細長く、高低差のある敷地形状を活かした建物配置とし、ブリッジを渡り4階のアプローチホールを経由して、3階のエントランスホールに至るシークエンスを大切にした計画とした。
外観デザインは、「まち」に開かれた長大な壁面をリズムよく分節し、周辺の住環境との調和を図り、山側の壁面を地形に合わせた弓状とすることで、自然環境との調和を図った。
1・2階の居住ゾーンは、3つのユニットをリニアに配置し、各ユニット間に縦動線およびスタッフ室・談話コーナーを設けている。また、居室を開かれた「まち」側に配置し、樹木が迫る山側には共同生活室や浴室を設け、四季折々変化する自然の中でゆったりとした時間が過ごせる環境づくりに心がけた。

(近藤良彦・川井茂輝／安井建築設計事務所)



4階メインアプローチの車寄せとブリッジ



木々を望む3階デイサービスセンター浴室





北面外観



エントランス外観

作品風作

設計・監理■
東畑建築事務所

施工■
大末建設

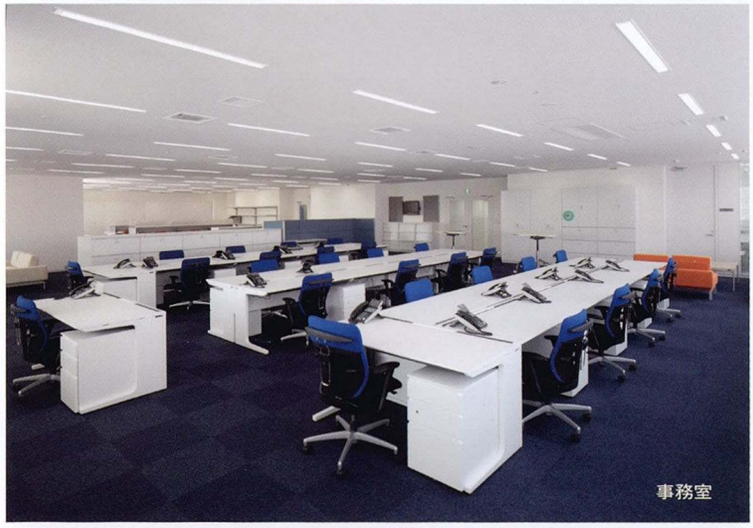
モリサワ本社ビル

株式会社モリサワは、世界初となる邦文写真植字機の発明から現在に至るまで、常に文字と共にあり、「文字を通じて社会への貢献」を社是として歩んでこられた。
昭和32年、現在の場所に旧本社ビルが建設され、その後、数度の増改築を経て本社機能を支えてきた。しかし、建物の老朽化と狭隘化、IT化への対応等の問題があり、現地にて建て替えられることが決まった。
敷地は、周囲にテナントオフィスや集合住宅、大型パチンコ店、卸売市場などが建ち並び、雑多な印象を受けるものの、不思議な力を感じる場所でもあった。この不思議な力を持つ街並みに、どのようにして融け込ませ、つなげることができるか、そして、施主プロジェクトチームより提示のあった、本社ビルのコンセプトである「Communication is All.」～つなぐ・ひらく・つたえる・もてなす～、をどう具現化するかが今回のテーマであった。
ファサードとなる北面は、カーテンウォールにより、透明感と開放感をもたせる構成とした。ガラスを通して内部の様子が伝わることと、ガラス面に街並みが映り込むことにより、街並みとのつながりが感じ取れる。一方、狭い道路を挟んで集合住宅等と対峙する東面は、200角炻器質タイルの打込PC版と単窓を採用し、少し閉じながらも、つながりを持つ構成とした。
今回のプロジェクトでは環境対策として、太陽光発電、屋上緑化、植栽灌水への雨水利用、LED照明、調光センサーによる昼光利用等が積極的に採用された。また、北側カーテンウォール面には透光性のあるブラインドを採用し、視線を遮りながらも調光制御が可能となったばかりでなく、ブラインド面により拡散されたおだやかな光が、室内の明るさ感の向上に繋がっている。
一見して華美さや目新しさはない建物と言えるが、控えめな見所は随所に散らばっていると思っている。モリサワ新本社ビルが、つなぎ・ひらき・つたえ・もてなす場となり、社会への貢献に助力できることを願っている。

（須藤貴司／東畑建築事務所）

所 在 地――大阪市浪速区敷津東
敷地面積――　832.92㎡
建築面積――　561.13㎡
延床面積――4,788.66㎡
構造規模――S造・9F
工　　期――2008年10月～2009年10月
協力業者――伊藤喜商事・協和建工・ダイクウ・東洋シャッター・ノザワ商事
　　日本インシュレーション・不二サッシ・六興電気（50音順）
撮　　影――花城辰男（時空アート）

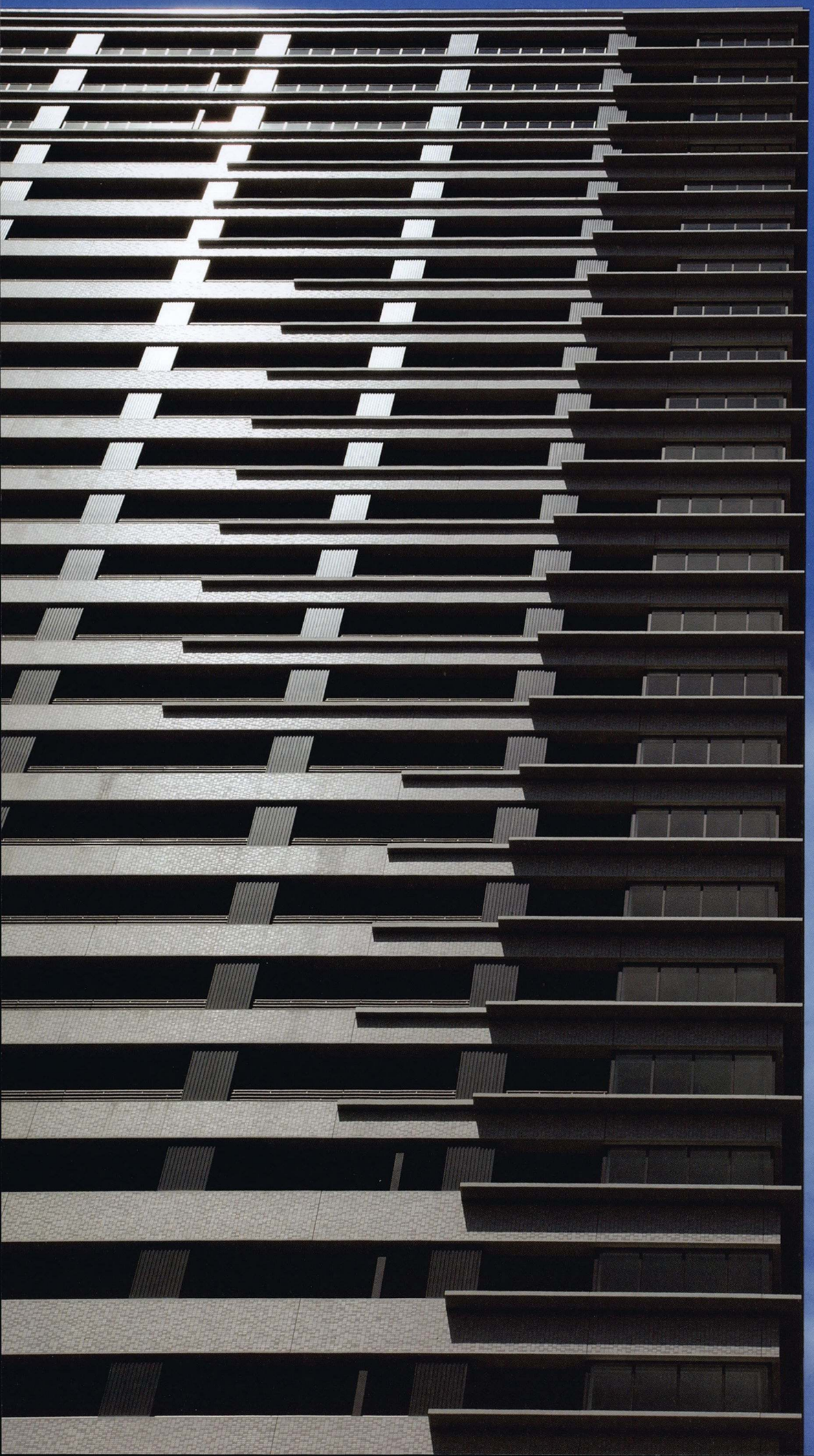

会議室


事務室


大会議室


エントランスホール
LED照明による光壁


エントランスホール



所 在 地――大阪市北区中之島4丁目
敷地面積――2,987.83㎡
建築面積――1,517.22㎡
延床面積――39,110.80㎡
構造規模――RC造　F34　P2
工　　期――2007年 6 月～2009年 9 月
最 寄 駅――京阪中之島線　中之島駅
撮　　影――古川泰造

作品
作風

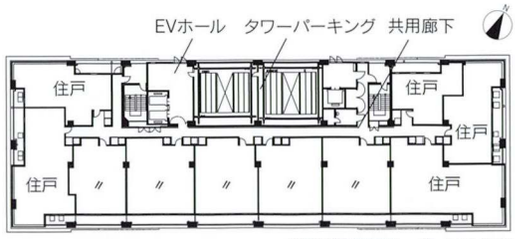
設計・監理■
竹中工務店

施工■
竹中工務店

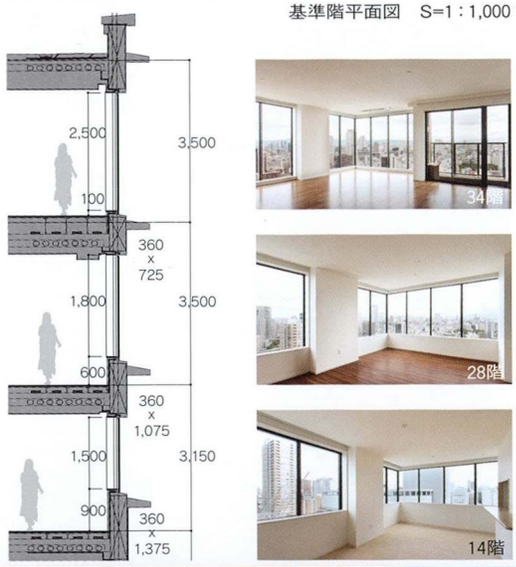
N4. TOWER

水都大阪の中心で、芸術・文化および自然環境に恵まれた中之島に建つ超高層集合住宅である。新たな文化・芸術地区として再開発が進む周辺街区の都市景観に配慮し、豊かな街並み形成に貢献するとともに、都市型集合住宅としての居住性の向上を目指した。
敷地条件から導き出された板状超高層の形状を生かし、水平に延びる外周の梁成を上階にいくほど小さくした新しい構造架構とすることで、住戸の高さに合った開放性を内部にもたらすと同時に、上昇感のある洗練されたファサードを創出し、構造合理性と居住性の向上、そして個性的なファサードによる都市景観への配慮を実現した。
アプローチには、訪れる人の五感を刺激する滝と噴水のある水景を設え、アート作品を配した開放的なエントランスホールとともに、街にはたらきかける開放的なランドスケープとした。

(平岡健太郎／竹中工務店)



基準階平面図　S=1：1,000

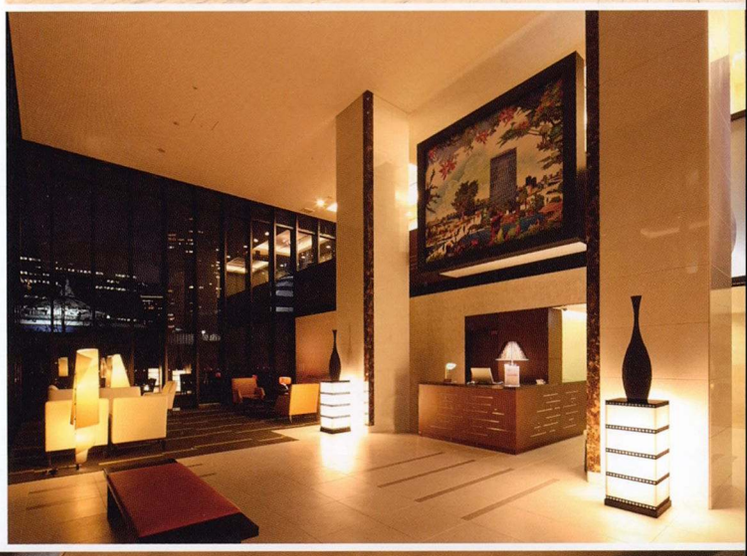


34階

28階

14階







研究の風景

法政大学デザイン工学部
建築学科

安藤直見研究室

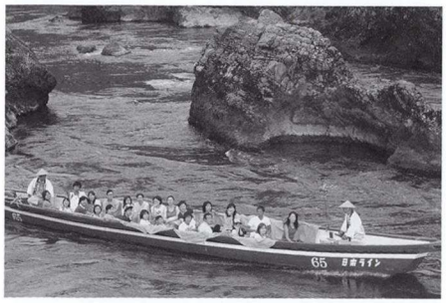
法政大学建築学科は、学部の改組により、2007年４月に工学部からデザイン工学部に所属が変わった。キャンパスも東京都小金井市から同千代田区市ヶ谷にあるメインキャンパスの一角に移った。都心のキャンパスのスペースは限られており、以前より手狭になった感があるが、建築を東京のど真ん中で学ぶことにアドバンテージはあるだろうと思う。この４月には、デザイン工学部建築学科の一期生が４年生に進級し、卒業論文と卒業設計に取り組むことになる。また、４月には大学院デザイン工学研究科建築学専攻が開学し、大学院も都心のキャンパスに移ることになっている。

環境は変化しつつあるが、建築を学ぶことの本質に変わりはない。市ヶ谷キャンパスの学部生、大学院生が、これまでの小金井キャンパスでの研究を引き継いでいってくれることと思っている。

●

現在の法政大学建築学科には、計画系、歴史系、環境系（設備を含む）、構造系、構法系などの領域に分かれた14の研究室がある。１学年は約140名なので、10名前後の４年生がいずれかの研究室に所属して卒業論文と卒業設計に取り組むことになる（できるだけ人数が均等になるよう研究室の所属を決めている）。

私の研究室は計画系に属する。私自身の専門（研究領域）は一言でいえば、「カタチの分析」である。私は、これまでに、広場、街路、街区、夜景などの都市空間や、建築の立面や平面などのカタチの分析に関わってきた。都市や建築のカタチにはさまざまな特徴があり、あるバランスの上に成り立っている。その特徴を把握したいというのが基本的な研究のスタンスだ。


写真１　2009年夏のゼミ旅行（愛知県犬山の日本ライン下りにて）

学生の研究としては、分析の対象は学生自身が各自の興味に基づいて決めてくれればいいと思っている。2009年度の卒業論文では「アルゴリズミックデザイン、マレーシアの集落、百貨店、学校のコンバージョン、ファンタジー絵画、駅ナカ、高齢者福祉施設、住宅の水回り、多世帯住宅、小住宅における子供室」がテーマだった。**写真１**は2009年夏のゼミ旅行の１コマである。

過去の卒業論文、修士論文のテーマも多様だった。物理的にカタチのあるもの以外に、映画や漫画に描かれた、すなわち表現された都市や建築の分析を通じて、そのイメージの特質を分析した論文もあった。空間のイメージは描かれることによって鮮明になることがある。

学生が進めてくれた風変わりな研究としては、世界各国のサッカーリーグのホームとアウェイ（地元での試合と相手の地元での試合）の勝率を調べ、サッカー専用スタジアム（サッカーフィールドの周囲に陸上トラックをもたないスタジアム）をホームとするチームはホームでの勝率が高いことを指摘した卒業論文があった（**写真２**）。選手と応援する観客の間に距離感を生じさせる陸上トラックの有無が勝率に直接影響するとは考えられないが、専用のスタジアムをもち、地元の観客が精一杯の声援を送ることが当たり前になっている文化がどこかでホームでの勝率に影響をしているのだろう。陸上トラックの有無の他にも屋根や観客席のカタチも「プライド・オブ・プレイス」（地元意識）に関連しているかもしれない。


写真２　マラカナン・スタジアム（ブラジル・リオデジャネイロ）

●

研究は何らかの仮説を立て、その仮説を実証する方法を検討することから始まる。分析には数値化、図式化、類型化などの方法がある。指導教員としての私の役割は、分析の方法についてアドバイスをすることだろうと思う。

初めて研究に取り組む学生は、カタチを数値化するということに慣れていないことが多いのだが、カタチをうまく数値化できれば、その特徴を他と比較したり、類型（タイプ）を発見する手がかりにもなる。

一例であるが、平面的なカタチがどれくらい正円に近いかは、ある図形の周長とその図形と面積が等しい正円の周長との比によって計算することができる。立面の凹凸や街区内に群集する建物の高さのばらつきなどは、各部分の高さの平均的な高さとの偏差によって計算することができる。西欧の広場（**写真３**）や日本のペデストリアンデッキ（**写真４**と**図１**）のカタチの多様性の一端は、そんな指標によって把握することができる。

研究室では駅前の高架歩行空間であるペデストリアンデッキの調査を続けている。ペデストリアンデッキは、1973年以降に急速に建設が進み、東京首都圏では、新宿

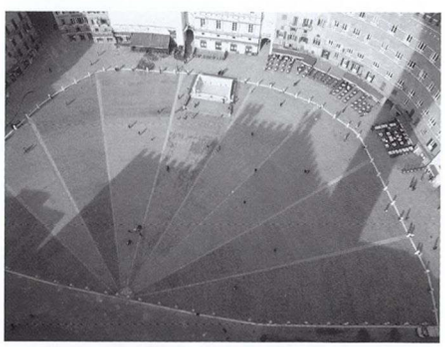

写真３　カンポ広場（イタリア・シエナ）


写真４　柏駅ペデストリアンデッキ（千葉県）

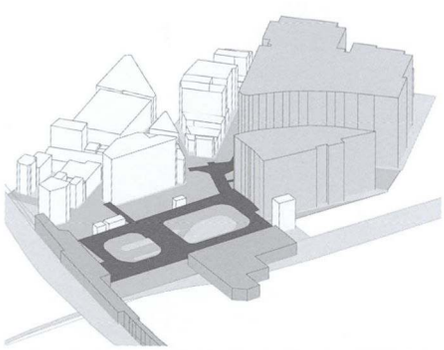

図１　溝の口駅ペデストリアンデッキ（川崎市）



図2　夜景解析プログラム



写真5　マレーシア・ペナン島の街路空間

を中心とする半径40キロ圏内の68駅に80基が存在する（その数はさらに増えている）。おもに中世に形成された西欧の広場と日本のペデストリアンデッキはまったく異なる歴史をもつものなのだが、ペデストリアンデッキのカタチを分析すると、個性的なカタチをもつ西欧広場に負けないほどの多様性があることがわかる。多様なカタチをもつことこそが人々が足を止める都市中心部の歩行空間としてのペデストリアンデッキの特徴だろうと思う。

●

街路の構成（道幅と建物の高さの関係、壁面の凹凸）や夜景の光分布などは画像解析による分析が有効だと思える。写真には空間のカタチや光が写るから、写真を解析すればその特性が数値化できる（**図2**）。西欧広場のような1枚の写真では特徴がとらえられない立体的なカタチについても、全体（広場を囲む立面）を微小な点の集合としてデータ化すれば3次元の画像として解析することができる（**図3**と**図4**）。面積や周長や立面（スカイライン）の凹凸など、さまざまなカタチの特徴が微小な点の配列によって計算できる。

数値化はカタチの複雑な特性を単純化に表すための一つの方法であるが、数値化だけがカタチの特徴をとらえる方法ではない。空間はカタチによって現象する概念であるから、空間を言語化することもカタチの分析に関係する。たとえば開放感や生活感といった空間の特性（心理量）がどのようなカタチによってもたらせているのであろうか？　心理量である言語は、SD法（Semantic Differential Method）を用いる心理評価アンケートによって数値化できることがわかってるので、そんな方法により空間を数値化し、別途数値化されたカタチの特性との相関の検証をすることも研究の方法の一つである（**写真5**は、魚眼レンズで撮影したマレーシア・ペナン島の街路を半球状のドームに投影し、アンケートを行った時の様子）。

●

カタチの研究をデザインに結びつけることは容易なことではないかもしれないが、今日の都市や建築のカタチは、多様で複雑で躍動感に満ちている。その多様性をとらえるための分析の結果を逆にたどれば、多様な建築・都市をデザインすることができるかもしれない。**図5**と**図6**は、集合住宅や美術館のデザインを意識しながら、ボックスや球を一定のルールに基づき、カタチにランダムなゆらぎを与えながら積み上げたスタディである。

多様性はある程度のランダムな構成によってもたらされるものであると思えるが、実在するカタチには、単にランダムなだけではなく、一定のバランスが隠れているはずである。そんなバランスを発見し、カタチをデザインしていく課題にも学生がチャレンジしてくれるようになっている（**図7**は、ある大きさの壁に、**図4**のシニョーリア広場の立面と同程度のばらつき・大きさ・開口率となるように窓を配置した例）。

●

最後に、現在、私の研究室の博士課程に所属する大学院生の種田元晴君の研究について触れておきたい。種田君は「日本の住宅史おける田園的建築観」の研究に取り組んでいる。詩人として有名な立原道造（1914～39年）は建築家でもあり、特徴的な透視図を数点残している。その透視図の構成を分析すると、建築と風景との密接な関係をが表れていることがわかる。立原道造は24歳で夭折し、建築家としては後生に大きな影響を与えたと考えられていない。むしろ、戦後の建築は都市との関係を主たるテーマとして発展したと考えられている。しかし、そんな都市的建築観に代わるもう一つの建築観＝立原道造的な田園的建築観を見いだすことができないかというのが種田君の研究テーマである。若き研究者の今後の活躍に期待したい。

（文責：安藤直見）

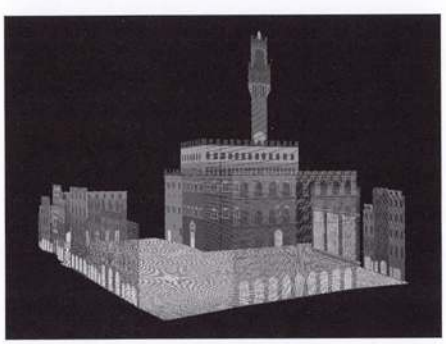


図3　シニョーリア広場（イタリア・フィレンツェ）

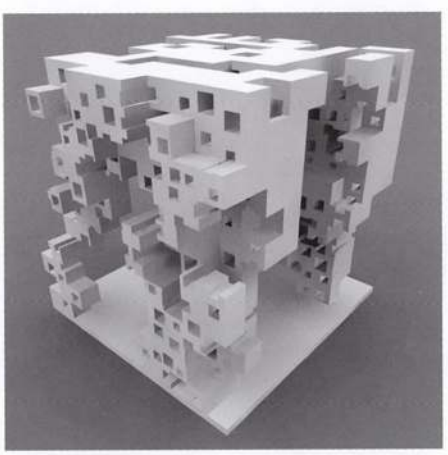


図5　Design by Boxes

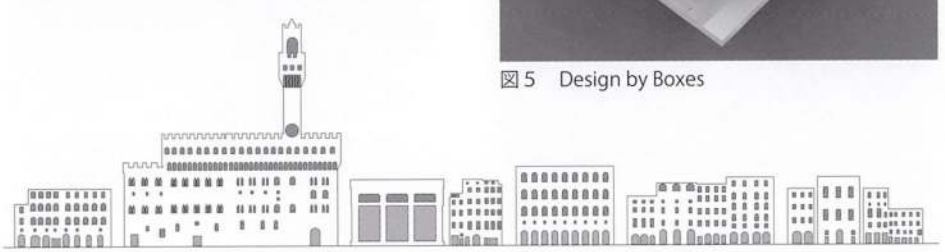


図4　シニョーリア広場の立面（イタリア・フィレンツェ）

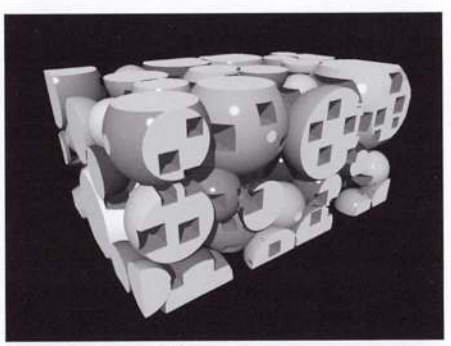


図6　Design by Spheres

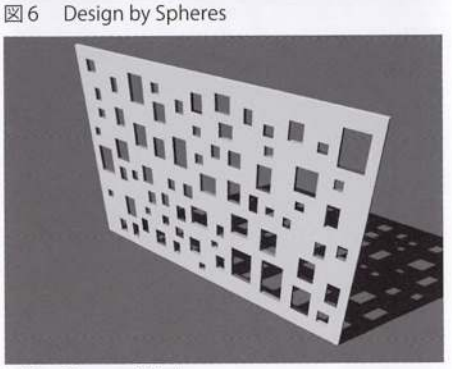


図7　Tower of Lights

まち　建築　ひと

gallery

「山崎の家」

設計

今村 文彦

築25年になるマンションのリフォームである。
夫婦と子供の家族4人が互いの気配を感じながらも、想い想いに過ごせる空間づくりをめざした。
個室は無く、コンパクトにまとめた共有の寝室とそれにより獲得した大きな空間はキッチンや収納によって緩やかに各々の空間を定義している。
また、living+diningは連続した障子により外部からの柔らかい光に包まれ、時間の経過と共に変わる表情を楽しむことができる。

今村 文彦（いまむら ふみひこ）

1996　九州芸術工科大学　卒業
1998　㈱Mega 入所
2003　今村建築計画事務所
　　［一級建築士事務所］設立
2004～ 宝塚造形芸術大学非常勤講師

撮　　影：沼田俊之
企画編集：稲垣和江(作品作風小委員会)







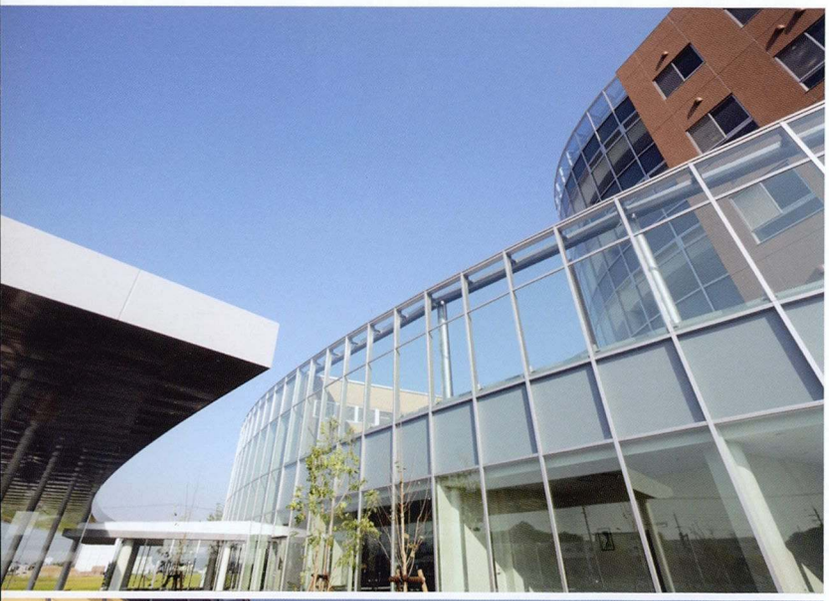
東海支部会員作品2010

総合青山病院
医療法人 社団同潤会 眼科杉田病院
医療法人 安間眼科（増改築）
ナトコ中央研究所
NNPビルディング
日本オプティカル本社社屋
桑名信用金庫弥富支店
JA鈴鹿総合相談センター
新東工業株式会社 新東エスビーテックカンパニー一宮事業所　第一生産グループ 組立工場
刈谷市総合文化センター
金山センタープレイス
名古屋ビルデイング
ららぽーと磐田
豊橋駅東口複合商業施設「ココラアベニュー」
フォルクスワーゲングループジャパン　第２カーサイロ

「建築と社会」東海特集特別編集委員会
委　　員　　長：佐伯　博
特集記事担当委員：松本壮一郎、林　金之、今津芳清
作品作風担当副委員長：土井敬三　担当委員：池村忠久
デザイン広告担当委員：若林　亮
委　　員（順不同）：寺本英一、黒田清宏、鈴木慶智、篠原佳則、福田泰三、後藤利秋、中村哲士、松元親司、山本敦子、芳山明久、北川貴啓、杉澤和男、齋藤　護、冨田昌志、加藤武範、今井祥子、河田克博

総合青山病院

建 築 主　医療法人宝美会
設計監理　大林組名古屋支店一級建築士事務所
施　　工　大林組名古屋支店





アプローチ

医療法人宝美会　総合青山病院は先進医療を提供する地域中核病院として急性期医療の更なる充実を目指し新たな敷地に既設病院から移転新築した病院である。平凡でない外観、地域のランドマークとなるような病院をデザインテーマとしガラスのカーテンウォールとコンクリートマッスの組み合わせによりデザインを決定した。正面の楕円カーテンウォールは曲率に従ってすべての方立てピッチ間隔を決定し楕円形状をより強調する細工をしている。２層吹抜のホールを鉄骨構造、病棟等を鉄筋コンクリート造としそれぞれの特性を活かして内部空間をデザインした。１階ホールの壁には木を思わせるような石『木紋砂岩』を採用しホールの温かみを印象付けている。病棟はカーテンウォールに面した開放的なデイルーム、光庭を設置した廊下など広く・明るく・ゆったりとした病棟環境としサインを兼ねたアクセントカラーを各所に配して患者が自分の居場所を把握できるよう配慮した。

（佐野睦人／大林組）

所 在 地 —— 愛知県豊川市小坂井町
敷地面積 —— 17,407.05㎡
建築面積 —— 4,854.68㎡
延床面積 —— 12,917.77㎡
構造・規模 —— RC造一部S造、5F
工　　期 —— 2007年11月～2008年９月
最 寄 駅 —— JR飯田線　小坂井駅
撮　　影 —— エスエス名古屋



正面外観



病棟SS



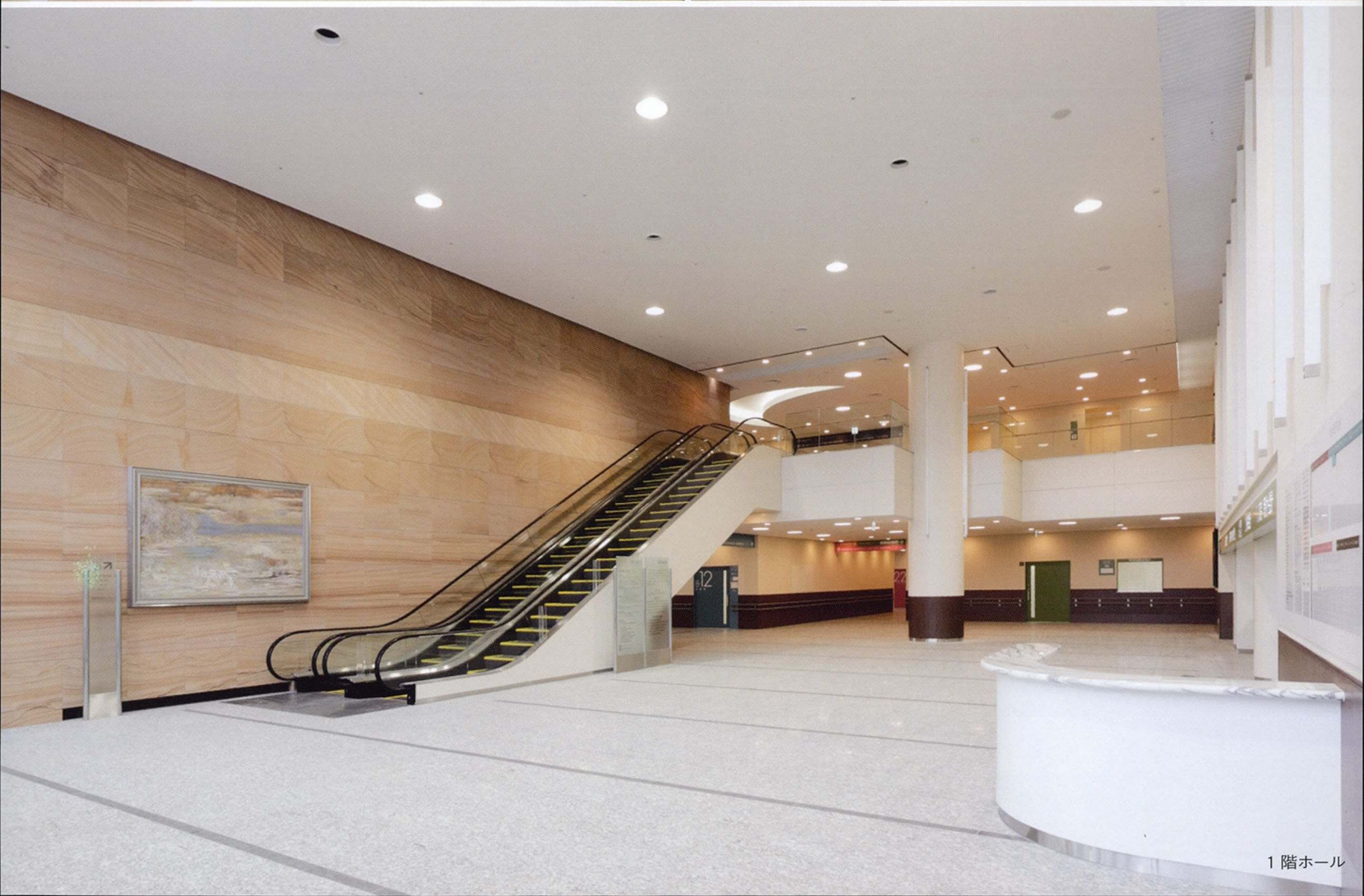
5階ラウンジ



病棟デイルーム



2階ホール



1階ホール

医療法人 社団同潤会
眼科杉田病院

設計監理　竹中工務店
施　　工　竹中工務店

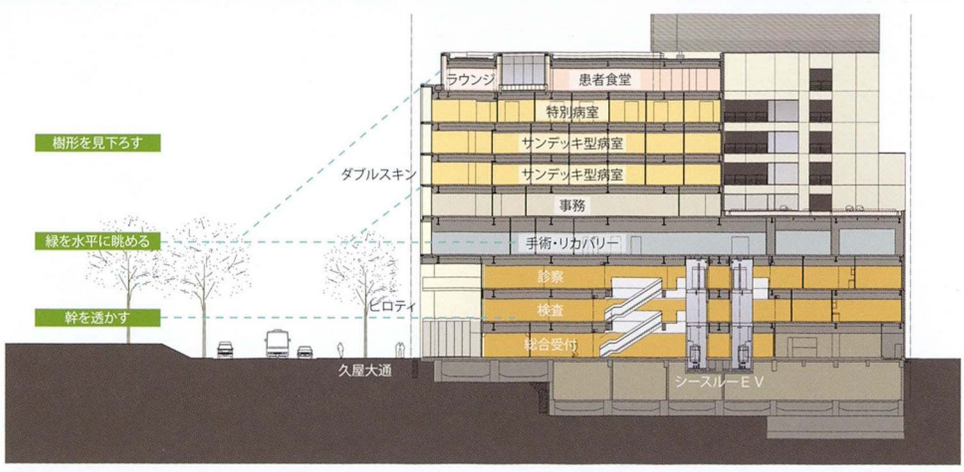
眼科杉田病院は名古屋のメインストリート久屋大通り沿いに1912年からつづく老舗の専門病院であり、１日あたり450人以上の外来患者、年間５千件近くの手術を行う眼科専門の病院である。外観デザインは、老舗ブランドとして、既往のデザインと一線を画す都市型病院のあり方、都市景観の中で存在を主張することを目指した。

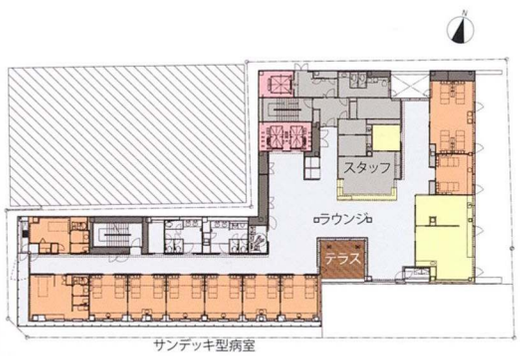
建物は、３層吹抜けのピロティを設けて都市に開き、上部をダブルスキンによるガラスボックスとしている。それは、都市の喧騒から隔離した静かな療養環境と、シンボリックな外観デザインを生み出している。建物構成は、久屋大通り公園の欅並木の高さに呼応した機能になっており、幹部分を外来部分、葉の高さに目を休める手術後のリカバリー、病室を樹木より高くして解放感のある構成としている。

ピロティに面して外来部門を設け、内部の吹抜けに面した２機のシースルーエレベーターとオープンな階段を設置している。混雑しがちな外来部門に明確で安全な移動手段として、外来部門の一体化を図ると共に、わかりやすい縦動線を確保している。ダブルスキンに囲われた３フロアの病室は、６、７階をサンデッキ型病床として開口部に向けてベッドを並列にレイアウトし、ベッド間の距離を設けることで、プライバシー性と開放性を両立している。８階は特別個室のみのエグゼクティブフロアとして、よりプライベートで快適な療養環境を演出している。各病室フロアには外部に面したテラスを穿ってあり、都市部にありながら外部との接点を多く設けている。最上階には久屋大通の並木の頂部をのぞんだ快適なラウンジと食堂を配置して、患者へのやすらぎを提供している。

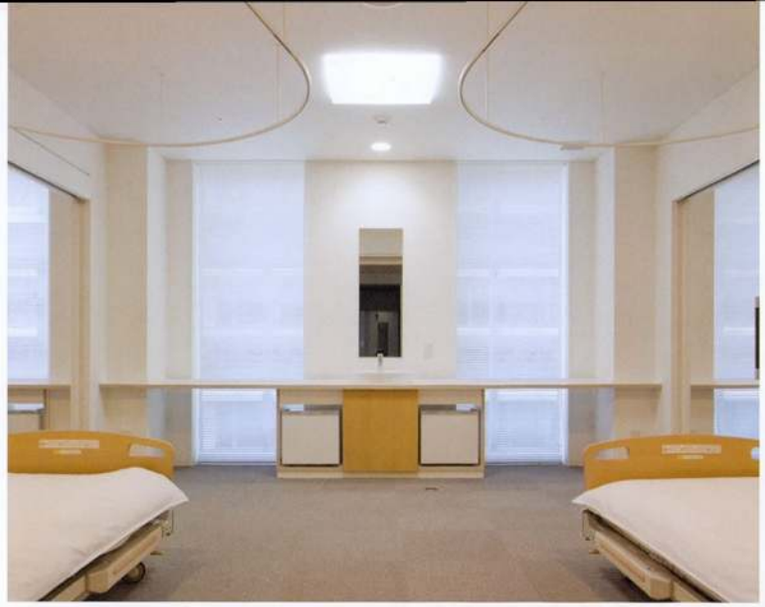
（吉岡英一／竹中工務店）

所 在 地 ――名古屋市中区栄5-1-30
敷地面積 ――1,291.37㎡
建築面積 ――1,104.05㎡
延床面積 ――9,694.08㎡
構造規模 ――S造、B1F、9F、P1F
工　　期 ――2008年3月～2009年6月
最 寄 駅 ――地下鉄名城線矢場町駅
撮　　影 ――エスエス名古屋



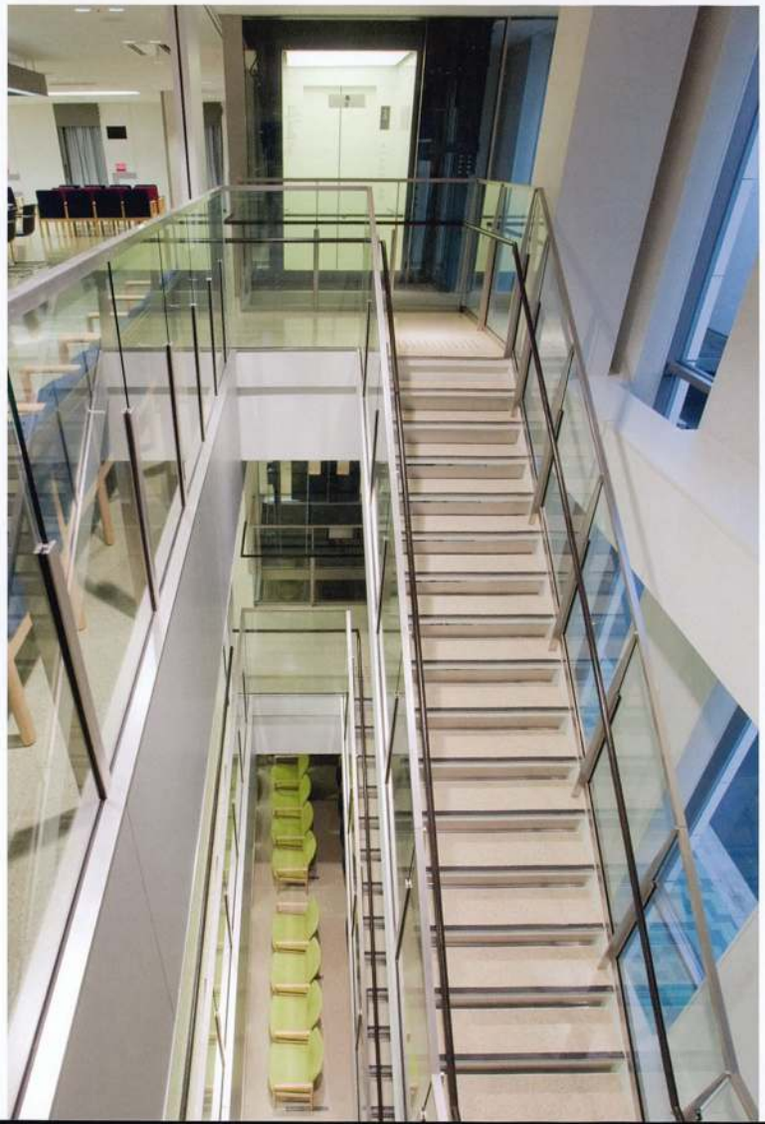


7 階平面図　縮尺1/800












総合受付



医療法人 安間眼科（増改築）

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　竹中工務店

所 在 地 —— 愛知県名古屋市中区大須4-10-50
敷地面積 ——　588.46㎡
建築面積 ——　522.90㎡（増築部：　257.77㎡）
延床面積 —— 3,627.55㎡（増築部：1,673.32㎡）
構造規模 —— SRC造　8F、B1、P2
工　　期 —— 2008年４月～2009年12月
最 寄 駅 —— 名古屋市営地下鉄名城線・鶴舞線　上前津駅
撮　　影 —— エスエス名古屋

医療法人安間眼科は、一般眼科診療の他、白内障や緑内障等、専門的な手術を行なう眼科診療所である。既設診療所は1995年に竣工しているが、待合・診察室等が手狭になったため、増改築を行なった。

既設診療所は、下層階を診察部門、中層階を病室・手術・検査部門と看護師寮、上層階を管理部門、最上階を院長住宅とし、各階ごとに部門をまとめ、わかりやすい施設としている。今回の増築では各階の部門構成を変えることなく、それぞれの機能の充実をはかった。

【待合スペースの拡張】

1階はエントランス機能として、既設部にある待合室、受付カウンターを拡張し、初診の患者でもわかりやすい施設とした。また増築部3階の待合室にはリビングのような四人掛テーブルやLAN対応ブースを設け、サラリーマンからお年寄りまで、幅広い患者に対応させている。

【検査・診察機能の充実】

2階は検査・診察機能として、検査室、中待合室を拡張し、増築部にプライバシーを高めた個室型診察室を8室設け、落ち着いた診察が受けられる環境とした。

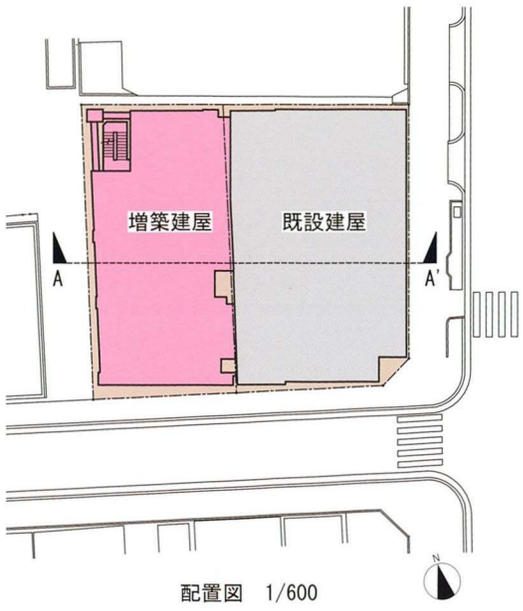
増築部3～5階に検査部門、4階に病室（1床）、6階に手術室をそれぞれ増設し、より専門性の高い診療が行なえる設備を拡張している。

【医療スタッフスペースの拡張】

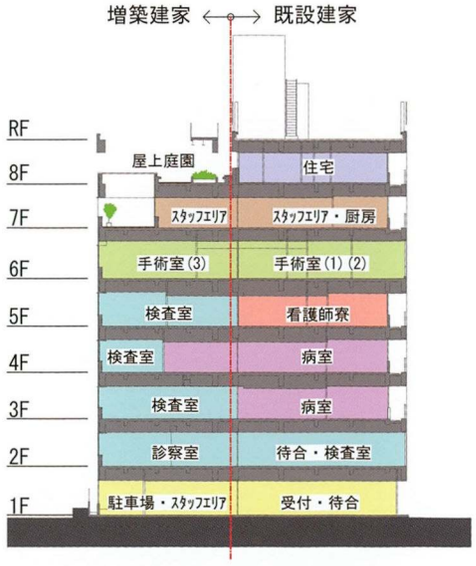
増築部5階に医師室、7階に医局、休憩室等を増設し、医療スタッフがより快適に働きやすい環境とした。

増築部7階の中庭、屋上はウッドデッキと植栽により庭園として整備し、室内熱負荷の低減をはかるとともにスタッフの憩いの場としている。

（上西真哉／伊藤建築設計事務所）

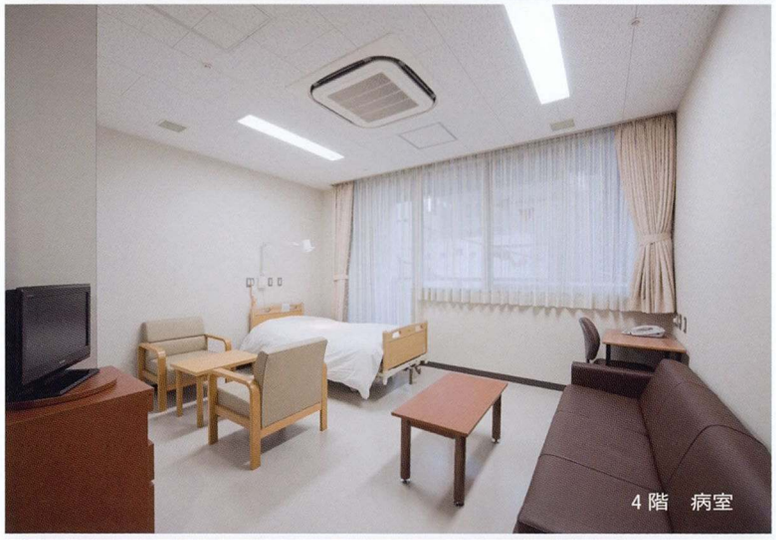


配置図　1/600



A-A'断面図　1/600


6階　手術室


4階　病室


2階　検査室


1階　待合・受付


ナトコ
NATOCO

ナトコ中央研究所

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　大林組名古屋支店

樹脂塗料のメーカーとして、塗料開発で培った高機能の樹脂開発や、液晶スペーサーに見られる粒子合成技術開発の研究所である。周囲は工場が立ち並ぶ工業地域で、敷地は自社の工場や倉庫が建つ一角である。以前よりこの場所に研究所を構えていたが、老朽化や耐震性の問題があり、建て替えとなった。

建て替えに当たっては、実験、研究スペースの拡充や機能確保はもとより、新商品等のプレゼンテーションを行える会議室や、商談コーナー、応接室を充実させている。また社員食堂やラウンジ、更衣室等の厚生施設も2階に用意されている。

外観の特徴となっている屋上のサイン看板は、外壁デザインと揃え外周に廻した門形フレームにより建物との一体感を出している。また、この事業所への車輌入退場のメインゲートとしての役割を視認化している。

外壁は押出成型セメント版の低汚染型フッ素樹脂の焼付塗装で工業地域の厳しい環境化でも劣化の少ない材料を採用している。

建物は耐震性、長寿命化を考慮して、現行基準法の1.25倍の耐震性能を確保している。

また、この事業所全体の将来構想を踏まえ、研究所の増築の妥当性についても検討した上で設計を行っている。

環境面においては、設計の段階で、名古屋市緑化条例の施行に先立ち10％の緑地をこの建物で確保している。緑化は道路際の植栽や5階の会議室・応接室に面した屋上庭園のほか、屋根面にも屋上緑化を行い、建物への熱負荷低減を行っている。

（冨田昌志・山上健／伊藤建築設計事務所）

所 在 地 —— 愛知県名古屋市瑞穂区二野町8-3
敷地面積 —— 3,233.71㎡
建築面積 ——　417.23㎡
延床面積 —— 1,884.39㎡
構造規模 —— S造、6F
工　　期 —— 2008年10月～2009年9月
最 寄 駅 —— 名鉄名古屋本線　神宮前駅
撮　　影 —— センターフォト



エントランスホール


2階食堂


5階屋上庭園

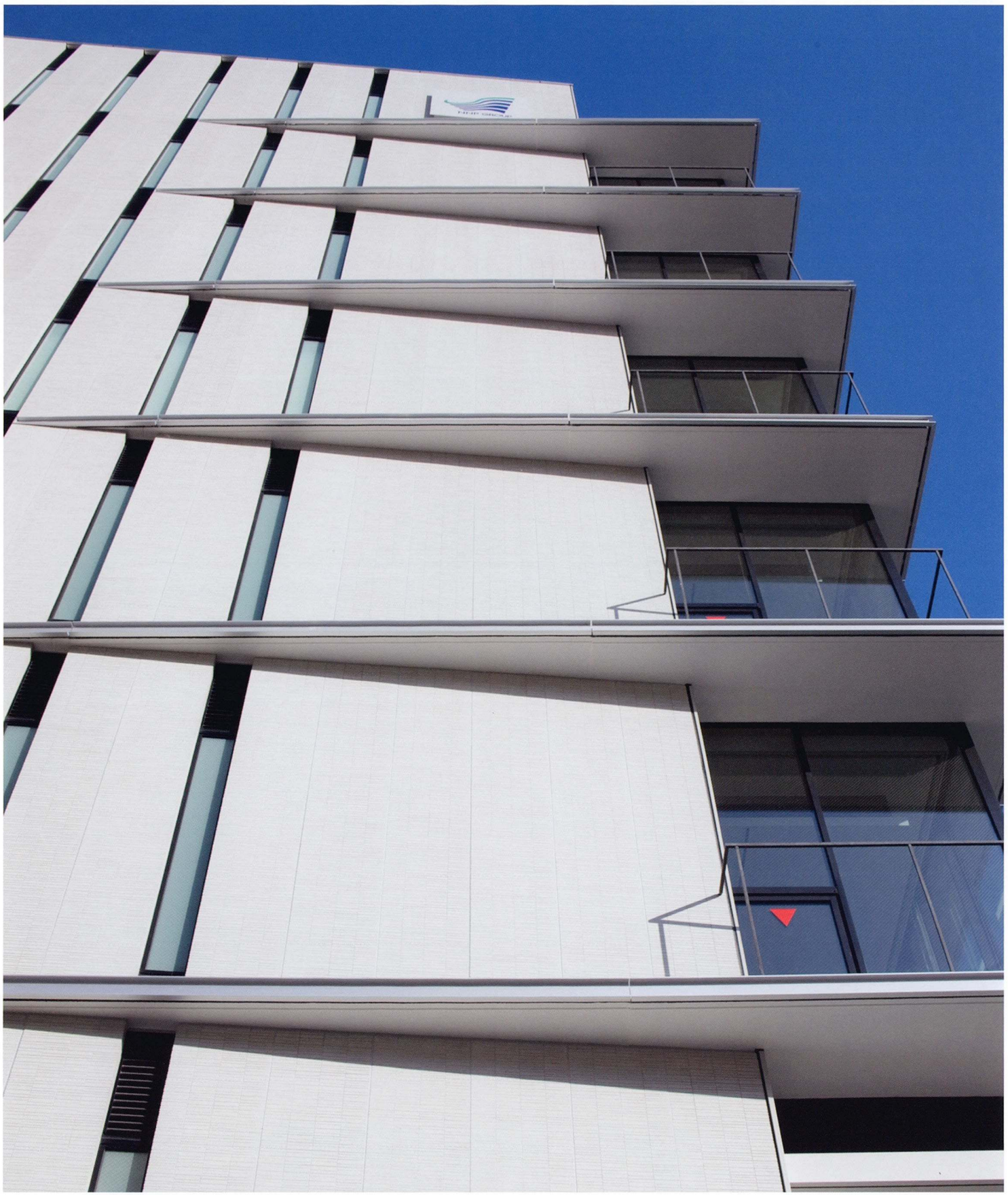
NNPビルディング

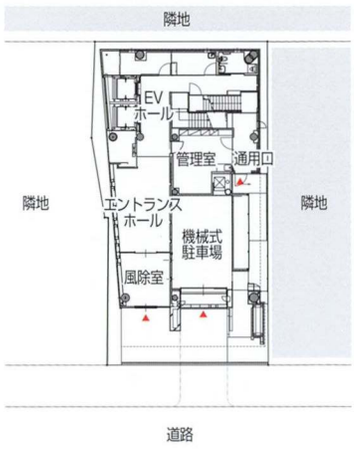
所 在 地 —— 名古屋市中村区名駅3丁目16番6号
敷地面積 —— 342.45㎡
建築面積 —— 271.81㎡
延床面積 —— 2,264.80㎡
構造規模 —— 鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造
工　　期 —— 2007年10月～2009年１月
最 寄 駅 —— 名古屋駅
撮　　影 —— エスエス名古屋

建 築 主　NNP興産株式会社
設計監理　日建設計
　　建築設備ファクトリー
施　　工　鴻池組
　　川北電気工業
　　ナテック
　　足立工業

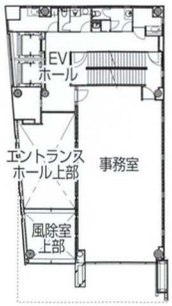
NNPビルディングは設立50周年を迎えた、電子・制御部品の設計・販売を主業務とする企業の本社ビルである。中規模ビルや木造家屋が並んだ通りに面した、間口が12ｍの敷地にあって、本社ビルとしての「顔づくり」と「機能性」「快適性」の共存を大切にした。外観は、規模や形態が混在する街並みに対し、水平線を強調したデザイン構成と、足元を大きく開いた構えにより、新本社屋にふさわしい清新で端正な表情をめざした。基準階は、コーナー部に柱のない開口部とし、視覚的に広がりのあるオフィス空間を実現した。

（若林亮・奥宮由美／日建設計）

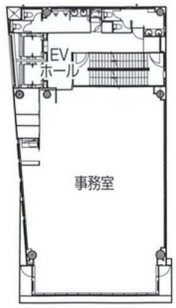




1 階平面図



2 階平面図

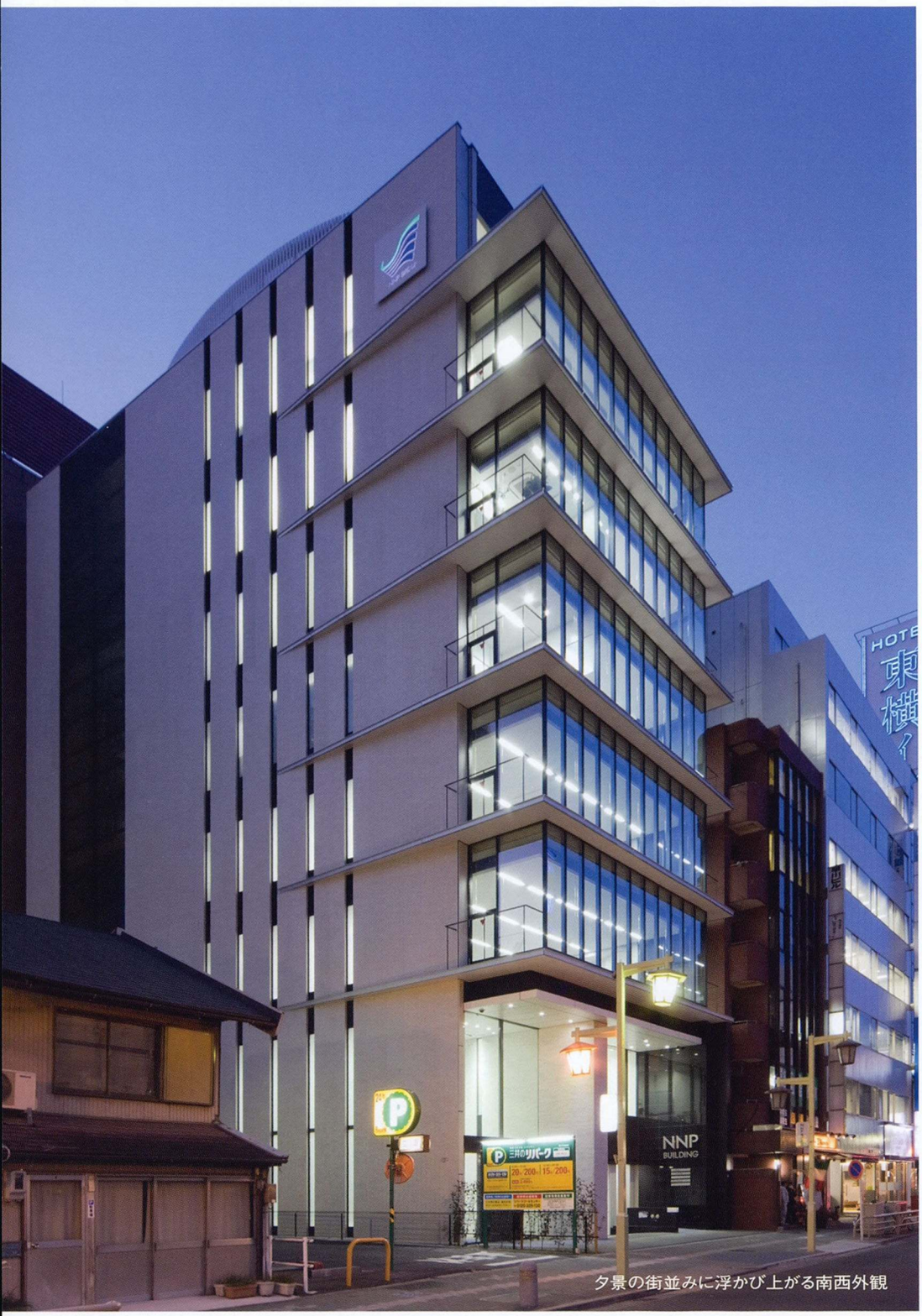


基準階平面図

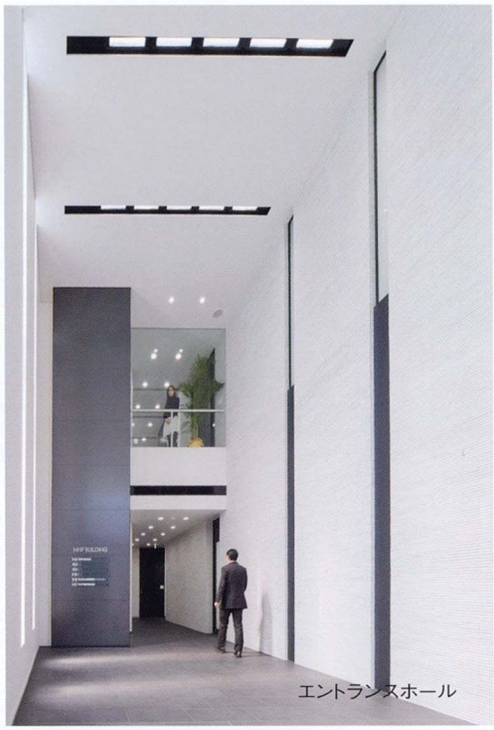




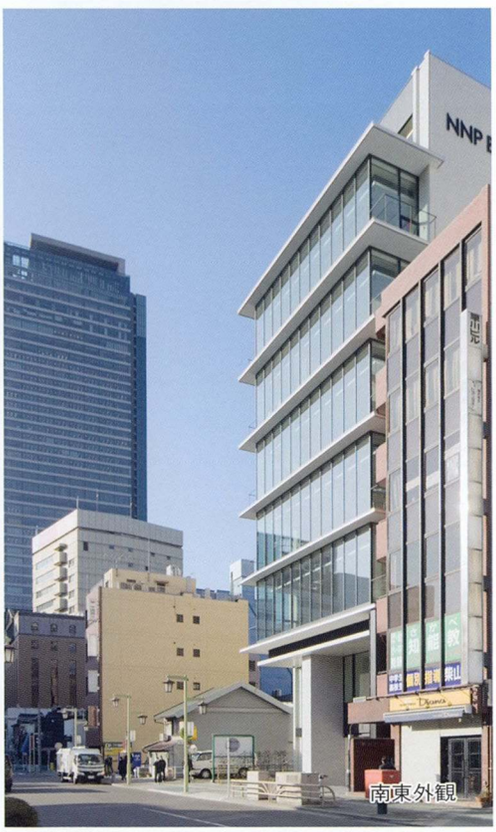
コーナー窓による視界の広がり



夕景の街並みに浮かび上がる南西外観



エントランスホール



南東外観

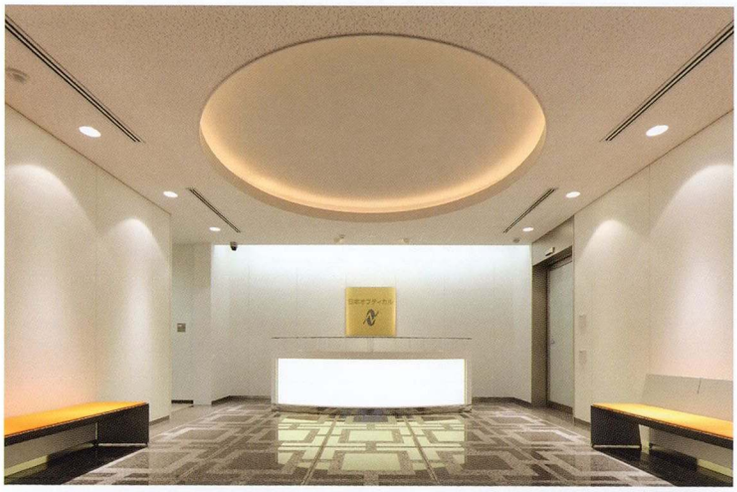
南西面外観

日本オプティカル本社社屋

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　清水建設名古屋支店

所 在 地 —— 名古屋市西区則武新町2-2205～2216
敷地面積 —— 1,392㎡
建築面積 ——　723㎡
延床面積 —— 1,423㎡
構造規模 —— S造、2F
工　　期 —— 2009年６月～2010年１月
最 寄 駅 —— 名鉄線　栄生駅
撮　　影 —— センターフォト

日本オプティカルはHeartUpのブランドで全国に店舗展開するコンタクトレンズ、眼鏡販売大手である。敷地は名古屋駅に程近い古くからの工場や長屋などの建て替えが進みつつある住宅地にあり、西側にはその代表ともなる旧豊田紡織本社工場跡を利用したトヨタ産業技術記念館がある。南、西、北の三方が道路に面しているもののいずれも幅員６m程度であるため、建物は２階建てとし道路境界から後退させ生活道路への圧迫感や北側住居への日陰を緩和するとともに建物と道路の間に緑地や駐車場を配置し環境貢献を図った。１，２階とも大部屋の事務室を北側に応接室、会議室、倉庫等を南側に配置し、日常の執務空間への安定した北側採光を確保し南からの熱負荷を遮断した。南面開口部には押出成型セメント板を使用した軽快な庇を、西面開口部には縦型アルミルーバーを設け日射遮蔽を図った。また、１、２階に分かれた大部屋の事務室の中央に縦の主動線である階段を配置して上下の執務空間の一体的な利用を可能にしている。　（鈴木慶智／伊藤建築設計事務所）



玄関ホール



事務室



南面外観

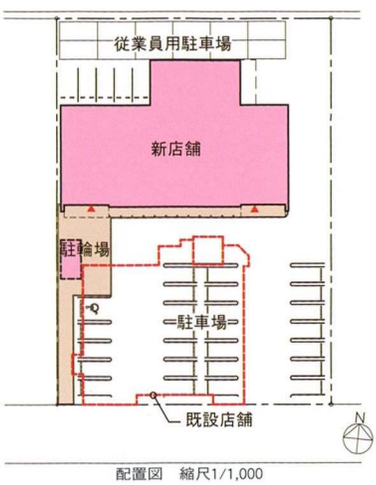
桑名信用金庫弥富支店

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　清水建設

所 在 地 —— 愛知県弥富市鯏浦町上六111
敷地面積 —— 1,870.54㎡
建築面積 ——　522.85㎡
延床面積 ——　897.46㎡
構造規模 —— S造　2F
工　　期 —— 2008年８月～2009年９月
最 寄 駅 —— 近畿日本鉄道名古屋線・近鉄弥富駅
撮　　影 —— センターフォト名古屋
　　東洋

「くわしん」の中心店舗の一つである桑名信用金庫弥富支店は、昭和46年に開店し、その後増改築により拡張して利用してきた店舗であるが、老朽化と耐震上の問題により建て替えを行なうこととなった。
従来は南側を店舗、北側を駐車場として利用されていたため、新店舗は既存駐車場に建設し、引越し後、既存店舗を取り壊し駐車場とする配置とした。これにより仮店舗を設けることなく、既存店舗を営業しながら建て替えることが可能となり、仮設費用の節約、仮移転による顧客離れの解消を図った。
新店舗は南側をカーテンウォールとし、明るく開放的な空間とした。従来店舗よりも面積にゆとりを持たせたロビーには休日対応用カウンターを設置し、応接室・応接用ロビーを併設することで、様々な顧客に対応できる地域密着型の店舗とした。

（上西真哉／伊藤建築設計事務所）



配置図　縮尺1/1,000



ロビー



応接用ロビー



総合相談センターと本店（右建物）

JA鈴鹿総合相談センター

建 築 主　鈴鹿農業協同組合
設計監理　東畑建築事務所
施　　工　三重農林建設

JA鈴鹿本店の敷地内への増築が今回の総合相談センターである。本店は鈴鹿市内のJAを統括する機能を集約しているが、総合相談センターはその本店機能の一部を移して休日でも営業ができるように企画された。業務内容が本店機能の一部に限られているため事務所としては非常にコンパクトにまとめることが要望された。
本店が重厚な雰囲気を醸しだしているのに対して、本施設はカーテンウォールのファサードの軽い表現とし、施設を訪れる客が気楽に入店できる雰囲気をつくった。
但し、本店が持つ水平のイメージは尊重し今回継承することにした。
平面は玄関ホールからすぐに階段という移動でセンター内の各室に容易に移動できる動線とし、利用しやすい計画とした。

（瓦田伸幸・林　彰吾／東畑建築事務所）



1階　玄関ホール

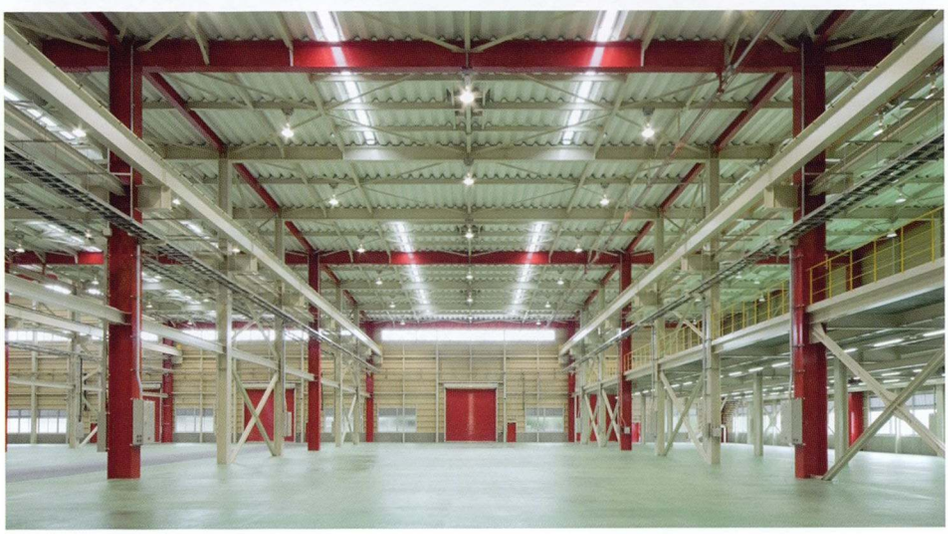


2階　ホール

所 在 地 —— 三重県鈴鹿市地子町1269番地
敷地面積 —— 12,409.01㎡
建築面積 ——　358.58㎡
延床面積 ——　617.54㎡
構造規模 —— S造、2F
工　　期 —— 2008年10月～2009年３月
撮　　影 —— エスエス名古屋







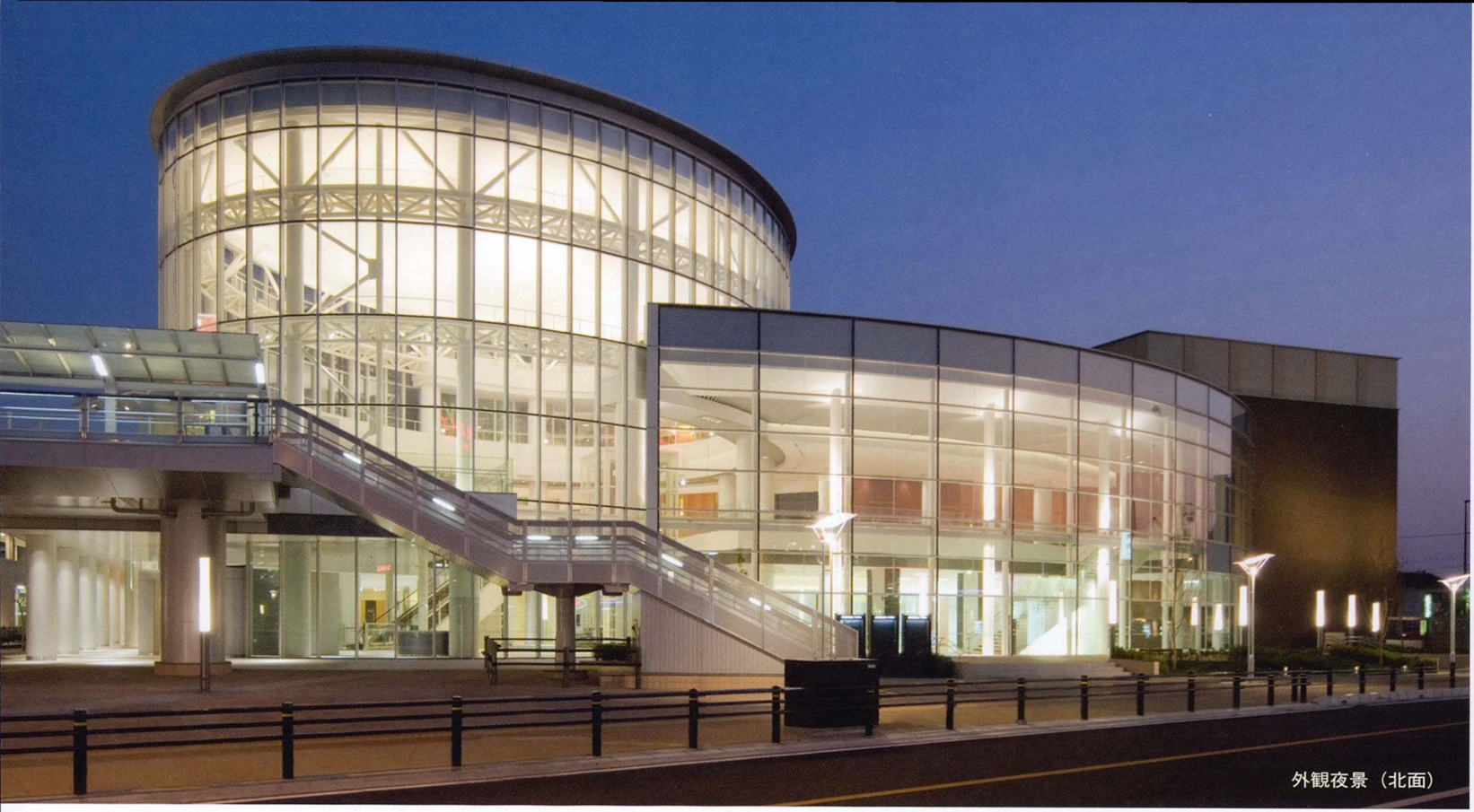
新東工業株式会社 新東エスビーテックカンパニー 一宮事業所 第1生産グループ 組立工場

設計監理　生活工房　仙　１級建築事務所
施　　工　錢高組名古屋支店

所 在 地 —— 愛知県豊川市大木町小牧180番地―他
敷地面積 —— 59,230.52㎡
建築面積 —— 6,029.60㎡
延べ面積 —— 6,842.50㎡
構造・規模 —— S造、1F（一部2F）
工　　期 —— 2009年２月～2009年７月
最 寄 駅 —— JR飯田線三河一宮駅
撮　　影 —— エスエス名古屋

計画地は豊川市の中心部より北に位置し、周辺は本宮山に連なる緑豊かな山並みを借景とし、南には静かな田園地帯が開けた丘陵地である。三河山地の南端部の旧扇状地に当たり、当地は主に洪積層の砂礫土質であり工場建設に適した地盤である。
この工場は昭和43年の操業で、その後も増改築されているが、今回は構内整備計画と併せ新たに別棟として組立工場を建設するものである。
これまでは既設工場内で部品製造から組立までを行っていたが、組立部門を独立し、生産効率向上のための新工場建設とそれに伴う構内整備を計画するものです。
工場の計画では、当工場での生産予定の全製品を考慮した最良の柱割と階高を検討すると共に、従来の作業の見直しと生産効率向上のための工夫・改善を対策立案するお客様のプロジェクト会議へ参加する事により、現場ニーズにも合った納得いただける新しいスタイルの新工場を計画し、建設する事が出来た。
内観・外観は、この企業のコーポレートカラーを考慮した明るく快適な配色とし、新工場にふさわしいデザインとした。
今後この建物は、これから建設の新工場のモデルとして、技術と信頼の経営理念を受け継いでいく次代を担う社員たちの創造と生産の場として、大いに活用いただけるものと思います。

（仙田　篤／生活工房　仙）



外観夜景（北面）

刈谷市総合文化センター

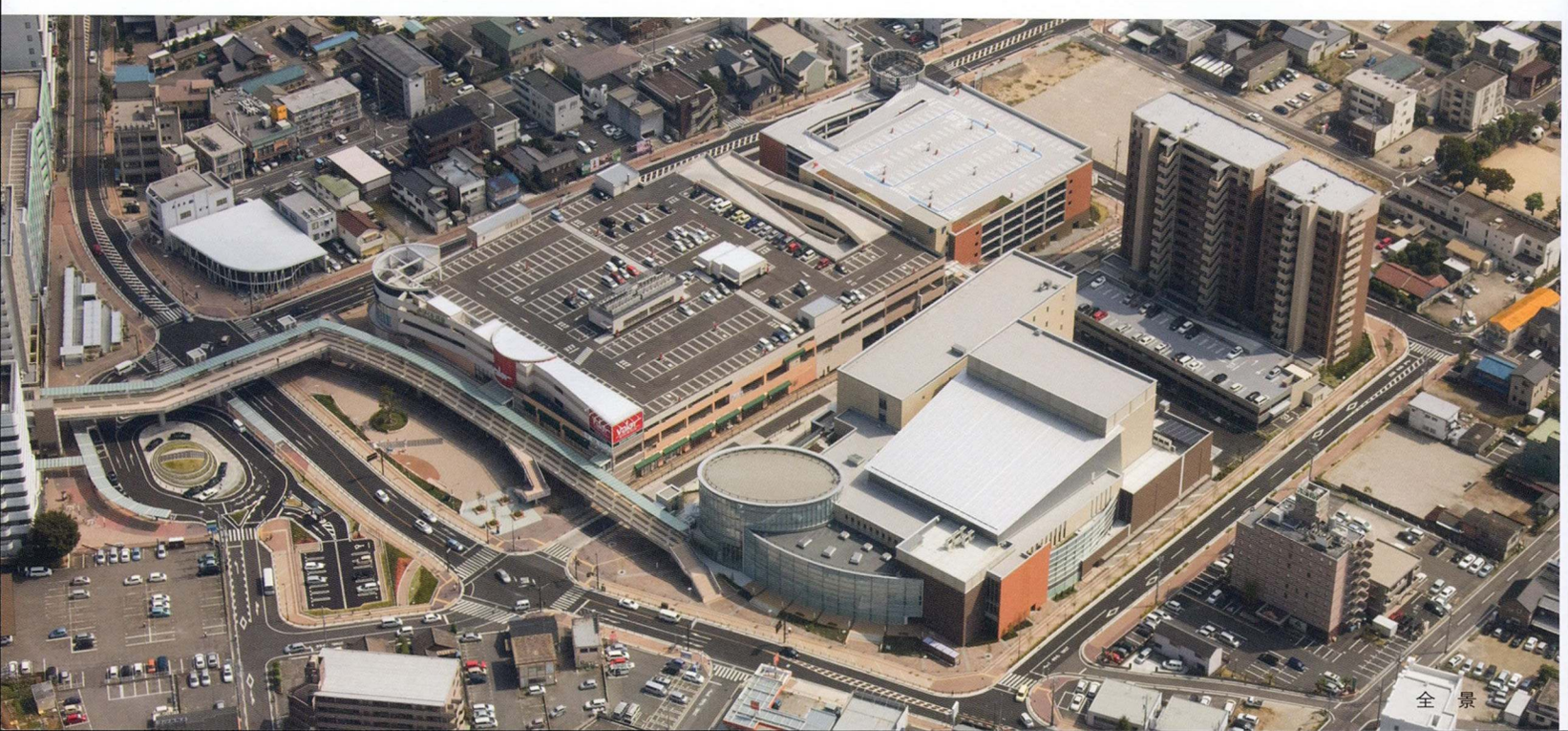
建　築　主　独立行政法人都市再生機構中部支社
設計監理　独立行政法人都市再生機構中部支社
　　建築：東畑建築事務所
　　設備：総合設備コンサルタント
施　　工　建築工事：竹中工務店
　　電気設備工事：栗原・日本電設JV
　　空調・衛生設備工事：新菱・三建・菱和JV

所 在 地 —— 愛知県刈谷市若松町2-104、102

刈谷市総合文化センター
　敷地面積 —— 11,765.98㎡
　建築面積 —— 8,004.83㎡
　延床面積 —— 22,785.10㎡
　構造規模 —— SRC造、S造、B1F、5F

刈谷市総合文化センター 駐車場
　敷地面積 —— 5,324.60㎡
　建築面積 —— 4,096.95㎡
　延床面積 —— 19,343.42㎡
　構造規模 —— S造、5F

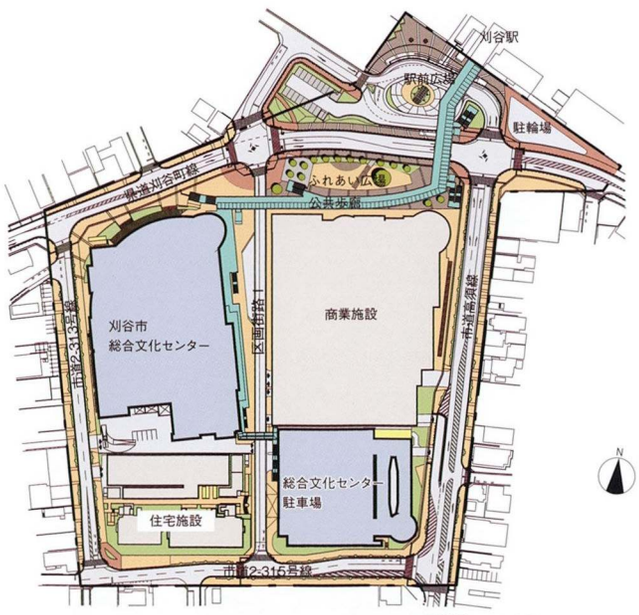
工　　期 —— 2007年2月～2009年8月
最 寄 駅 —— JR刈谷駅、名鉄刈谷駅
撮　　影 —— SS名古屋
　※1 東畑建築事務所



全景

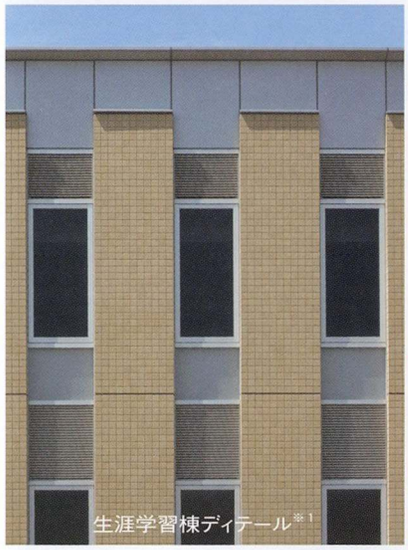

外観（西面）

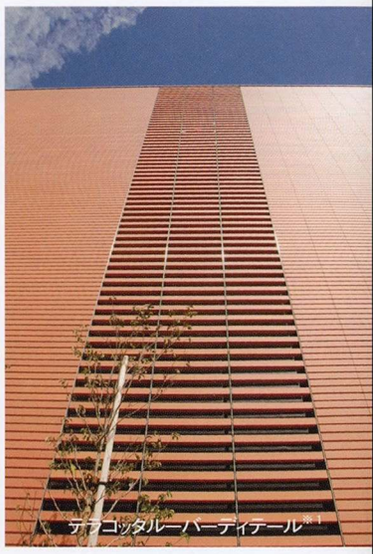
刈谷市は自動車関連企業の本社や関連工場などが集積する人口14万人の工業都市である。
本施設は平成８年に刈谷市が住都公団（現 独立行政法人都市再生機構）に事業協力を要請した刈谷駅南地区再開発事業の区域内にある。この再開発事業は地区を４敷地に分割し、４つの建築物（刈谷市総合文化センター（ホールおよび生涯学習施設）、同駐車場、民間事業者が整備する商業施設および住宅施設）と、公共施設（駅前広場、ふれあい広場、歩行者デッキ、連絡通路、道路等）から構成されている。
刈谷市総合文化センターは、２階レベルで駅および駐車場へアクセスできるようペデストリアンデッキを整備し、安全性・回遊性・利便性を高めた。また、幹線道路沿いには施設を特徴づけるアイポイントを設けて、街角のシンボルを創出した。
外観デザインは、駅前側を自動車産業をイメージした金属とガラスによる空間構成とし、「現代的・都市的なデザイン」を表現した。その象徴として、駅前のランドマークとなる楕円のアトリウムを配置している。それに対して、東西面は土の肌合いを感じるテクスチャーを持ったタイルを用いて、「温かみのあるデザイン」とし、建物を階段状にセットバックするなど、圧迫感を低減する工夫を行った。
また、古くからの地場産業である三州瓦をイメージさせる、いぶし調のタイルや、タイル工場の跡地という土地の記憶を継承するため、素焼きレンガの色をポイントカラーとして採用した。

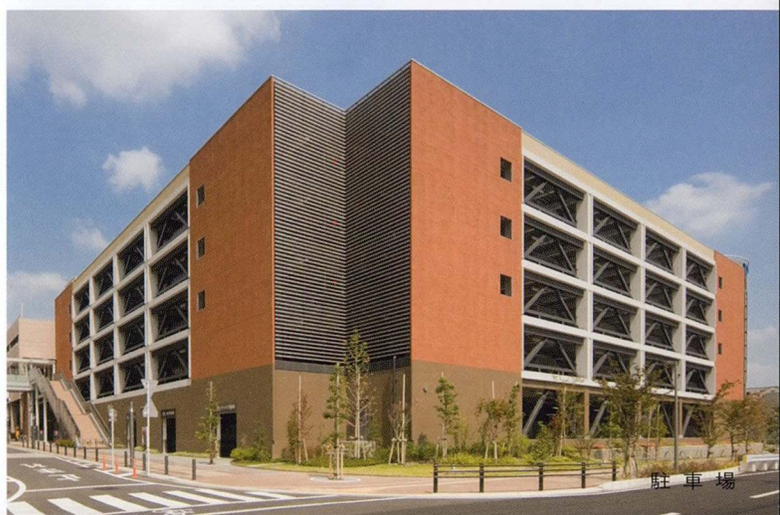


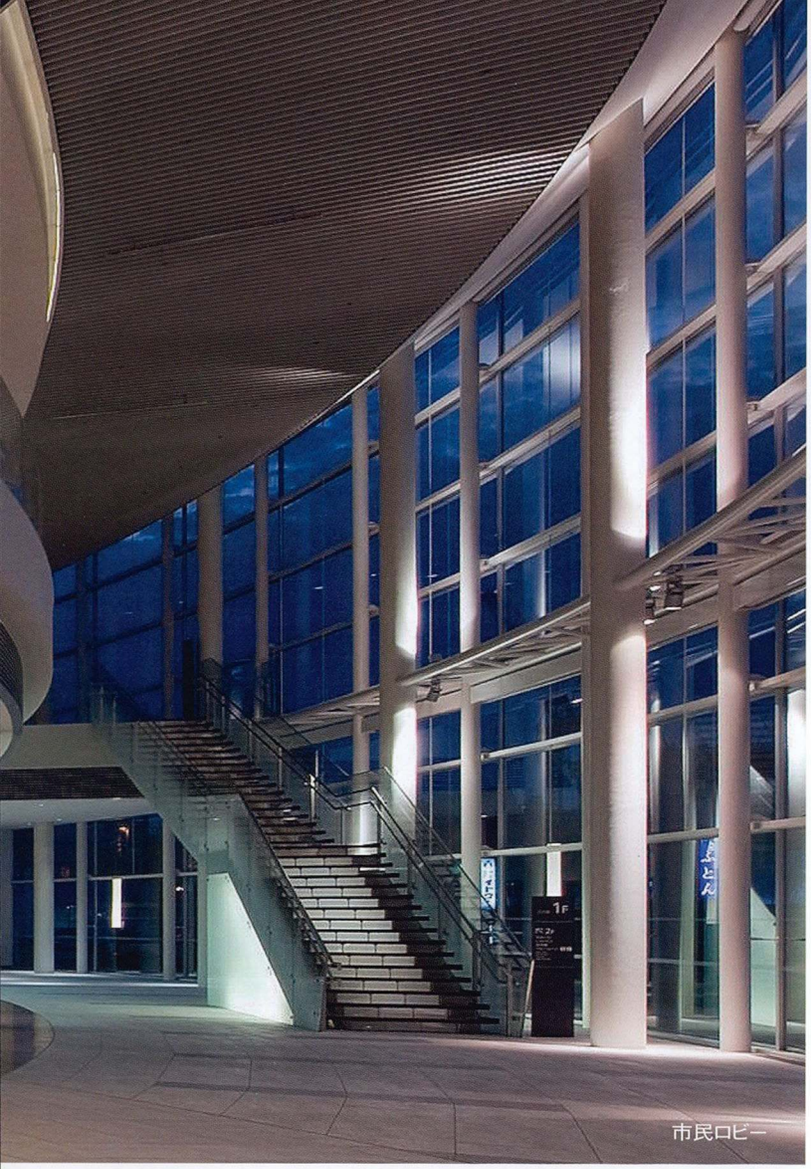
配置図　1：4000


外観（東面）


生涯学習棟ディテール※1


テラコッタルーバーディテール※1


駐車場


市民ロビー


エントランスアトリウム

来館者は、施設内各ゾーンに高さ約17mの吹抜空間であるエントランスアトリウムを介してアクセスする。また、そこから連続する市民ロビーはガラスカーテンウォールを通して内外の連続性を持たせることで「見る・見られる関係」を作り出し、施設内の活動が外部からも見ることのできる情報発信の場としている。

建物全体の中核施設に位置づけられる1541席の大ホールは、質の高い鑑賞空間を提供するプロセニアム形式の多目的ホールである。興行時のスムーズな動線確保のため、ペデストリアンデッキの接続する2階レベルをメインフロアとした。壁面は音の反射面や拡散面といった音響的な機能要素をフィンやリブとして際立たせ、デザインに組込んでいる。

また、282席の小ホールはロールバックチェアーを採用し、平土間形式から音楽形式、演劇形式、センターステージ形式と多種多様な用途に対応した市民芸術の発表・創造の場を提供している。

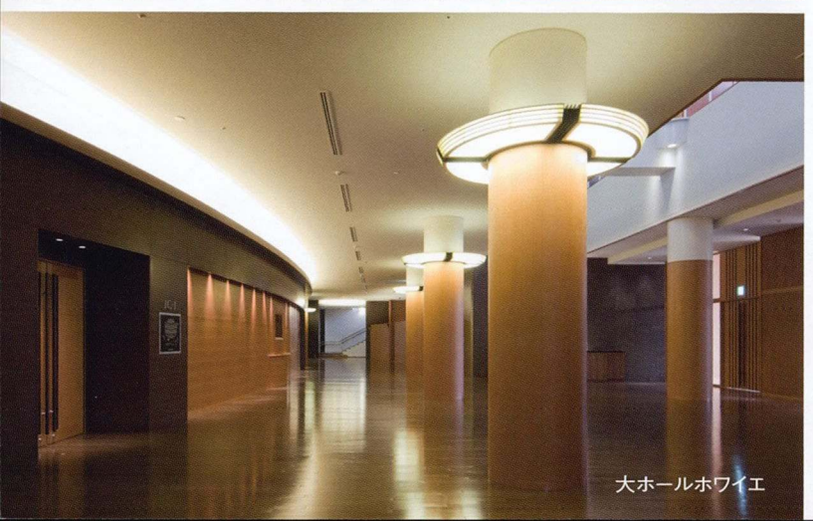
ユニバーサルデザインへの取り組みにも積極的に取り組みを行った。設計段階から工事期間中を通して、地元市民団体を中心にヒアリングを行い、壁際、段差や入口を目立たせる色彩計画やデザイン、緊急情報の提供の手法、聴覚障害者に対する鑑賞補助システムの導入、多目的駐車スペースの専用ゾーン化など、様々な利用者に対し、均一なサービス提供ができることを目指した。

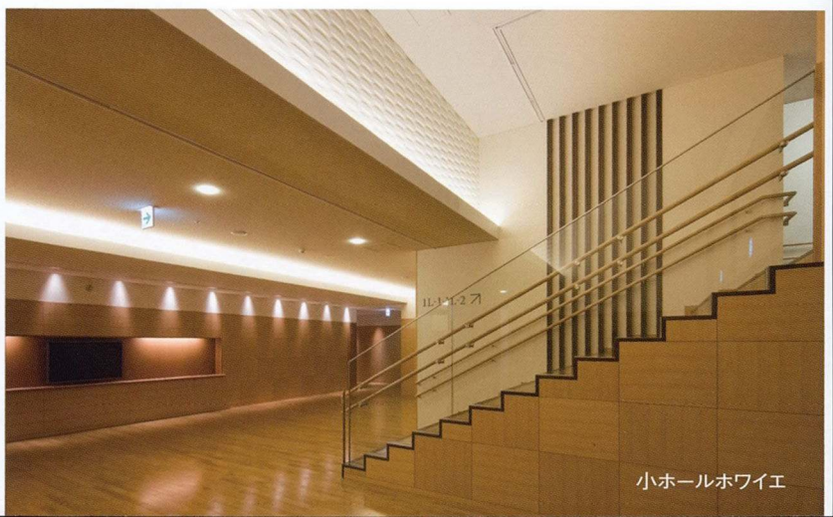
今後、この施設が芸術・文化活動や市民交流を通して、賑わいある「刈谷の顔」となることを願っている。

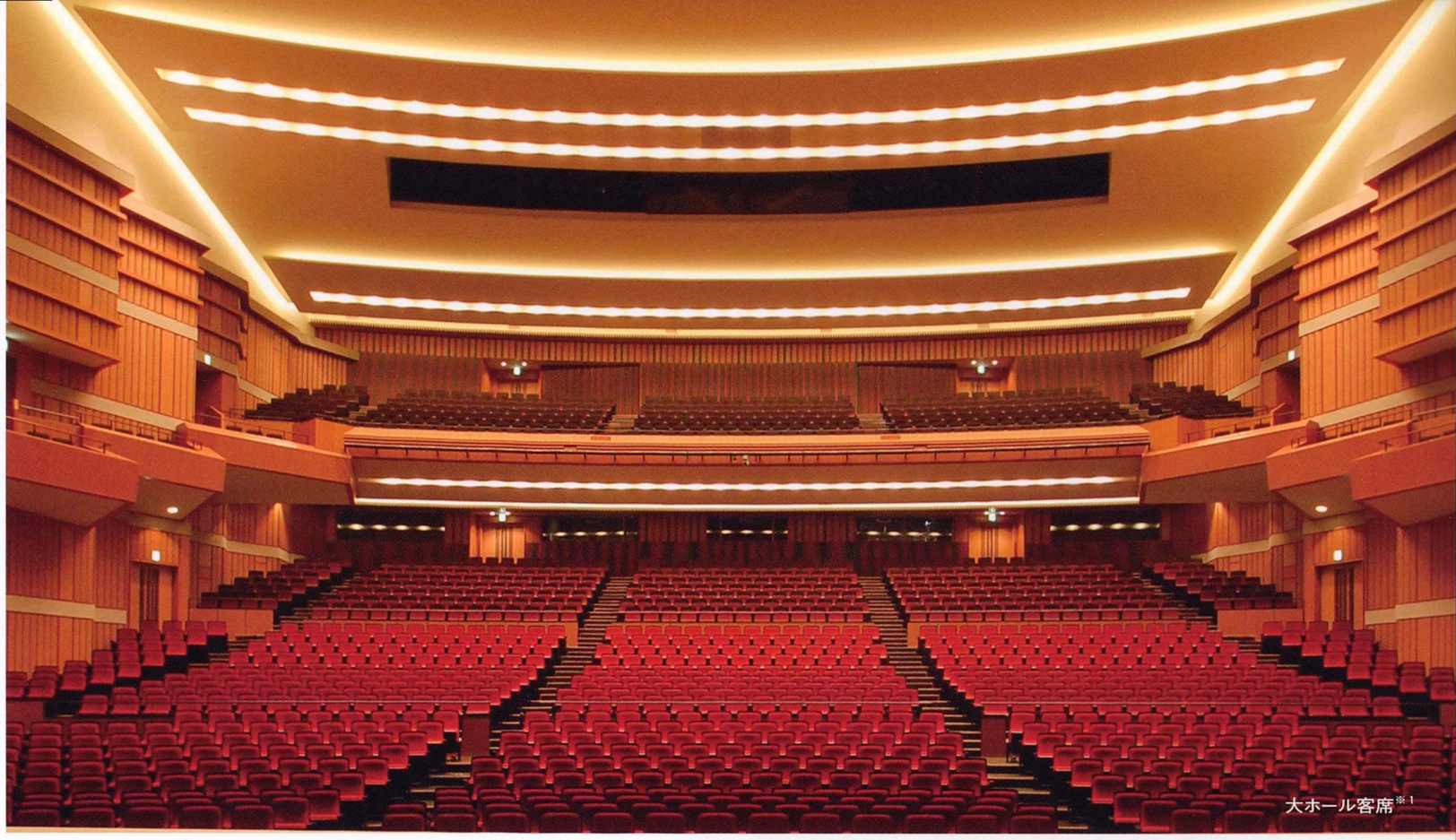
（米田　聡・西村浩樹・野呂和弘・小柳英治／東畑建築事務所）



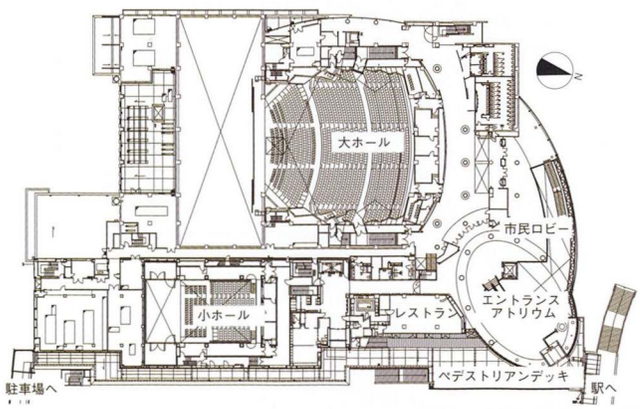
展示ギャラリー


大ホールホワイエ

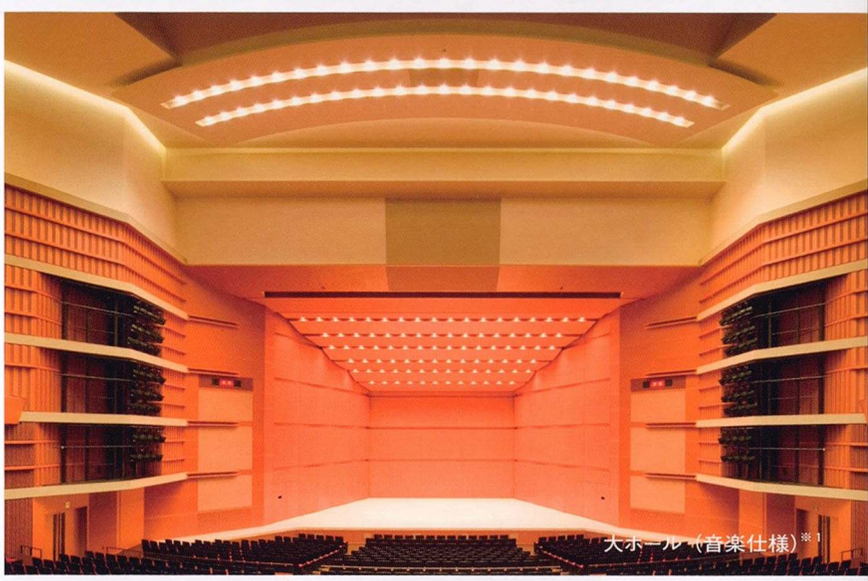

小ホールホワイエ



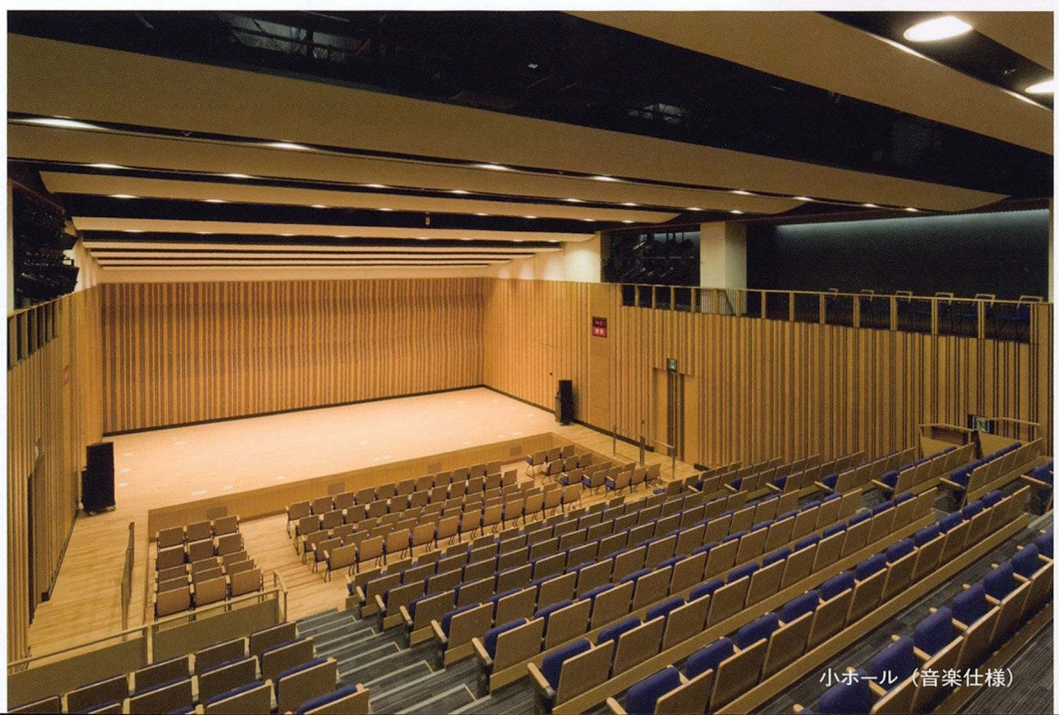
大ホール客席※1



2階平面図　S=1：1500



大ホール（音楽仕様）※1



小ホール（音楽仕様）



小ホール壁面ディテール※1



大ホール壁面ディテール※1



小ホール（平土間仕様）

北東側外観

金山センタープレイス

建 築 主　合同会社ヴィラ
設計監理　株式会社日建設計
施　　工　安藤建設株式会社

所 在 地 —— 愛知県名古屋市中区金山一丁目14番18号
敷地面積 —— 1,510.87㎡
建築面積 —— 1,353.63㎡
延床面積 —— 13,631.17㎡
構造規模 —— S造（地下１階：SRC造、地下２階：RC造）
工　　期 —— 2008年12月～2009年２月
最 寄 駅 —— JR金山駅、名鉄金山駅、地下鉄金山駅
撮　　影 —— 車田写真事務所



オフィスエントランスポーチ

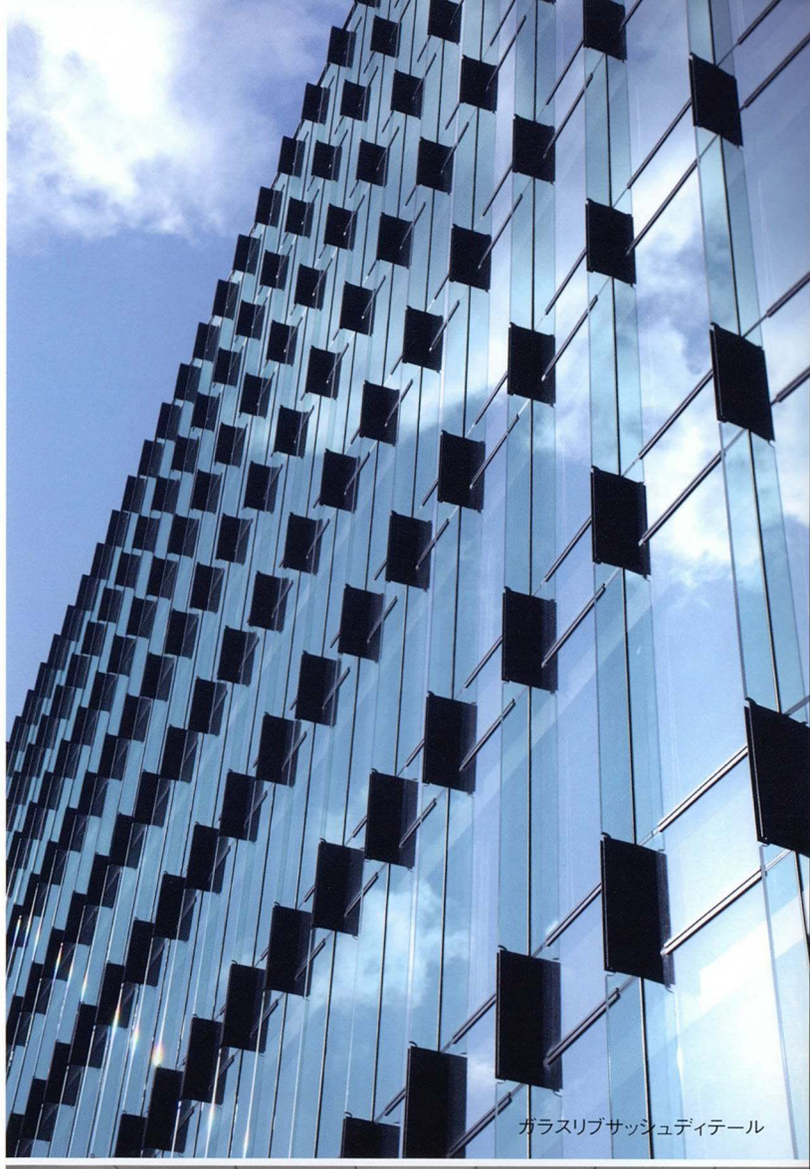

金山駅北口から見た西側外観

金山センタープレイスが位置する金山駅北口駅前は、商業・業務・文化ゾーンとして潜在力の高い地域であると共に、2005年中部国際空港開港を契機に「名古屋の南の玄関口」として、今後も大きく変化してゆくと期待されている。現在、敷地周囲は様々な用途・規模の建物が混在し、賑やかな看板やネオンサインに彩られた街並みである。我々は設計に際し、金山の「10年後の街並みに資する建築」をテーマに揚げた。

敷地は金山駅北口駅前広場に面した幅の細い島状のブロックで、三方をぐるりと道路に囲まれたロケーションである。我々は、街に開かれた角地側がこの建物の顔になると感じた。角地のコーナーは隅切によって多角形になっていることから、正面性のあるファサードは構成しにくい。我々は見る角度によって多様な表情を見せるなめらかな曲面により、この街角の風景をつくることを考えた。曲面のボリューム感を強調するため、外装には外付のガラスリブサッシュによるカーテンウォールを検討した。このガラスカーテンウォールはフロート合わせガラスのガラスリブをアルミ押出型材の鞘で支持するシンプルなディテールにより、一般的なアルミ方立のカーテンウォールと同等のコストで実現できた。熱線反射ガラスによる曲面のファサードは、日中から夕刻へ変化する街の風景を映し出し、ガラスリブの重なりと相まって見る角度や時刻によって多様に変化する。また、幸いなことに金山交差点側は日射による熱負荷が少ない北東向きであることから、窓は床から天井までガラス張りとし、縦枠のないシームレスな眺望が得られる開放的なオフィスが可能となった。一方、建物の正面玄関となる金山駅北口駅前広場側は、スクエアな石張りのファサードとし、窓には石材の竪ルーバーを設けることで夏の西日を遮蔽するデザインとした。

プランニングに際しては、オフィスワーカーが一日のほとんどの時間を過ごす「生活の場」としての観点から、エレベータホールや廊下、階段など動線の突き当たりや便所に窓を設けて自然光を採りこみ、日常的に外部の気配が感じられるように努めた。

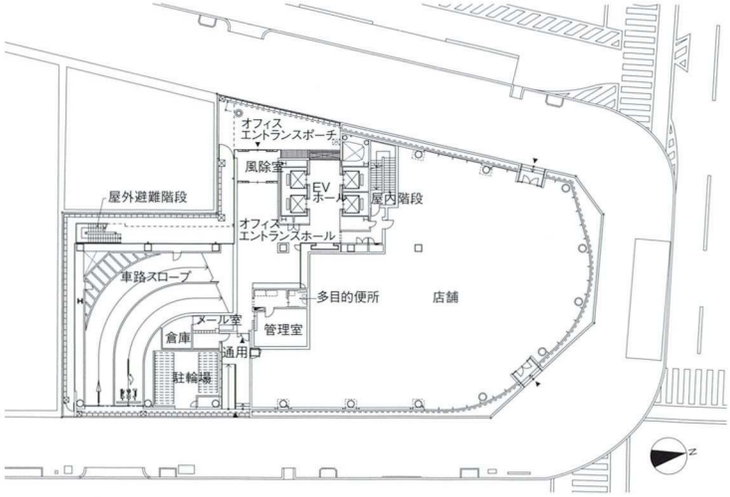
（村井達也・岡田宏介／日建設計）



ガラスリブサッシュディテール



基準階オフィス



1階平面図　1/800



北側遠景


PRADA
MILANO

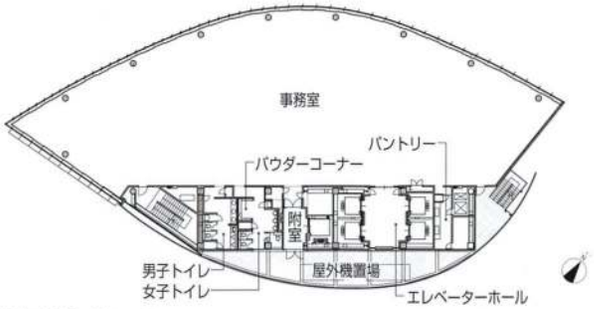
名古屋ビルデイング

建 築 主　名古屋ビルデイング株式会社
設計監理　日建設計
施　　工　清水建設

所 在 地 ――名古屋市中村区名駅4-6-18
敷地面積 ―― 1,589.63㎡
建築面積 ―― 1,238.35㎡
延床面積 ――16,576.70㎡
構造規模 ――S造、一部SRC造、RC造、-2+14F、P1
工　　期 ――2007年３月～2009年１月
最 寄 駅 ――JR名古屋駅
撮　　影 ――篠澤　裕

JR名古屋駅前のロータリーに面して建てられた「名古屋ビルデイング」は、名古屋駅前の戦災復興時代に、先駆けとして建てられた旧名古屋ビルデイングが老朽化したことに伴う建替えである。
名古屋駅前の顔として永く市民に愛された旧名古屋ビルデイングの歴史を踏襲する新たな顔となるビルとして、またミッドランドスクエアやルーセントタワーなどの超高層オフィスビルが建ち並ぶ駅前地区にあって、テナントを誘致できる魅力と地球環境に配慮した地域のモデルとなるオフィスビルをつくることがテーマであった。
駅前のロータリーに面して湾曲しながら大きな構えをつくるガラスカーテンウォールに、西日を遮るよう、絶えず真西に直角となるアルミ縦型ルーバーを設けることにより、見る位置や、時刻によって、表情が変わる繊細でアイデンティティのあるファサードを創出した。
名古屋駅から雨に濡れずにアクセスができるよう地下１階は地下街に接続し、その防災上の干渉空間として地下１階から２階までつながる３層吹抜けの商業施設が面するサンクンガーデンを設け、駅前の通りに対し開かれたピロティ状の足元空間を構成している。
屋上はルーフガーデンとして、季節ごとに色の変わる松葉菊、芝桜、ローズマリーなどの植物と駅前のロータリー側に開けた眺望が楽しめるオフィスワーカーのリフレッシュスペースとしてテナントユーザーに開放している。
また、駅前地区の環境配慮のモデルとして、屋上緑化、太陽光発電パネル、ライトシェルフなどの目に見える省エネ対策を積極的に採用し、LCCO2を30％削減する計画としている。

（若林亮、竹内稔／日建設計）



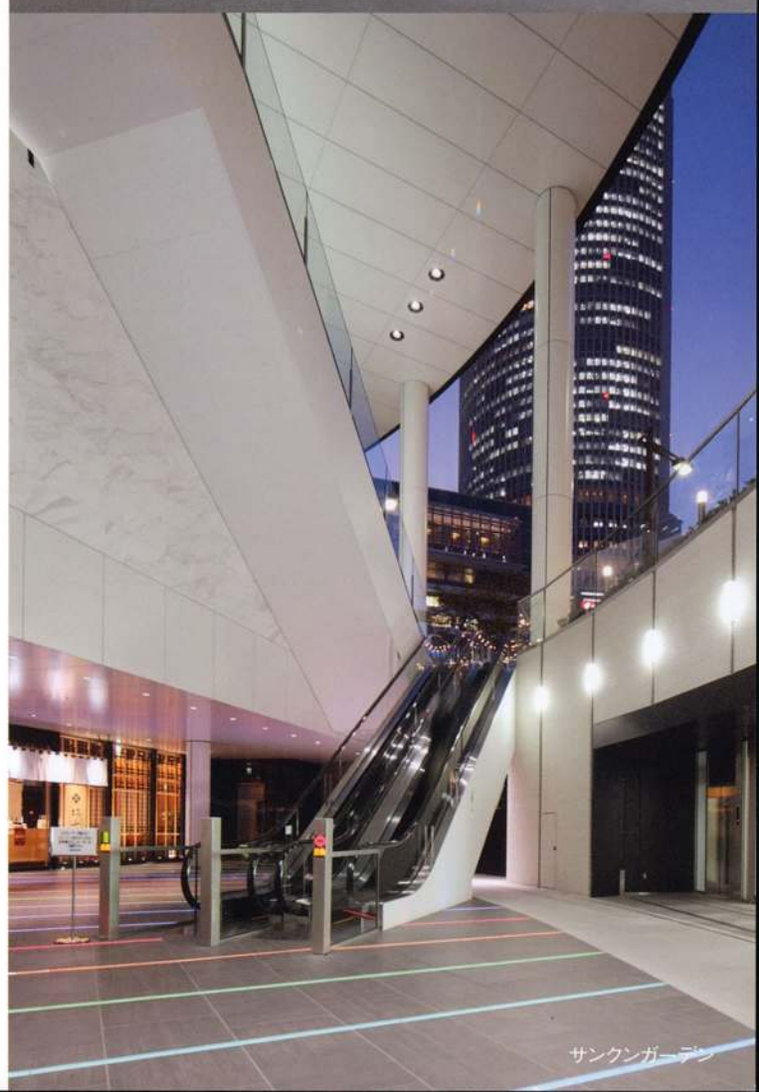
基準階平面図　縮尺1/800



配置図　縮尺1/5,000


ルーフガーデン


事務室

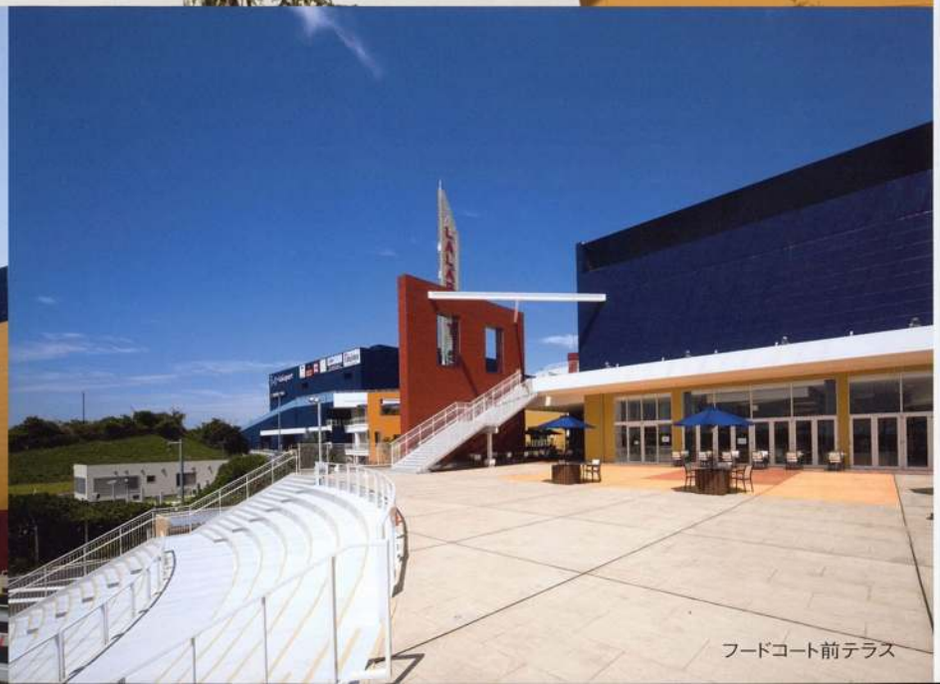

サンクンガーデン



シンボルタワーと屋外テラス



北面全景



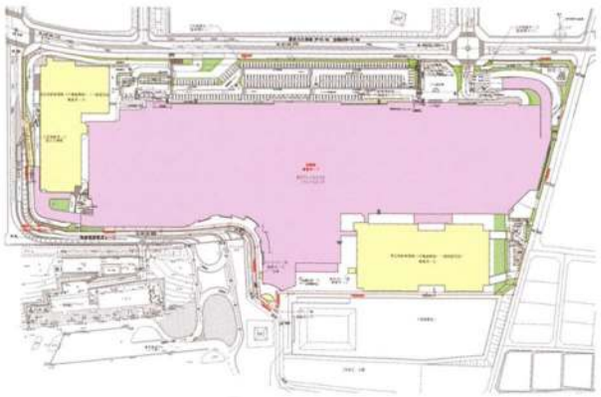
フードコート前テラス

ららぽーと磐田

デザイン監修　フェルナンド・バスケス+ＭＴＭインターナショナル
設計監理　大林組名古屋支店一級建築士事務所+アトリエG&B
施工　大林組名古屋支店

東名高速道路の浜松～磐田間にある遠州豊田PAにETCスマートICが設置されることを受け、地域活性化のための流通・集積拠点として整備された土地区画整理事業地内商業エリア内に、施主の三井不動産が展開する「ららぽーと」の全国で６店目、東海地方初出店のリージョナル型SCである。高低差のある敷地を活用した半地下駐車場と１～２階に物販＋飲食店舗、３階にシネマコンプレックス＋屋上駐車場で構成された商業棟を中心に２棟の立体駐車場棟を東西に配置、それぞれをブリッジで接続することで店舗へのアクセスを容易にしている。施設デザインは「丘の上にそびえる街」をモチーフとし、２層吹抜の広がりあるメインモールを軸に南欧の旧市街をイメージしたサブモールや屋外テラス、円形劇場風のイベント広場などが有機的につながり街歩きを楽しめるよう多彩な空間を演出した。

（今井亨・桜本敏樹・小西由彦／大林組設計部）



所在地――静岡県磐田市高見丘1200番地
敷地面積――69,390.03㎡
建築面積――46,579.92㎡
延床面積――136,136.15㎡
構造規模――S造、B1、4F
工期――2008年６月～2009年５月
最寄駅――JR東海道本線・磐田駅
撮影――SS名古屋


メインモール


サブモール

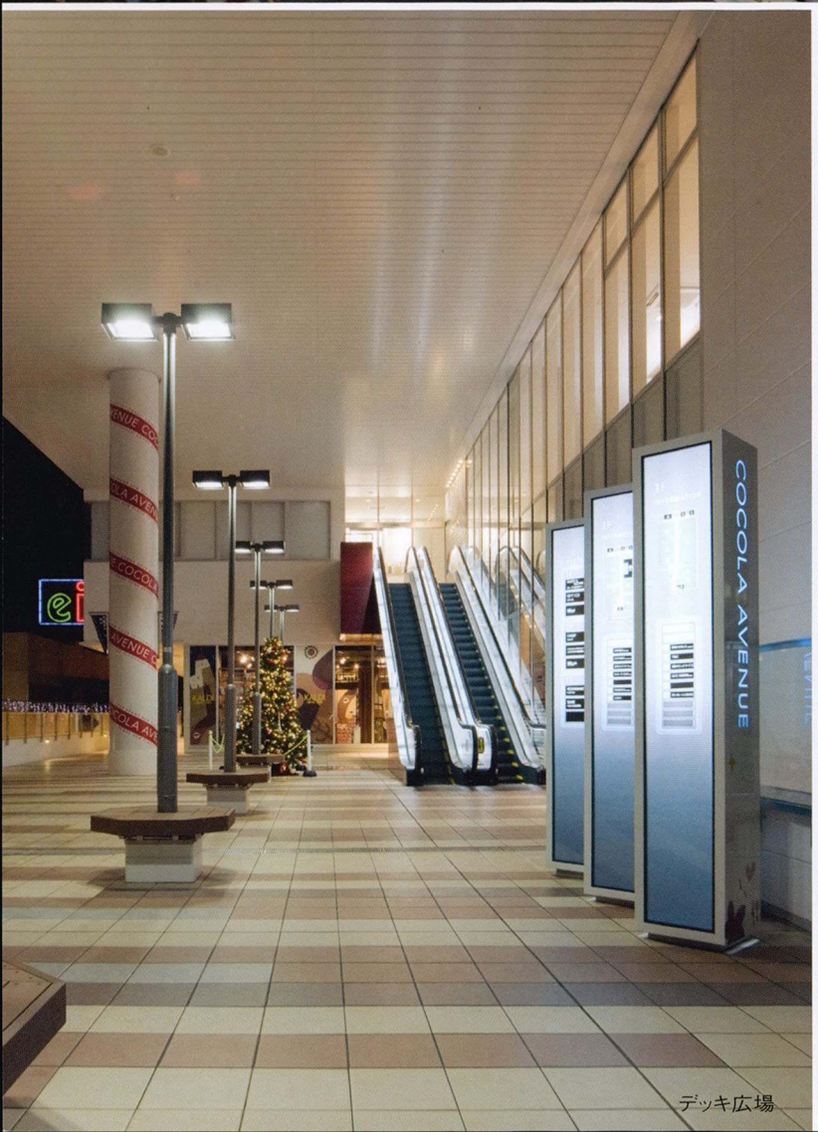

フードコート



遠州豊田PAより南面



東側外観



デッキ広場



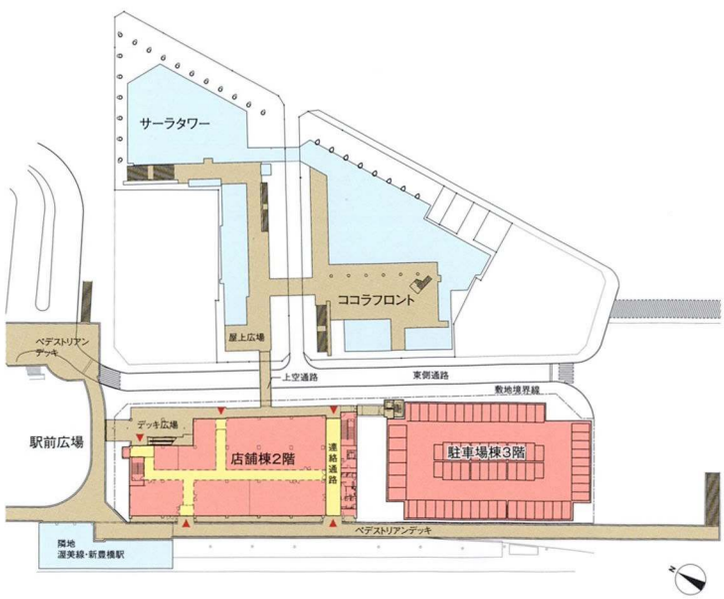
1階エントランス部グラフィックサイン

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　大成建設

豊橋駅東口複合商業施設
「ココラアベニュー」

豊橋駅前再開発事業により移設された豊橋鉄道の線路敷きに、JR貨物がまちなか活性化を意図して計画した複合商業施設である。南北に長い敷地のうち駅に近い北側に３階建ての複合商業施設、南側に立体駐車場を配置した。２階レベルでの駅前デッキにより豊橋駅及び敷地南に計画される公共施設へと接続し、拡幅された東側道路の上空通路によりココラフロント及びサーラタワーに連絡している。駅前広場に面する１階には金融機関を設け、ココラフロントに連続する東側道路側にはオープンテラス風の路面式の飲食店として、地区全体の雰囲気作りを考えた。駅前デッキと接続する２階部分には大屋根の下にエスカレーター及びシースルーエレベーターを設けて賑わいのあるデッキ広場を創出した。

（篠原佳則／安井建築設計事務所）



配置図兼２階平面図　1/2000

建 築 主 —— 日本貨物鉄道株式会社
所 在 地 —— 愛知県豊橋市花田町
敷地面積 —— 4,602.7㎡
建築面積 —— 3,854.32㎡
延床面積 —— 12,595.09㎡
構造規模 —— 商業施設：S造　３階建
　　駐車場：S造　４階建
工　　期 —— 2008年９月～2009年10月
最 寄 駅 —— JR豊橋駅、名鉄豊橋駅、
　　豊橋鉄道新豊橋駅
撮　　影 —— SS名古屋（新名　清）



北側外観



西側デッキ



東側道路



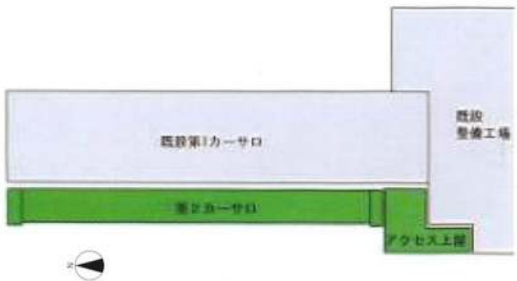
２階店舗

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 第２カーサイロ

建　　築　　主　フォルクスワーゲン グループ ジャパン株式会社
基本設計・工事監修　東畑建築事務所
詳細設計・工事監理　IHI
施　　工　IHIロジテック
施　工　協　力　鈴与建設

フォルクスワーゲン グループ ジャパン株式会社（VGJ）は、ドイツに本社を置くフォルクスワーゲンの日本に於ける輸入販売拠点となる会社である。本施設は、本国からの船便で陸揚げされた車輌を格納する２番目のASB（Auto Stack Building）＝建屋一体型自動倉庫である。海浜地帯（三河港・渥美湾）である明海地区産業団地の一角に位置しており、第１自動倉庫と広大な敷地内に平面駐車を行っていたが、それでも不足となり計画された。
総格納台数は1,234台で、格納パレットはフォルクスワーゲンを始めアウディ、最大車重3.0tのベントレー、最低車高90mmのポルシェGT3、全幅2240mmのランボルギーニまで対応可能である。このパレットを２台の高速スタッカークレーン（荷昇降・走行式クレーン）で各棚へ格納していくシステムである。
既設整備工場よりアクセス上屋を経てカーサイロ（立体自動倉庫）にアプローチする動線とし、倉庫内を一方通行として入出庫の混雑やタイムロスが生じないよう配慮している。また、システムも複雑にしないためドライバーが搬送台車まで直接運転し乗り入れを行う方式を採用している。なお、床舗装はタイヤの回転による舗装材の巻き上げに配慮し、特に新旧境は入念な施工を行っている。なお外部色彩（特にサイン等）には、三河湾明海地区産業団地建築協定で定められている許容範囲内でサイン計画等が行われた。

（井上哲也／東畑建築事務所）



配置図　1：3500

所 在 地 —— 愛知県豊橋市明海町５番地の10
敷地面積 —— 211,199.00㎡
建築面積 ——　3,885.56㎡
延床面積 ——　16,915.48㎡
構造規模 —— S造、平屋建て
工　　期 —— 2008年５月～2009年２月
撮　　影 —— IHI、東畑建築事務所


立体自動倉庫西側外観


立体自動倉庫北西外観


立体自動倉庫内部


立体自動倉庫出庫部



KDX名古屋栄ビル

企画開発　株式会社ウッドフレンズ
設　　計　株式会社ケイプラン
施　　工　株式会社竹中工務店名古屋支店

所 在 地　名古屋市中区栄４丁目５番３号
敷地面積　1,192.25㎡
建築面積　1,032.45㎡
延床面積　10,848.45㎡
構造規模　S（柱CFT）、一部RC、免震構造、11F
工　　期　2008年３月１日～2009年７月１日
最 寄 駅　地下鉄東山線・名城線栄駅



神領駅北分譲１期

企画開発　株式会社ウッドフレンズ
設　　計　株式会社住空間研究所
施　　工　株式会社ウッドフレンズ

所 在 地　春日井市神領町字東上田222番６他
総区画数　62区画中20区画
敷地面積　140.08～174.31㎡（１区画当たり）
建築面積　56.48～ 69.74㎡（１区画当たり）
延床面積　106.00～123.98㎡（１区画当たり）
構造規模　W
工　　期　2008年12月～2009年３月
最 寄 駅　JR中央本線「神領」駅　徒歩８分



有松駅北分譲１期

企画開発　株式会社ウッドフレンズ
設　　計　株式会社住空間研究所
施　　工　株式会社ウッドフレンズ

所 在 地　名古屋市緑区鳴海町字姥子山22番383他
総区画数　66区画中10区画
敷地面積　160.01～193.81㎡（１区画当たり）
建築面積　53.45～ 74.43㎡（１区画当たり）
延床面積　102.70～127.95㎡（１区画当たり）
構造規模　W造
工　　期　2008年12月～2009年３月
最 寄 駅　名鉄名古屋本線「有松」駅　徒歩11分



三重交通伊勢営業所

設　　計　東畑建築事務所
施　　工　日本土建・三交ホーム建設工事共同企業体

所 在 地　三重県伊勢市神田久志本町1500-1
敷地面積　3,698.61㎡
建築面積　900.80㎡
延床面積　1,514.57㎡
構造規模　S、2F
工　　期　2009年４月～2009年12月
最 寄 駅　近鉄宇治山田駅



北名古屋市立西春中学校（環境省学校エコ改修モデル事業）

設　　計　東畑建築事務所
施　　工　三山建設

所 在 地　北名古屋市立西之保八龍50番地
敷地面積　13,443㎡
建築面積　3,920.24㎡
延床面積　6,179.77㎡
構造規模　RC・S、3F（15＋１クラス）
工　　期　2007年８月～2008年10月
最 寄 駅　名古屋鉄道西春駅



鈴鹿コミュニティー

設　　計　東畑建築事務所名古屋事務所
施　　工　大林組

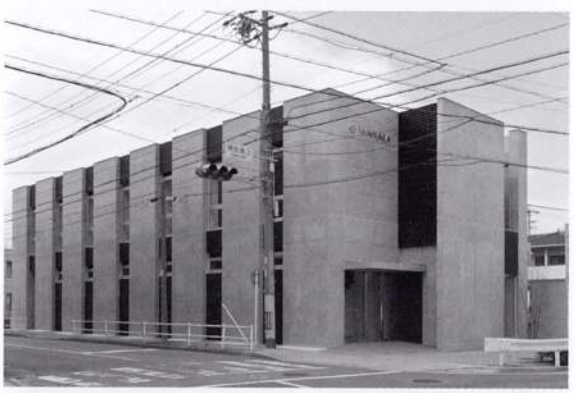
所 在 地　三重県鈴鹿市住吉町字谷口8946他
敷地面積　8,576.19㎡
建築面積　1,454.03㎡
延床面積　2,661.99㎡
構造規模　S、一部RC、3F
工　　期　2008年８月～2008年12月
最 寄 駅　近鉄平田町駅



グランデ陽明

設　　計　竹中工務店
施　　工　竹中工務店

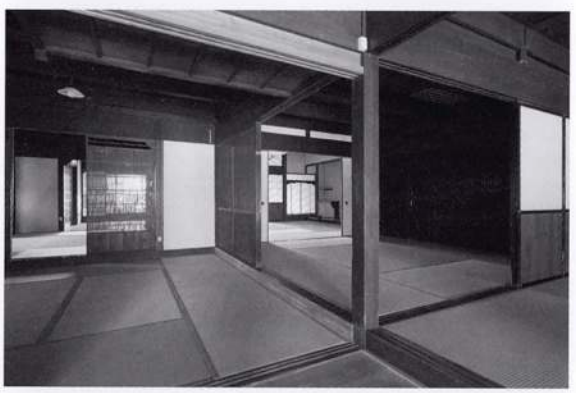
所 在 地　名古屋市瑞穂区田辺通3-16
敷地面積　2,401.70㎡
建築面積　941.29㎡
延床面積　2,298.16㎡
構造規模　RC、3F
工　　期　2008月10月～2009年７月
最 寄 駅　地下鉄桜通線瑞穂区役所駅



和中商店名古屋事務所

設　　計　竹中工務店
施　　工　竹中工務店

所 在 地　名古屋市中村区黄金通3丁目33番・34番
敷地面積　268.74㎡
建築面積　268.74㎡
延床面積　523.33㎡
構造規模　RC、2F
工　　期　2008年８月～2009年２月
最 寄 駅　地下鉄桜通駅中村区役所駅



旧舘家住宅　築133年（亀山市教育委員会所有文化財）

設　　計　中浦建築事務所
構造担当　上地木材一級建築士事務所（寺本　武司）
施　　工　服部美建株式会社

所 在 地　三重県亀山市西町410
建築面積　224.72㎡
構造規模　木造軸組２階建
工　　期　2009年３月25日～2010年９月30日　耐震改築工事
最 寄 駅　JR亀山駅
写　　真　米田正彦
他　　東海道53次の宿場町亀山―関街道に位置する旧呉服問屋プランも当時のファッションの最先端を感じさせられます。



慈雲寺　本堂　（諏訪市　文化財）

設　　計　上地木材一級建築士事務所
構造担当　野島一級建築士事務所
施　　工　カナメ名古屋支店

所 在 地　長野県諏訪郡下諏訪町東町　中606
建築面積　268㎡
構造規模　木造軸組工法
工　　期　2009年４月～2009年11月　本堂耐震工事
最 寄 駅　JR中央本線下諏訪駅
他　　臨済宗妙心寺派の寺院で江戸時代後期の臨済宗本堂の特色を生かした建築である

特集

東海支部復活50周年記念号

東海―TOKAIオムニバス

“東海の風”

東海支部は昭和22年に一度設立されたものの昭和25年に解散され、再度昭和35（1960）年10月15日に支部が復活、本年10月15日で支部復活50周年となります。従って、今年の東海支部特集は支部復活50周年記念号として位置づけ、支部会員作品集と支部特集〈TOKAIオムニバス〉を企画することに致しました。

一昨年のリーマンショック以来、未だに景気回復の兆しが見えない混沌とした中ではありますが、支部会員作品集は昨年の以上の15作品（27P）が集まり、ここ数年間で最も多い作品数となりました。

新シリーズ５年目となります「街道・宿場町シリーズ」につきましては一つの節目として、また支部復活50周年記念として、今までとは異なり支部会員自らの寄稿によるシリーズ「身近な街道、宿場町：愛知」として構成してみました。

「国際生物多様性年」でもある本年は名古屋市におきまして“COP10（生物多様性条約第10回締約国会議）”が開催されます。従って、今年の「東海の建築事例紹介」は“環境/エコ”をテーマにした試みの事例紹介としました。会員の皆様が今後活用できる資料として出来るだけデータ等も記載するように致しました。

「支部会員が語る」につきましては、東海支部復活当時の状況についてよくご存じの元支部長でもある“中島一氏”にお願い致しました。

この度の特集にも、お忙しい中、ご執筆を頂きました方々をはじめ、多くの方のご支援ご協力を頂きました。深く感謝致します。

（東海支部特別編集委員会）

■身近な街道、宿場町：愛知
―愛知の街道…東海道を中心に―／河田克博
―有松から宮宿へ　受け継ぐものと伝えるもの／谷淳之介
東海道二川宿　本陣・旅籠屋の復原と町並み景観整備／澤村喜久夫
岩倉街道　名古屋城下の台所を担った岩倉街道／中村哲士
小牧・犬山の街道今と昔／今津芳清
帝国ホテルスダレ煉瓦の里「常滑」／福田泰造
レトロ建築探訪／加藤亜紀子

■東海の建築：環境／エコ
～緑化推進のプラットフォーム～
大島造園土木株式会社豊田支店／株式会社伊藤建築設計事務所
～太陽光パネルを取込んだファサード～
NTN株式会社要素技術研究開発センター／株式会社大林組
～ずらした壁がもたらす自然光～
みなと医療生協協同組合宝神生協診療所／株式会社竹中工務店
～今あるものを活かした学校の再構築～
西原中学校―環境省モデル校―／株式会社東畑建築設計事務所
～西日遮蔽ルーバーとダブルグレージングでファサードをつくる～
名古屋ビルデイング／株式会社日建設計
～ガラスアトリウムのハイブリッド空調換気システム～
アクア・トト／株式会社安井建築設計事務所

■東海支部会員が語る
東海支部復活の経緯とその後／中島　一

身近な街道、宿場町：愛知

序文にかえて

—愛知の街道 …東海道を中心に—

名古屋工業大学大学院
ながれ領域教授

河田克博

■愛知をとりまく主街道

現在の愛知県は、江戸期の尾張（愛知県西部）と三河（愛知県東部）が合体したものである。そこをとりまく街道は、比較的平坦な地が広がる地形から、主副さまざまな街道が発達していた。副次的な街道としては、前回[1]触れた三州街道など多数の街道があるが、今回はいよいよ主街道についてみていきたい。

愛知県の主街道は、なんといっても東海道である。東海道については、あとで詳しくみていくが、東海の府、名古屋城下は、厳密には東海道には接しておらず、東海道の宮（熱田）から本町筋をたどって北上するアプローチとなっていた。明治時代になって郵便制度が生まれた当初は、東海道を基盤にする関係から、最寄の郵便局は名古屋ではなく熱田に置かれていた。

また中山道は、東海道とともに日本の五街道の一つであるが、愛知県は全く通っておらず現在の岐阜県を貫いていた。したがって、江戸（東京）方面から中山道を通って名古屋に寄ろうと思えば、中山道の大井宿から次の大久手宿の間にある巻金から分岐し釜戸・土岐や坂下（ばんげ）を経て名古屋に至ることになる。この街道を、巻金からは伊勢海道、名古屋方面からは木曽路と呼んでいた。現在の高速道路中央道にほぼ重なる。また、名古屋から清洲や大垣を経て再び中山道の垂井宿に至る街道があり、垂井からは名古屋海道、名古屋からは美濃路と呼んでいた（**以上、図1参照**）。

■愛知の東海道宿

愛知県を貫く東海道の各宿が、江戸時代にどのようにみられていたのかは、『東海道名所図会』が詳しい。『東海道名所図会』は、京（京都）から江戸（東京）に向け東進する形で説明されている。本稿も東進しながら、愛知の東海道宿をみていく。愛知に至る直前の宿は現三重県（伊勢国）の桑名である。桑名から次の宮（熱田）までは陸路を歩む手段もあるが、県境（国境）に木曽川・揖斐川の大河があり、津島渡（つしまのわたり）などがあるが、水量が多いと渡船が航行するのが困難であるところから、桑名から熱田にかけて伊勢湾を大型船で航行する海路が元和2年（1616）に開かれた（**図2**）。海路7里であるところから、これを「七里の渡し」というが、東海道全体で海路を利用するのはここだけであるから、東海道は、実質的にこの年に整備・完成したことになろう。

〔宮（熱田）〕 尾張から伊勢にかけての七里

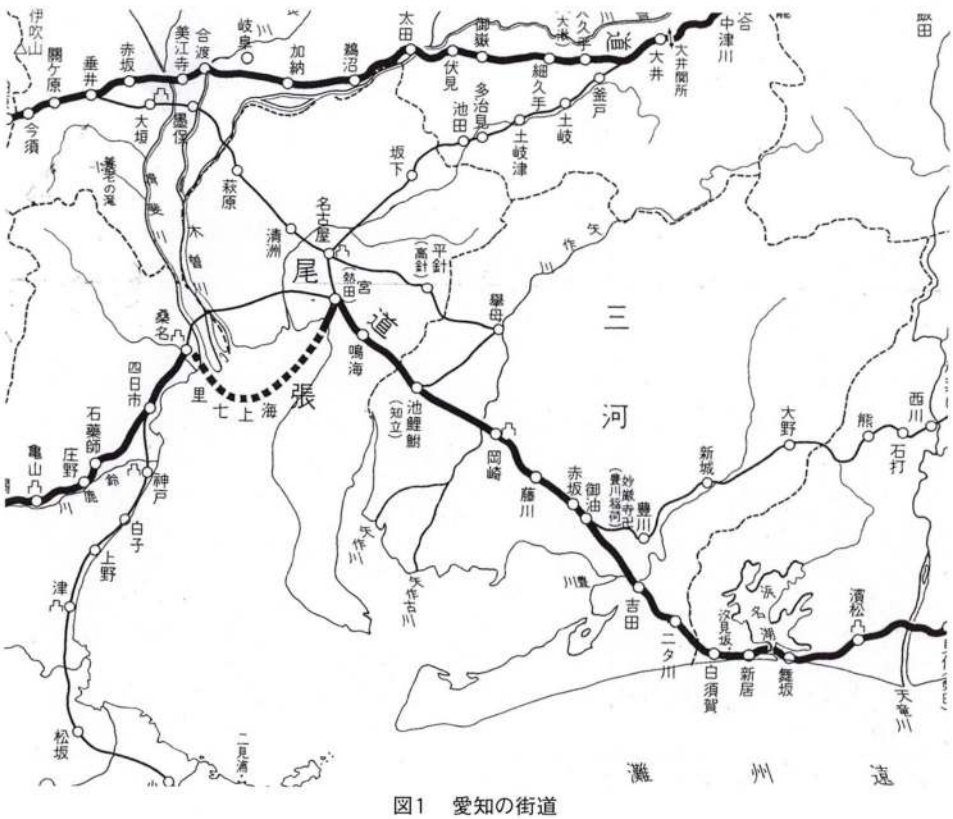


図1　愛知の街道

の渡しの拠点となる宿で、名古屋城下に最も近い。古来重要な神社である熱田神宮が近接するところから、港の際に鳥居がいくつか建てられていた。熱田港には常時大型渡船75隻が用意されていたが、遠浅のため接岸できないときもあるため、小型船42隻も用意されていた。江戸時代末期には、家数2924軒、本陣２軒、脇本陣１軒、旅籠248軒で、東海道最大の宿場町として繁栄していた。現在の熱田港は、近代以降の整備で『図会』にみるような景観はないが、再現された常夜灯と時の鐘がかろうじて七里の渡しの面影を伝えている。

〔鳴海〕　鳴海宿のあった旧東海道は、緩やかな南だれで、街道の西側は北側の高見に向かっている。街道の北側には、神社、寺院、城跡があり、街道を見下ろしている。『図会』には、鳴海神社の挿図があり、近くの伊勢湾も描かれている。現在の町並みには所々に江戸時代の面影が残るが、景観として連担してはいない。宿場町の趣が感じられる建物が一部に再現されているが、全体の景観整備には至っていない。東海道の旧町並みが感じられるのは、むしろ、鳴海の次の池鯉鮒（知立）宿に至る途中にある有松の町並みである。

有松は宿場町ではない。宿と宿の間の合宿で、旅人の休憩のみを許し宿泊は許されなかった、いわゆる茶屋集落を起源としている。しかし、桃山時代の慶長年間に有松絞が考案され、その後の有松の繁栄を支える主要産業として発展していくこととなった。有松絞は、数々の改良を加えられ全国に知られる名産となり需要が拡大していき、尾張藩の産業保護政策も手伝って、天明元年（1781）には、戸数111戸、萱葺の建物242棟からなる小工業都市となっていた。『図会』には、その頃と思われる挿図が載せられる（**図３**）。しかしその後、天明４年に大火があり、全村



写真１　現在の有松の町並み

の大半を焼失した。その復興に当たっては防火を考慮して、従来の萱葺を瓦葺に改め、壁面も塗ごめ造とし、塗ごめの土蔵を街道に面したり、卯建を設けた建物も建てられていき、幕末の文久２年（1862）には、往還並屋敷190軒を数えるに至った。現在残る９軒の江戸期の建物は、この間に建てられたもので、とくに絞商は構えが大きく広壮なものが多い（**写真１**）。その後、明治期から大正・昭和初期にかけて、江戸期の建物に準じた建物が建造されていき、旧東海道の町並みを比較的よく連担させて残しているのが、現在の有松の町並みの重要な特色といえる。

〔池鯉鮒（知立）〕　現在の知立には、旧東海道の面影はほとんどみられない。『図会』には、「知立神社」と「池鯉鮒駅の馬市」の挿図が載せられ、当時の様子がうかがえる。池鯉鮒の次の宿は岡崎宿であるが、その途中に矢矧（矢作）川があり、東海第一の長橋が掛けられていた（**図４**）。

〔岡崎〕　徳川家康の出身地でもあり、三河で最も繁栄した宿で、二十七曲といわれるように屈曲した街道が貫いていた[1]。「当国都会の地にして、商人多く繁昌の所なり」といわれ、三河街道（足助街道）の分岐点でもあり、現在にもつながる三河の主府であった。

〔藤川〕　現在は岡崎市の一地域であるが、岡崎市の中心部からはかなり東に離れているため、旧東海道の面影を散見することができる。このあたりの街道沿いの伝統的建物を観察すると、街道の南側の家の入り口、北側の家の入り口がともに東方（江戸方向）に開かれていることに気付く。建物を建てる時の、当時の作法の一つであったのか興味深い。

〔赤坂〕〔御油〕　赤坂宿から御油宿まではわずか16町で、両宿はかなり接近している。旧東海道の面影は里標が点在する以外ほとんど感じられないが、御油の項で「本野原富士」の挿図が載せられ、この辺りからようやく富士山が大きくみえてきた、という感慨がうかがえる。

〔吉田〕　現在の豊橋中心部である。旧東海道の面影はほとんどみられないが、かつては、徳川家にとって重要な鳳来寺へ参詣するための宿としての役割をも持っていた。

〔二川〕　三河を通る東海道の最後の宿である。現在は豊橋市であるが、中心部から離れていたこともあって、かつての本陣が修復整備されており、またほかにも伝統的町並みが散見され、旧東海道の面影をうかがうことができる。

以上、愛知の東海道宿を『図会』を中心にみてきた。かつての東海道は、現在の国道１号線にほぼ平行しているとみてよいが、連続してみるのは不可能である。しかし、散見される街道の痕跡を時折歩いて訪ねることは、現代の慌しさを忘れるための一興ではなかろうか。

注１）『建築と社会』（2009年３月号）

〔参考文献〕
・岸井良衛『五街道細見』昭和40年、青蛙房刊
・『日本名所風俗図会17　諸国の巻Ⅱ』昭和56年、角川書店刊

（かわた　かつひろ）

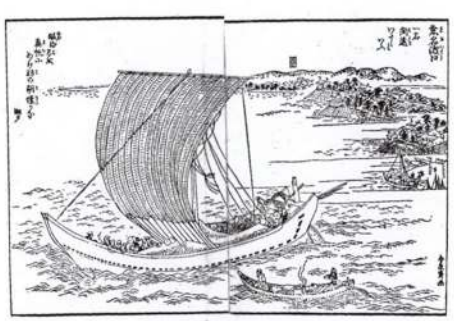


図２　桑名・渡口



図３　有松村

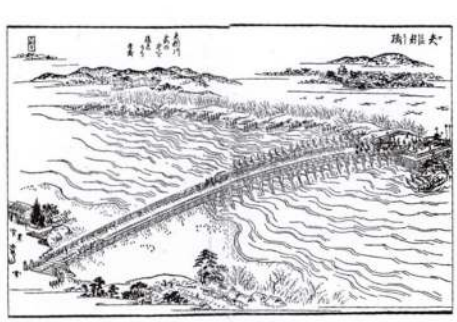


図４

身近な街道、宿場町：愛知

随想

—有松から宮宿へ

受け継ぐものと伝えるもの…

東畑建築事務所

谷　淳之介

都市・建築とは…

建築に携わる私たちにとって、「都市とは何か」、「建築とは……」の答え捜しは、おそらく永遠の課題といっていいのではないだろうか。それほどまでに、美しい都市、建築の「創造と継承」は難しいことなのだろう。この命題への迷路に入り込んだとき、先人たちの残してくれた世界の美しい都市や町並み、そしてそれらを構成する建築群の存在が何ものにも勝る灯となって進むべき方向を照らしてくれるように思われる。

それらはなぜ美しいのか、何がその美しさや魅力を可能にしているのか……、私たちはこの答えを求めて、世界に残され継承されてきた各地の都市や町並みや建物などを訪ねることとなる。幸いにして、その対象物は想像以上に数多く残されているし、今この瞬間にも、多くの取り組みが各国各地の機関や、心ある人々によってなされている。私自身、訪ねた数は少ないが、建築に携わる者の一人として今なお心に深く残るものはいくつもあるし、更に機会があれば訪ねてみたい対象は枚挙にいとまがない。

今回本誌の企画により、身近な歴史街道とそこに継承されている歴史的建築物などを体験させていただく機会を得た。日本国内では、遠くは角館、遠野界隈、飛騨古川、萩など、また中部圏では本誌の中でこれまで紹介されてきた多くの歴史街道・都市・町並みなど、更には日本を代表する歴史都市である京都・奈良・金沢・高山などの魅力ある美しい町並みが深く心に刻まれている。また海外に目を向けると、例えばハノーバーなど、ドイツ各都市のアルトシュタット（旧市街）やイタリアのシエナ等の山岳都市、地方都市、更にはパリ、ローマをはじめとする代表的な歴史都市など、少ない体験の中でも数えあげればいくつもの空間がよみがえる。それらを通して私たちは、近代から現代へとむけて急激に発展を遂げてきた、また発展しつつある現代都市や町並みなどの多くの事例について、未来へと継承するに値するか否かを真摯に自問自答しなければならないと思う。

街道を歩く……有松・鳴海・宮

今回の特集をきっかけに久々に有松を訪れることとなった。町並みは10年前にも増して美しく保たれ、絞り問屋として繁栄した豪壮な商家のたたずまいが圧倒的な迫力で迫ってくる。中町、東町、西町と歩く。屋敷は道に面する間口が広く、白壁になまこ壁という蔵の妻面が町並みに美しいアクセントを与えている。残念ながら町並みの東口である国道一号線からの分岐地点はいまだ整備されておらずいかにもさびしい。またその地点から一号線を歩くと、放置された昔の住まいらしきものなどが点在し、歩行者道もただ車の喧騒の中である。一方で、有松駅から一号線につながる町内幹線路と一号線との交点を中心に、なるほどと思わせる、町と一号線との緩衝空間の整備が進んでいる。現況は整備途上であるが魅力的な整備の完成が期待される。この有松の過去から継承されてきた町並みは、そこに住まう人々や行政の方々のたゆまなぬ努力によって、現代へ、そして未来へと引き継がれつつあることが実感出来る。

鳴海宿

有松を過ぎると旧東海道は、鳴海宿を経て七里の渡しで有名な宮宿へと至る。今は名古屋市域が拡大して、それらはすべて街のなかである。とはいえ鳴海にはかつての風情はしっかりと残っているし、素晴らしい歴史を継



有松　有松駅をスタートして町並みを東へ歩く



有松　服部邸をのぞむ(愛知県指定有形文化財)

承していこうとする、街の人々の意思を感じることが出来る。ここにはいくつかの「宿」としての民家の連なりとは別に、美しい寺々が町の中に静かに、またはダイナミックにその姿を見せている。それらの中にいくつかの山車庫が整備され守られている。歴史的建築物群のさらなる修復と復元が望まれるところである。

宮宿（熱田宿）へ

現在の熱田周辺は名古屋市の都心域にあり、鳴海からの旧街道も、いくつかの案内スポットに頼ってたどる以外ない。しかしながら、宮の渡し公園に残された「七里の渡し跡」に立って、かもめの遊ぶ水面を見るとき、一瞬往時の光景がよみがえってくるような錯覚を覚える。時代とともに海面は埋め立てられて、都市域は南に広がり、尾張の水運の動脈として活躍した運河、堀川は新しい時代の中で都市の貴重な水面として新たな役割を演じ始めている。宮宿は今も形を変えて人々の心の中で息づいているのであろう。

美しさはどこから……

日本、そして世界に継承されてきた歴史都市・町並み・建築などの美しさ・魅力などはどこからくるのだろうか。何がそれを可能にするのだろうか……。歴史都市などにおける限定された素材・いろ・かたち・受け継がれてきた確かな構法・空間構成、わざとこころに裏付けられた総体的な仕組み、継承されるディテール。美しく魅力的といわれる歴史的都市・街道・建築などを見て感ずる注目すべき点は、それらの持つさまざまなしくみ、しかけ、しきたりなどが、自然の持つ総合的な「しくみ」に似通っているところにある。自然の一部へと、同化しようとする意図をそこに感ずることができないだろうか……。自然の風光は、緑の大きな全体の中に、花々、水の流れ、大地の造形などといった、いろ、動き、かたち、ディテール、しかけなどがつくりこまれて広がっていく……。

一方で歴史的町並みは、自然素材をベースにして、墨色、灰色、土色などの基本色を持つ空間の中に、しろ、べんがら、あお、黄といった色彩を配して、その中で甍の波、うだつ、ひさし、格子、障子、更には、とおりにわ、なかにわなどといった様々なしくみ、しかけ、ディテールなどを組み込んで、全体が同化しながらも個々の存在を明確にするという見事な世界を展開して広がっていく。歴史都市・建築は自然と世界を同じくしているように思われるのである。

先人からの手紙を未来へ

翻って近、現代の都市空間、特に急激な文明の進展にさらされてきた、またはさらされ始めている国々、地域、地区、などに共通する都市空間の混乱は、その一部に目に余るものがある。近年、例えば日本各地に出現した、また現在も出現し続けているロードサイドショップなどに代表される色彩、形態、素材、ディテールなどの混乱。また、個々の建物には優れたものがあっても、延々と広がるメリハリのない住宅地の風景。広告板と自己主張にあふれる多くの駅前の町並みや都市域。美しい日本、観光立国を目指しての取り組みが、今後ぜひとも良い方向に向かうことを期待したいが、これは決してマニュアルや単なる法律によってのみ可能であるわけではないことを、受け継がれてきた多くの事例によって先人たちが私たちに語りかけている。

これはまさに現代に生きる私たちへの、先人からの貴重な手紙であると思う。都市や町自らが国の総体とともに、これら先人たちの心とわざを真摯に受け止めて、これからのありようを未来へと継承すべきなのだろう。現在も、世界中の多くの歴史的都市や町が、そのことを深く理解して未来に向けての取り組みを行っている。

今回の企画は、このことを改めて認識させていただく貴重な機会になったことを付記したい。

〔東海道〕
江戸初期、徳川家康により構想・設営された東と西を結ぶ海側の大動脈。その後明治初期までの300年を超える歴史の中で、魅力的な町並みとともに様々なドラマを生んできたが、近代文明の流れの中で、都市部においてはそのほとんどが消滅していった。日本橋を出て、第一の宿「品川」から、五十三番目の宿「大津」、そして三条大橋までの総延長は約500kmといわれる。

〔有松〕
江戸から三十九番目の「池鯉鮒宿」と四十番目の「鳴海宿」の間に開かれた「間の宿」。その後「有松絞り」の隆盛により豪壮な屋敷の並ぶ工房の町へと発展した。愛知県指定・名古屋市指定の有形文化財住宅をはじめ、山車庫、寺など、歴史の継承された美しい街道。今も日本の代表的な絞り産地として知られている。

〔鳴海〕
江戸より東海道四十番目の宿。当時は本陣1、脇本陣2、旅籠68軒、総人口3600人余りを数え、今も往時の旅籠の名残を街道に残しており、また、瑞泉寺、万福寺、誓願寺など多くの美しい寺が残る。有松とともに絞り産地として知られ、現在に至っている。

〔宮宿〕
かつて宮宿は、東海道最大の宿としてまた熱田神宮の門前町として、さらには桑名と結ぶ「七里の渡し」の乗船の場として繁栄を極め、本陣2、脇本陣1、旅籠248軒、天保年間には人口1万人を超えたといわれる。現在は「宮の渡し公園」を中心として、丹羽家住宅など、往時をしのぶ文化財・史跡などが残されて私たちに語りかけてくる。

（上記、東海道及び宿の解説は、それぞれの案内書などを参照させていただいた）

（たに　じゅんのすけ）


鳴海　瑞泉寺が青空に映える


宮　「七里の渡し跡」は静かに昔を語る

身近な街道、宿場町：愛知

東海道二川宿

本陣・旅籠屋の復原と町並み景観整備

伊藤建築設計事務所

澤村喜久夫

はじめに

東海道二川（ふたがわ）宿は江戸より33番目の宿駅で、遠江国より三河国に入って最初の宿場である。幸いにも戦禍を免れ、道路が拡幅されることもなかったため、旧宿場としての面影をもつ町並みが残されている。

昭和58・59年（1983・1984）に豊橋市の委託により豊橋技術科学大学地域研究プロジェクトチームによって旧街道の町並み調査が行われた。江戸時代から継承されてきた歴史的環境が残り、特に旧本陣は東海道における本陣の遺構としては数少ない貴重な建物で、その保存の必要性が報告された。

これを受けた同市では旧本陣の公有化を図り、昭和63年（1988）に復原工事に着手し、平成３年（1991）より「二川宿本陣資料館」として本陣遺構を公開している。その後、平成17年（2005）には本陣に隣接した旧旅籠屋「清明屋」を復原するなど、これらを核とした旧宿場町の歴史的環境を生かして、まちの整備を行ってきた。しかし一方では旧街道沿いの家屋の建て替えが進み、歴史的な町並みが徐々に失われつつある。

このような状況の中、平成18年（2006）に住民、行政、大学などの協働によるまちづくりの活動が始まった。翌年には「二川宿まちづくり会」が設立され、住民同士でまちづくり協定を締結した。

二川宿の概要

（1）二川宿の成り立ちと街区割

慶長６年（1601）、東海道宿駅制度の制定により、二川宿と大岩宿が指定され、距離を隔てた二宿で一宿分の継立を行っていたが、正保元年（1644）に二川が西方の大岩村地内へ、大岩も二川の町並みに接続する形で東方へ移転し、現在地に宿場が形成された。これ以降二川が本宿、大岩が加宿となった。

この移転合宿による街区割は、神社参道、在郷道などの直交道路や村界・字界などが東端見付を起点とする１町（60間＝109メートル）グリッドラインと合致し、また宅地の奥行きは街道の中心から南北とも半町（30間）を地尻としていることから、１町四方のグリッドパターンによる計画的な街区割が施されたと考えられ、現在でも正保元年の街区割を明確に把握できる点で貴重な例である。

（2）二川宿と本陣

二川宿は、天保14年（1843）の『東海道宿村大概帳』によると、加宿大岩を含め家数328軒、人口1468人、旅籠屋38軒と東海道五十三次の中では比較的小規模な宿場であった。宿場の最大の任務である人馬継立を行う問屋場は、二川宿中町と大岩村中町の２カ所にあり、公家・大名・幕府役人などの休泊施設となった本陣・脇本陣は二川宿中町にそれぞれ１軒ずつ置かれていた。

二川宿の本陣職は当初、後藤五左衛門が拝命していたが、寛政５年（1793）の大火で類焼し、同年暮以降、紅林権左衛門が後藤家の名跡を継ぎ本陣役を勤めた。しかし文化３年（1806）の大火で本陣も類焼し、後藤五左衛門（紅林権左衛門）は本陣職を宿方へ返納した。文化４年（1807）、本陣職を拝命した馬場家は、翌年11月に本陣部分の普請が完成し、明治３年（1870）の本陣の廃止まで64年間にわたり本陣役を勤めた。

町並み調査

（1）町並み景観調査

昭和58・59年に行われた町並み調査において、旧街道沿いの主屋301戸について建築年代や外観の分類を行ったところ、江戸時代の建物が11戸現存し、江戸末期の二川宿では、切妻桟瓦葺き・平入りの平家またはつし



写真1　中町の町並み（本陣・清明屋付近）



写真2　新橋町の町並み（駒屋付近）



写真3　東町の町並み

二階建てで、大戸・蔀戸・出格子の表構えの主屋によって町並みが構成されていたことが判明した。明治後期以降は本二階建てが増加し、二階の軒高及び棟高が高くなるが、昭和戦前まではいずれも伝統形式を受け継いだ木造建築で、町並み景観を損なうことなく、宿場町の風情をとどめていた。

景観調和度分類では、戦前までの伝統的景観をよく残している家屋は全体の26.3％あり、改造されているが回復が容易であるものを合わせると42.2％とうい高い数字を示していた。愛知県以東の旧東海道宿駅で、旧本陣馬場家、旧旅籠屋「清明屋」、旧商家「駒屋」など江戸時代の主屋遺構が残る宿駅としては、旧赤坂宿（現愛知県豊川市）に次いで多く、旧二川宿は貴重な歴史的価値を有していることが報告されている。

（2）現在の町並み

前述の景観調和度分類について、二川町の三町（中町・新橋町・東町）における現況調査をしたところ、戦前までの伝統的景観をよく残しているものは、昭和58年調査時に43戸（27％）あったが、平成21年秋には31戸（20％）と20数年の間に12戸が取り壊し、あるいは建て替えられている。しかし、現在でも旧二川宿の伝統的建築物が比較的多く集中し、歴史的な町並み景観をとどめている箇所がある。（**写真1～3**）

馬場家本陣の復原

馬場家の本陣遺構は、大名休泊部の繋ぎ棟・書院棟は醸造工場建設のため取り壊され、旧本陣施設の表門、玄関棟、主屋、土蔵及び鍬蔵が残されていた。昭和60年（1985）、当家12代目八平三氏よりこれらの遺構が豊橋市に寄贈され、同62年、市指定史跡に指定された。市ではこの貴重な遺構の永久保存を図るため、3カ年をかけ重要文化財建造物の保存修理に準ずる改修復原工事を実施した。

建物は本陣職を勤めた64年間に、大小10回の改造を受けており、復原にあたっては本陣施設として最も整備された安政2年（1855）の姿に復原した。また失われていた書院棟も本陣の構成・特質を理解する上で重要なため新築による復原を行った。

本陣の公開とともに併設した資料館では宿駅に関する展示などを行い、市内外から見学に訪れる人も多く、観光資源になっている。また資料館が開館した平成3年より毎年秋には大名行列を再現した『二川宿本陣まつり』が開かれるようになり、本陣の復原は歴史的景観の継承のみならず、地域の情報発信と新たな文化の創造にも寄与している。

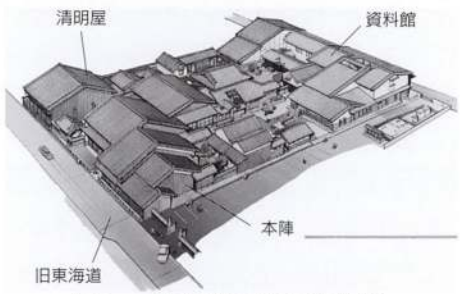


図1　二川宿本陣資料館（鳥瞰図）

旅籠屋「清明屋」の復原

本陣の東に隣接した倉橋家は、屋号を「清明屋」と名乗り、江戸時代には旅籠を営んでいた。遺構は主屋・繋ぎ棟・奥座敷棟・便所で構成され、旅籠建築の当初の姿を完全なかたちで残しており、極めて貴重な建物である。

平成11年に建物の寄贈を受けた豊橋市では、市指定有形文化財に指定し、平成14年から3カ年にわたる改修復原工事を実施した。本陣近辺の町並み景観整備上重要な建物で、また庶民の宿である旅籠屋が本陣とセットで見学できる、全国的にも珍しい施設となった。

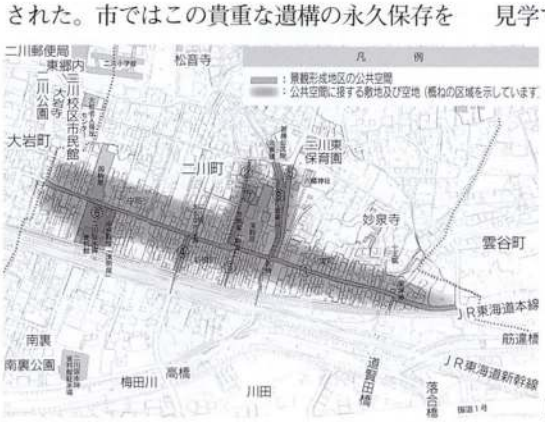


図2　二川宿景観形成地区


写真4　景観形成基準による住宅改修例（山本家）

町並み景観整備

平成18年春、二川町東町では市の景観条例の制度を活用して“豊かで暮らしやすい町並み景観づくり”を進めようと、住民・行政・大学の協働によってルールづくりの検討を始めた。その活動は新橋町、中町に拡がり、三町で翌19年に「二川宿まちづくり会」が設立された。同年10月には市が景観条例に基づいて、二川町の旧東海道延長760メートルほかを景観形成地区に指定し（**図2**）、「二川宿まちづくり会」はまちづくり団体に指定された。

平成20年には住民同士で景観形成基準をもりこんだ「二川宿まちづくり協定」を締結し、同21年に市が協定を基に「二川宿景観形成地区整備計画」を策定し、ファサードの修景工事などに助成金による支援を開始した。

整備計画では「歴史的な建造物と新たな建物が美しく調和した町並み」を目標に掲げ、新たに整備する建築物や工作物には、まちづくりが継続されるよう新しい生活様式への適応も考慮し、景観形成基準を整備の努力目標として示し、道路など公共空間から見える範囲に対して適用することとした。（景観形成基準の詳しい内容については豊橋市ホームページ都市計画課をご覧下さい。）

おわりに

町並み調査から20数年、本陣・旅籠の復原がまちづくりの原点となり、そして新たなまちづくりが住民の活動から始まった。大学の支援を受けて行政による整備計画が策定され、すでにそれに基づいて住宅の改修（**写真4**）、門の整備、店舗付き住宅の新築が行われている。

今後のまちづくりにおいて、旧東海道の交通環境の整備、木造密集市街地の防災対策、旧商家「駒屋」の復原整備・活用などの検討課題を克服し、江戸時代から引き継がれてきた歴史的な町並み景観と地域に伝わる神社の祭礼などを通じて、旧二川宿の伝統と文化が継承され、ここに住む人々が“ずっと暮らしたい”と感じるまちになることを願っている。

〔参考文献〕『二川　水と緑と歴史のまち　二川地区環境整備基本計画調査報告』（昭和60年）豊橋市

（さわむら　きくお）

身近な街道、宿場町：愛知

岩倉街道

名古屋城下の台所を担った岩倉街道

アトリエ-N一級建築士事務所

中村哲士

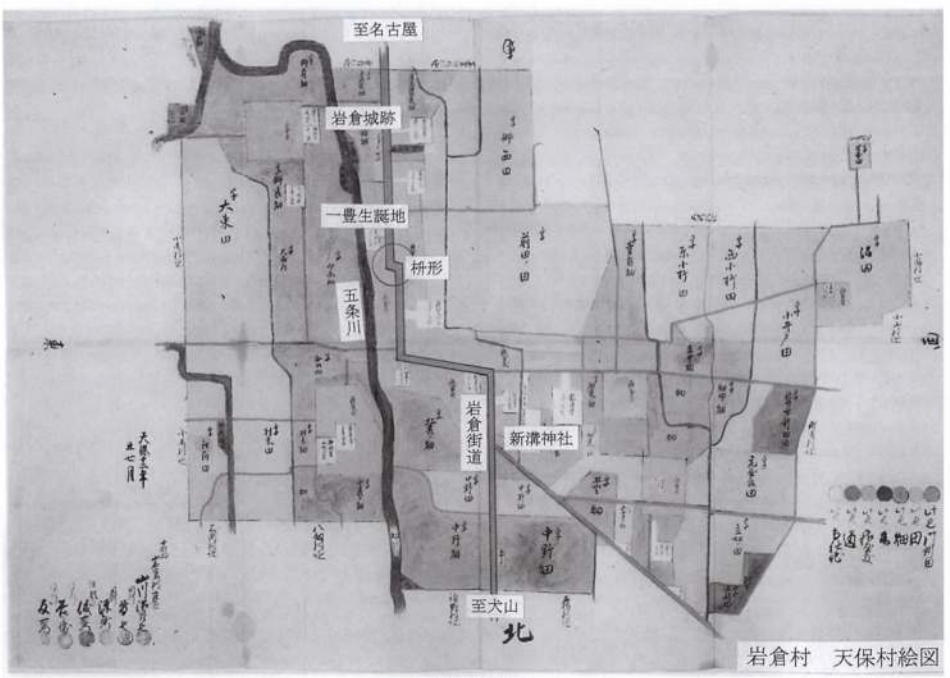
尾張徳川藩が名古屋城を築いて間もない江戸初期に、名古屋城下と犬山を結ぶために藩道として整備された犬山街道の内、岩倉までを岩倉街道（柳街道）と呼ぶ。美濃路の途中の枇杷島で分岐し、小田井～九之坪（西春町）～大山寺（岩倉市）を経て岩倉に至る約３里（12km）の街道である。現在の名鉄犬山線はこの街道にほぼ並行し、交差しながら走っている。

筆者が生まれ育った岩倉は、古くから開けた土地で縄文中期の野辺（のんべ）遺跡や弥生時代の大地（だいち）遺跡など、住居跡や多数の土器が発掘されている。また、円墳の上に祭られた新溝（にいみぞ）神社（岩倉の地名の始まりはこの古墳の巨石＝磐座と言われている）や、今も当時の円錐の姿を残す七面山古墳など多数の古墳が街道沿いに点在している。飛鳥時代には東西の塔を備えた大伽藍配置の長福寺廃寺跡が、発掘調査により礎石や瓦が多数出土し確認されている。岩倉は尾張平野の中心部に位置し、名古屋⇔犬山、小牧⇔一宮の十字路に在り、古代から交通・物流の要衝の地である。

15世紀の初期に尾張の守護代として権力を握った織田氏が、応仁の乱(1467～1477年)以降は一族の内紛により二分し、織田宗家の伊勢守系が岩倉城を築き、尾張上４郡の中心の城下町として発展した。街道沿いには「市」が立ち、町屋が建ち並んでいた。現在でも上市場、下市場等々「○○市場」とつく町名が引き継がれている。しかし、清須の城主となった信長に攻められ（浮野合戦1558～1559年）、このとき岩倉の街並みは戦火のため灰塵に帰しました。この戦により岩倉方の家老であった山内一豊の父盛豊は戦死、一豊のその後は司馬遼太郎氏の「功名が辻」で有名である。尾張を統一した信長は清須から小牧（駒来）に移り、小牧山に城下町を築いた頃、信長の側近であった前野将右衛門による「武功夜話」には人間信長がいきいきと描かれており、まさにこの街道沿いが舞台となった様々な逸話が記されている。岩倉の少し北にある小折（江南市小折町）に当地の豪族である生駒氏の屋敷が在り、周辺の物流の拠点となっていた。ここに信長や若き日の秀吉、蜂須賀小六などが出入りしており、信長と生駒氏の娘吉乃（きつの＝長男信忠、次男信雄の母）との逢瀬の場の神社や吉乃の墓も残ってい



街道表示



天保村絵図


新溝神社



山内一豊誕生の碑

る。また、日吉丸と小六との出会いや、藤吉郎がねねの実家（一宮市浅野＝現在も屋敷跡が公園になっている）へ足しげく通ったなど、彼らが日々往来していたであろう街道が、400年以上を経た今でも非常に身近に感じられ、足音が聞こえてくるようだ。

江戸時代に入ると藩道として整備されるとともに街も復興し、名古屋城下の台所を担う重要な街道となった。下小田井や枇杷島の青果市場へ野菜類を運ぶ人々でにぎわい、街道沿いに様々な商家が建ち並び繁栄した。その証の一つとして、17世紀の半ばには上、中、下の三本町に３台の山車が町衆によって造られ、今でも八月の天王祭では３台揃って街道を曳き回され、往時の華やかさを受け継いでいる。

この街道の姿が「天保村絵図」で伺い知ることが出来る。この絵図は尾張藩の命により、天保十二年（1841年）に作成されたものである。その色分けされた屋敷、道路、水路、田畑などの土地利用については、現在でもかなりの部分がそのまま残されている。特に街道は幅２間半（4.5m）のままで、枡形（ますがた＝クランク状の道）や沿道の神社仏閣はもとより一部の商家も当時と変わらず今の街に生きている。朝まだ暗いうちからリヤカーを連ねて市場に向かう人々の姿がつい戦前まで見られたと、明治生まれの祖母から聞かされていた。

しかし、時代の波は避け難くすでに「街道」としての役目は終わっている。沿道のあちこちに空地やシャッターを閉じたままの商店、高層マンションが目立ってきている。子供の頃の「街道」の思い出が日々消えていくのを目の当たりにして、街並みの風情がますます薄れていくことは、住民の一人として寂しく思う。

（なかむら　てつお）


五条川


枡形付近

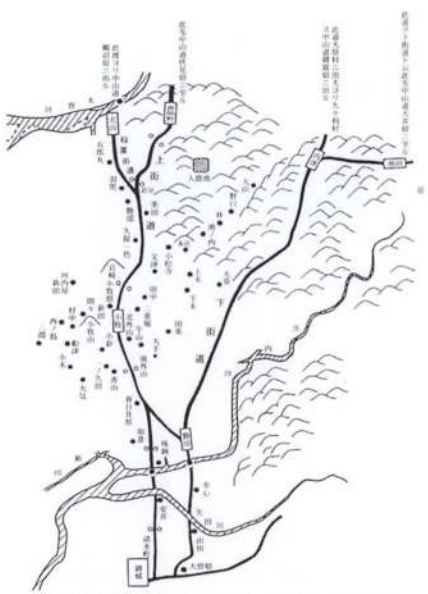

昔の面影を残す商家

身近な街道、宿場町：愛知

小牧・犬山の街道 今と昔

篠田川口建築事務所

今津芳清



上街道・下街道（原図：『小牧市史　本文編』）



犬山城

領国経営の道と物流の道

上街道（木曽街道）、（古くは稲置街道）は、江戸時代の初期に、尾張藩主が参勤交代で江戸との間を往復するのに便利な道として、あるいは犬山に封ぜられた尾張藩の家老、成瀬氏の名古屋往来のための道として、拡張改修された。上街道の起こりは江戸時代以前であり、清洲より東山道へ達する要路である、古くは小牧より犬山を経て東山道の鵜沼に達していた。藩祖徳川義直は元和元年（1615）幕府から木曽山林の領有を認められた。名古屋と木曽を結ぶ街道の整備が必要になり、10年がかりで名古屋から春日井原、小牧を通って中山道に至る街道の整備をし、小牧宿の移転が完了された、寛永13年（1636）に初めてこの街道を通り中山道経由で参勤交代が行われた。これは藩にとっては公道であり、小牧、善師野、に宿駅を作り、馬継ぎの制度を設けたりした。上街道は名古屋から味鋺、味美、春日井原を経て小牧（初期の道は小牧から勝川へ出て下街道を名古屋へ）楽田、善師野、土田の各地を経て伏見で中山道と合流している、十里八町三ヶ宿の街道である。途中楽田の追分で犬山へ行く稲置街道と分岐していた。（江戸へ行くのに領国内の宿場を21宿で全行程の三分の一通ることが出来た、）松並木や柳が植えられた。三間二尺（約6m）の当時としては大きな道であったが軍事上の必要から庄内川などに橋を設けず、ところどころで曲折（桝形）させるなど、交通にとっては不便な点があった。これに対して下街道（善光寺街道）は名古屋から信州、飛騨などへ通ずる便利な道として多くの旅人に利用されてきた。また中山道の大井の宿から名古屋に至る中馬の交通路としても利用されるなど商品流通も多く、馬継ぎも行われていた。上



犬山からくり

街道と下街道の分岐点でもある勝川宿「住吉屋」の文化9年「泊まり駄賃覚帳」によると、荷物を運ぶ人が1ヵ月213人泊っており昼食だけのものが67人いた。宿賃は1人当たり百文で他に米を現物で受け取っている場合が多い。尾張の中心地である名古屋へは小牧道、瀬戸道、津島道、他に特定な道の「御巡見」道がある。

用水の築造と開発、物流

慶安年間（1648）に始まった入鹿用水、木津用水、寛文年間（1664）新木津用水の開削で新田開発が進み、また、水路が川舟による運送手段としても使われた、船運は昭和初期まであった。――「犬山城」は尾張の国の北端に位置し山間部を抜けた木曽川が平野部に出た丘陵地に築かれた平山城である。美濃との国境に位置し軍事的要衝地であった。木曽山の材木とその輸送路となる木曽川の一元支配は秀吉の時代からであり、「木曽川は尾張藩にとって、木曽と名古屋を結ぶ材木や荷物の輸送路である。」犬山城下には筏の中継地があり荷物の発着など湊の役割も担う一拠点である。また、陸路においても尾張、美濃の交通の要衝であった。経済面、軍事面において犬山城は北の要衝であった。明治期になると愛船株式会社が設立され、犬山～名古屋、間に水路による、舟運が開始された。丸



犬山城と頭首工



木津用水引き船



小牧城



名古屋城と堀川

石とか玉石と呼ばれている社殿の基礎や石塀用に珍重された。(他に薪、炭、天然氷。等) 丸石は専門の職人によって四隅が削られ六角形に加工され、亀甲積という堅牢な基盤が出来て、社殿や常夜灯の基礎などに使われた。

——木曽頭首工～木津用水～新木津用水～八田川～庄内用水頭首工～矢田川地下水路～黒川用水～そして堀川において名古屋城堀へと繋がっているのである。それを下れば熱田宮の渡しである。当時の県知事勝間田稔氏は祝辞の中で「木曽川廻りは7日、木津用水経由は4時間で到着出来るようになった。」と述べている。犬山から熱田までつながる水路は名古屋における文化財の一つであろう。(これは現在でもGoogleで確認出来る)

この地は古くは古墳時代、奈良時代より「係争の地」となっており尾張豪族と近畿豪族の勢力争い(断夫山古墳と二子山古墳)、平安時代には藤原氏、天皇家の荘園時代(条里制による石高の管理)、鎌倉時代には朝廷と鎌倉幕府軍との戦い(承久の変・東山道と鎌倉街道)、戦国時代には豊臣軍と徳川軍の戦い(小牧長久手の戦い) また、尾張徳川65万石の支配の中心的な地域となる。(名古屋・犬山・木曽地域) また、人の街道、物流の為の河川(木曽川) 及び河川開発(新木津用水・入鹿用水他) 及び農地の尾張全体で30万石にも及ぶ大規模な新田の開発が行われた。また、上街道(本街道) と下街道の確執があり、元禄年間には商品流通の制限触れが出されるなど、問題をはらんでいた。

犬山城—犬山城は尾張徳川家老成瀬家代々の居城であり、尾張徳川木曽経営の拠点となっていた。領内を江戸へ行く場合参勤交代はこのルートが使われた—

〔周辺にある史跡・名所〕

＊入鹿池(四国万能池に次全国2番目の大きさ)、明治村＊尾張二の宮、浅間神社、成田山、田縣神社＊犬山山車、犬山からくり＊和泉屋(江戸商家)＊川関所、用水の堰＊犬山頭首工、名鉄犬山駅(犬山線・小牧線)

小牧城—小牧城は当初、織田信長が飛騨平定のためにつくられた。小牧城は、小牧山南麓に城下町跡が発掘され、本格的城郭を目指していた遺構が各所より出た。小牧城をスプリングボードとして、いままで歩っていなかった美濃方の拠点を押さえることにより、いっきに美濃攻略が出来たのであった。また、小牧長久手の戦いの時の、徳川方の土塁も発掘されている。また、尾張徳川時代には徳川家の代官所、小牧宿、徳川家別荘、鷹狩の場所となっている—

〔周辺にある史跡・名所〕

＊味美古墳群(飛鳥) ＊覚明霊人碑(木曽御岳信仰) ＊土地の条里制＊犬山廃寺、密蔵院＊木津用水(大井掘)、新木津用水、用水改修の碑、内津神社と立川流、舎屋(やまきち)(下街道) ＊岸田家と屋根神様(脇本陣)、上街道＊住吉屋(勝川宿)、下街道＊明治天皇御行幸の碑＊名鉄小牧駅(小牧線)、下街道(JR中央線) ＊桃花台団地、高蔵寺ニュータウン(市域は現在と異なる)

名古屋城—名古屋城は街道が東海道と中山道より離れているためそれに準ずる公道として街道は宿駅制がとられ整備された。

〔周辺にある史跡・名所〕

＊矢田川伏越(江戸期地下用水) ＊黒川樋門(堀川上流部)、都市景観重要建築物＊護国院、味鋺神社(庄内川渡し) ＊庄内用水頭首工＊地下鉄(上飯田線・小牧線)

〈参考文献〉

「犬山祭」: 犬山祭り保存会.「木曽川と犬山」: 犬山市教育委員会・犬山城白帝文庫.「博物館明治村ガイドブック」: 博物館明治村.「織田信長と小牧」: 小牧市教育委員会.「小牧業書18上街道<小牧宿>」: 小牧市教育委員会・小牧市文化財資料研究委員会.「春日井市近世村絵図集」: 春日井市.「春日井の歴史物語」: 春日井郷土史研究会.「庄内川」: 春日井市教育委員会、民族考古調査室.「明治の名古屋」.「木津用水史」: 木津用水土地改良区.「中世の東道をゆく」: 中公新書

(いまづ　よしきよ)



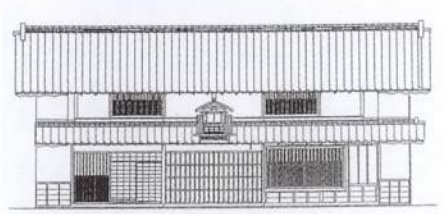
入鹿池と明治村



舎屋(やまきち)



黒川樋門



岸田家正面図(修理後)

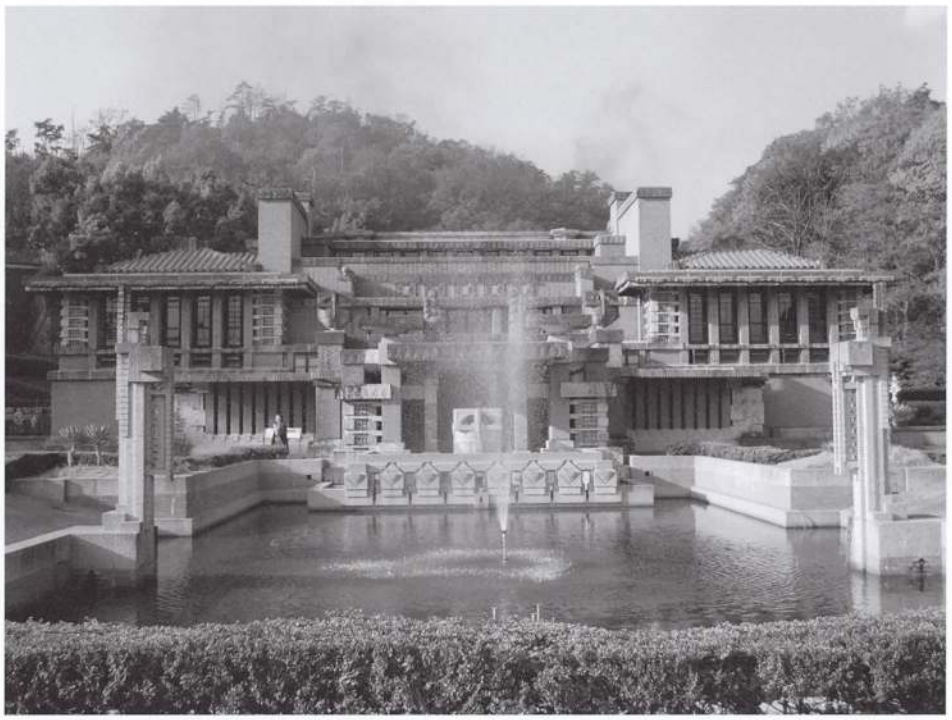
岸田家と屋根神様(脇本陣)

身近な街道、宿場町：愛知

帝國ホテルスダレ煉瓦の里「常滑」

福田泰造建築事務所

福田泰造



スダレ煉瓦物語　第一部

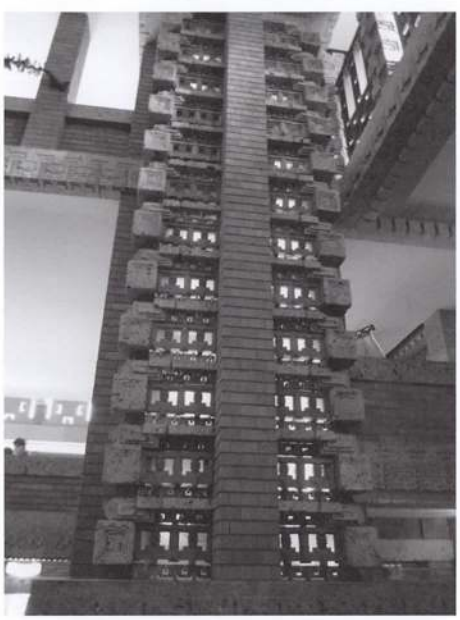
それは一通の電報から始まる。

「天才の記念碑のように、あなたの帝國ホテルは被害なく建っている。」

この電報の発信は帝國ホテル会長、大倉喜八郎男爵。宛先はフランク・ロイド・ライト。

『……大正12年８月31日に完成した帝国ホテルは翌９月１日を開館と定め従業員一同が尾頭付のご馳走を前にした矢先、午前11時58分、未曾有の震災に襲われた。立派に彫刻された幾多の石柱は悉く倒壊し、中央部の建物はいっぺんに１メートルも沈下した。幸い火災こそ免れたとはいえその為ライトさん御苦心の結晶は全く半壊するに至った。その上、時代の流れと共に幾度となく内部の模様替えが行われ追々昔日の価値は低下するに至ったところ。去昭和20年５月25日の夜半の空襲で北館と玄関、表食堂及地階だけを残し殆ど全部焼失致しましたるがため現存の建物は凡そ其の外観と玄関大廊下を残すのみであり……中略……。然し、いか程当初の美観が失われたからとは申せ、ライト氏一代の傑作、世界的名建築である事実には変わりあるまい。』

以上は、帝國ホテル建築時、４年４ヶ月の間、常滑の沢田土管工場（帝國ホテル煉瓦工場）に単身赴任してスダレ煉瓦と穴抜煉瓦製作に奔走した帝國ホテル衣糧部主任、牧口銀司郎の手記からの抜粋である。



スダレ煉瓦の里「常滑」とは

常滑市は知多半島西部伊勢湾側中央部に位置し人口５万５千人、窯業、農業、漁業を中心とした街で、平成17年２月17日に中部国際空港（セントレア）が開港し、第４次常滑市総合計画では将来の都市像と基本理念を「世界に開かれた生活文化都市」として掲げ、地場産業である常滑焼と観光産業の整備に取り組み空港と共生した街づくりを進めている。

常滑焼の歴史は1000年に及び日本六古窯として名を馳せ常滑焼が生活遺跡で確認されたのは12世紀中葉以降で、西国では大阪、瀬戸内、北九州、東国では平泉の藤原京、神奈



川県周辺に多数出土している。これまで文献ではあまり取り上げられていないが、こうした常滑焼の出土状況から平氏・源氏と共に西国・東国へ常滑焼は広まったのではないかと考察される。平安時代、常滑沖２㎞の(現在、中部国際空港）遠浅砂地を生かした常滑港から一旦、伊勢の巨大港へ運び全国へ流通させた当時の海運の繁栄には先人の物づくりに対する心意気を感じる。

大小多くの船が出入する当時の伊勢港は現在で言うハブ港そのものだったと推測する。第二次世界大戦まで常滑港を賑やかにしていた船はダンベ・イサベと呼ばれていた木船で主に燃料の松葉ニゴや割り木の輸送に使われていたものとウガイサン（鵜飼船に類似の為この名がついた）と呼ばれる川舟であり、これは美濃の山地から薪炭、川のぐり石、よしず、野菜を運び帰りには焼き物を積んで木曽川、長良川、揖斐川上流へ帰って行くと言う街道ならぬ海道が常滑を中心として日本各地に拡がっていたのであろう。知多半島の南や伊勢・鳥羽・そして岐阜の山地まで常滑焼を積んで帰る船舟の姿はさぞや壮観であったと思われる。又、本能寺の変では徳川家康が焼き物の燃料となる柴を積んだ小船に潜んで桑名から常滑を経由して三河に帰ったという歴史もあり常滑では５月に毎年「柴船権現祭り」が盛大に執り行われている。



スダレ煉瓦物語　第二部

さて、話を帝國ホテルに戻す。牧口銀司郎が単身赴任した沢田土管工場（忠吉窯）は私の実家（常滑市樽水町）から徒歩10分の距離に位置する。牧口が当時宿泊していた清水屋旅館（常滑市塩田町）は現在割烹料理店として残り、こちらは実家から徒歩５分。帝國ホテルのスダレ煉瓦は最初、常滑市西阿野（阿野町）の久田吉之助が請負い契約を済ませ支度金も支払われたが、吉之助は札付きのやくざまがいの詐欺師であったようで、其の風貌は片腕、片目、片肺といった異様な相貌の持ち主で、待てど暮らせど煉瓦の見本焼きすら提示せず、ついに業を煮やした帝國ホテル常務取締役の林愛作が常滑陶器学校の校長をつとめた経歴のある寺内信一に監督を依頼し、技術顧問に伊奈初乃丞（元伊奈製陶社長、伊奈長三郎の父）、会計顧問に沢田忠吉（沢田平吉の厳父）を夫々任せ、沢田平吉土管工場に請負者を変更した。この変更が、吉之助の怒りを買い悪玉職工の坂金太郎などを使って嫌がらせが始まり、樽水駐在所の竹内巡査を始め、常滑西浦両町の駐在巡査、半田警察署や県警では埒が明かず挙句の果てにはヤクザの大親分（庄安親分：杉江安次郎）が出てきて一件落着といった逸話も残っている。片目の吉之助が唯一目利きであったのは常滑より四里南の内海町の農家、内田又兵衛の所有する山畑地約一反歩の地下に優良な原料粘土を見つけたことで、あの建築家ライトを内海まで連れて行った嘘のような話も残っている。ついでに苦労話をもう一つ、ライト指定のスダレ煉瓦の黄色は専門家の寺内信一では完成せず久田吉之助が嫌がらせで窯の煙道ダンパを悉く開放し、時には出入口を塞いで土の扉をさえ破壊し製品を残らず疵物にしてやろうと幾度となく失敗させようと試みたところ偶然ライト好みの黄色のスダレ煉瓦が出来上がったという災いが転じて功をなした話もある。さらに穴抜煉瓦製作にもこれに匹敵する逸話（今回は略）がありこうした地と汗の結晶として合計四百万丁以上に及ぶ煉瓦が焼き上がり未曾有の名建築の完成となったのである。



最後に

常滑市の最北部には江戸以前から海運・潮湯治、鍛冶、醸造業で栄え、西浦街道と岩滑街道の交点としてその名残が少し見え隠れする大野町があり、旧常滑（焼き物の街）とは違った街並みと歴史の散策ができる。大野町も機会が許せば是非紹介したい。

今回は、常滑の地場産業である焼き物、特に帝國ホテルのスダレ煉瓦製作にまつわる逸話を紹介し先人達に物づくりについて教えを頂いた。

（ふくた　たいぞう）



身近な街道、宿場町：愛知

レトロ建築探訪

インテリアコーディネーター

加藤亜紀子

「新興住宅育ちの私には古い町や家の記憶がない。そのせいか古い家に対する憧れが人一倍強い。趣味でレトロな建物を訪ねているが、古い建物は、今、いろいろな理由で壊されている。それをただ悲しんでいても仕方ないので、文章や写真やスケッチで残して、記憶することで建物を生かそうと思った。そして少しでも多くの人に埋もれている古い建物を紹介したいと思う。」こんな書き出しで平成10年から東海支部の機関紙『東海の建築』で「レトロ建築探訪」と題し連載している。昨年末で29回を迎えた。我ながらよく続いていると思う。これは私が気になる建物や町を見て来て紹介するもので、文章も拙く個人的な興味の対象の、まさに独断と偏見の原稿を発表させていただけてありがたく思っている。

当会に入ったのも、京都三条通りの近代建築の見学会に参加したのがきっかけだった。一般誌に掲載されたのを見ての参加だったのだが、そこで知り合った事務局の方に誘われ入会した。その後、東海支部の編集委員会に入り「レトロ建築探訪」を書いている。

12年がたち世の中もずいぶん変わった。廃墟フリークや、工場・団地好きが市民権を得たと思う。レトロ建築に関するインターネットのサイトも増えた。以前は参考文献も多くなく、もっぱら鹿島出版会発行の『近代建築ガイドブック』や口コミが情報源だった。情報が増えたことは喜ばしいが、時が経ち消えていった建物も少なくない。また、壊される危機から残った建物もある。レトロ建築好きとしては一喜一憂といったところか…。

今回『建築と社会』に原稿を出すにあたって、今まで訪ねた建物や町の中で特に印象に残っているもの、お気に入りなものをあらためて紹介したい。

名古屋市東区「文化のみち」界隈

「レトロ建築探訪」の原点ともいえるのがこの「文化のみち」にある橦木館だ。長いこと空き家だった個人所有の建物を、まちづくりのメンバーが期限付きで借り、一部はカフェに、一部はオープンスペースとして市民に公開したものだった。

門の正面に2階建ての洋館があり、棟続きで平屋の和館が、L型に配置されている。庭園内には茶室が、住宅の裏には蔵が2棟ある。ここで様々な催しものがあった。セミナーや展示会、演劇や演奏会もあった。東海支部編集委員会でもオープンスペースを利用し『東海の建築』の執筆者にセミナーを行っていただいたこともある。たくさんの出会いがあり、私は多くの影響を受けた。この町に憧れ一時期、近くに部屋を借りていたこともある。

期限後も市民グループが引き継ぎ、「橦木倶楽部」としてオープンさせていたが、名古屋市が所有し、昨年「文化のみち橦木館」として開館した。近くには「文化のみち二葉館」があり、休日はこの界隈を散策する人も増えた。二葉館は、日本の女優第一号として名高い川上貞奴が福沢桃助と暮らした同じ東区内にあった邸宅を移築したものだ。

この他にも、古いお屋敷や洋館を併せ持つ料亭や個人宅、春田文化住宅とよばれる住宅群などがあり、武家屋敷の面影を偲ばすもの、大正ロマンをほうふつとさせるものがこの町にはあり人気のエリアだ。「文化のみち」じゃなくて「マンションロード」だと揶揄されるくらい幾つかの建物がマンションに変わった。残念だがこれも時代の移り変わりで仕方がないものなのか。これ以上、建物が消えないでいてほしい。



橦木館

知多半島の町　半田、常滑など

中部国際空港セントレアが今春、開港5周年を迎える。空港のある常滑市を初めて訪れたのは10年前。一昨年、数年ぶりに訪れてあらためて気に入り時々遊びに行っている。常滑については福田さんが執筆されるので私が詳しく言うのは避けるが、楽しい所だ。散歩コースが2つある。常滑焼の窯のある中心地がメインのAコースと、その周辺まで歩くB

コースだ。Bコースの終点にはINAXのライブミュージアムがある。ミュージアムに行く途中に素敵な洋館がある。INAXにゆかりのある住宅のようだ。焼き物の町らしく通りに焼き物のオブジェがあり、散策する者を楽しませてくれる。

常滑の近隣、大野町や新舞子はかつての避暑地だったので、別荘とおぼしき住宅が何軒か残っている。残念なことに大野町にあった数軒が固まって建っていた住宅群（東区の春田文化住宅によく似ているので大野文化住宅と勝手に呼んでいた）は、３年ほど前に壊されマンションが建っていた。都心だけでなく郊外でもレトロ建築の敵はマンションか…。

半田市も初めて訪れたのは10年程前。数年前に仕事で通い、３年程前から山車を見に行くようになり、馴染みが深くなった。

知多半島は醸造業が盛んな土地で、半田にはミツカン酢の関連の建物が多い。運河沿いに並ぶ醸造蔵は絵になるスポットだ。ただ、この蔵も操業をやめると新聞で見た。（既にやめたかもしれない）取り壊さず転用を考えているようで安心した。

また半田市は山車が多く、各地域で祭りを行っている。３月下旬の週末からゴールデンウィークまで、毎週のように順番に祭りがある。５年に一度、山車揃えがあり圧巻だ。こんなにたくさん山車があるのは、醸造業や海運業で栄えた象徴だろう。



大野町文化住宅

名古屋の旧花街

名古屋のかつての花街と言えば中村遊廓のあった「名楽園」、中川区の「八幡園」、北区の「城東園」、港区の「港陽園」があげられる。昭和33年の売春防止法の施行で遊廓は姿を消し、料亭や旅館、アパートなどに替わった。近年では風俗営業の店になっているものもある。10年ほど前に旧遊郭の建物をいくつか見学した。中を見せてもらって、その個性的な内装に驚いた。数奇屋とアールデコがミックスしたものや、天井が傘のようなデザインになっているもの、ステンドグラスやモザイクタイルがよく使われている。外観も艶っぽい和風にとどまらず、スパニッシュ風やアールデコ調のデザインが施されたモダンな建物など個性的だ。モザイクタイルが、丸柱や入り口ドアの足元に使われていることが多い。

かつての遊廓の建物が多く残っているのは「名楽園」、「八幡園」だったがこの数年でいくつかの建物が建て替えられた。それでもまだ何軒か民家の中に現存し、一種独特な町を構成している。「港陽園」のそれらしい建物はアパートになっているものくらいしか分からない。「城東園」も現存するものは少ない。この４地区以外にも花街があったことを、最近某ブログで知った。緑区の「鳴海園」や「港陽園」ができる前にあった「稲永園」、これが移転して「港陽園」となったそうだ。

名古屋市以外では私の育った市の隣の瀬戸市新開地にも花街があったと分かり、近いうちに行くつもりでいる。

花街の建物は負の遺産と思う人もいるかもしれないが、独創的な建築様式は、一種の芸術だと思う。今後もひっそりとたたずんでいてほしい。



桃園（中村遊廓）

これから

由緒正しい近代建築から廃墟っぽいもの、すこしくずれた（くだけた）建物へ興味は拡大した。最近は昭和残照を探す町歩きがマイブームだ。

また、山車と古い町の組み合わせも好きで祭りにもよく出かけている。今年も春祭りがそろそろ始まるので楽しみだ。

未開の分野が、団地・工場なのでそちらも研究したい。大阪にかつてあった「軍艦アパート」のような建物が名古屋にはあるのだろうか？探してみたい。

今後も「レトロ建築探訪」は、私の興味のおもむくまま続けていくつもりなのでお付き合いいただけると嬉しい。



伊賀市　理髪店

（かとう　あきこ）

緑化推進のプラットフォーム

大島造園土木㈱豊田支店

愛知県豊田市

伊藤建築設計事務所
山上　健



外観見上げ



外観

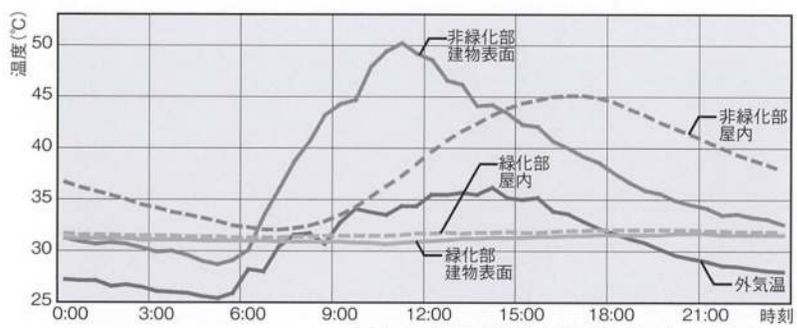
名古屋に本拠を構える造園会社の支店が狭隘化したため、「エコ」をコンセプトに建替える事となりました。建築主は通常の造園に加え特殊工法の緑化にも意欲的な企業で、新社屋では建家と敷地内を多種多様な緑で覆う事となりました。具体的には壁面緑化に３種類、屋上緑化と外構の駐車場緑化に各々８種類の工法を採用し、ショウルーム機能も併せ持つ支店としました。

また、屋上緑化・壁面緑化による熱負荷低減の効果を定量的・継続的に検証するため、建物各所の温度を測定・記録するシステムを導入しました。これにより、例えばある夏の日には、流入熱量に換算して屋上緑化で70.4％、壁面緑化で48.7％という削減効果がある事を検証できます。さらに緑化駐車場のヒートアイランド現象緩和効果を定量的に評価する手法なども模索されており、支店は研究所としても十分に活用されているようです。

建築主が自ら緑化を実践し、技術的な検証と環境改善効果の確認を経て、顧客に対してより質の高い提案をし、「エコ」を実践するためのプラットフォームを構築できたように思います。



屋上庭園



屋上緑化温度測定結果（2008年7月26日）

太陽光パネルを取込んだファサード

NTN株式会社 要素技術研究開発センター

三重県桑名市



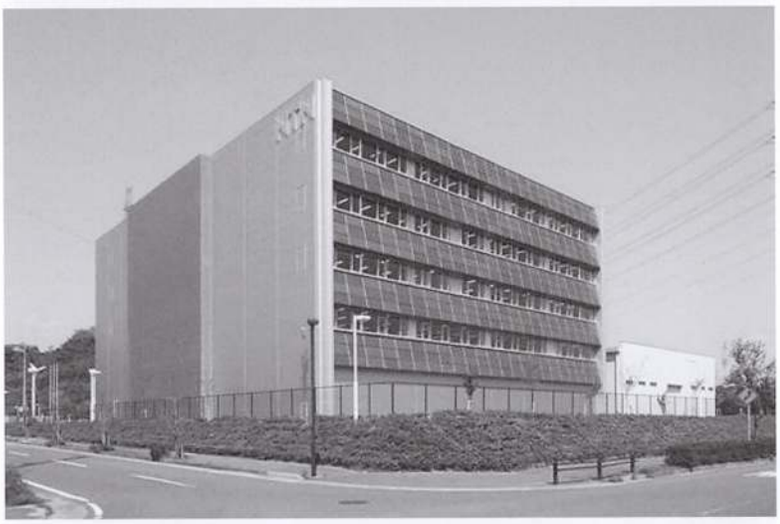
大林組 名古屋支店 建築設計部
河合志朗

自然エネルギーの有効利用は、予てから建築主も大いに力を入れており、この建物では太陽光発電、風力発電を採用しています。

特に太陽光発電は、積極的に外壁デザインに取込んで特徴ある南面ファサードとしています。太陽光パネルは横連窓のスパンドレル部分に傾斜をつけて設置し、発電効率を上げるとともに、日中の直射光を軽減する役目も果たしています。

また、他の省エネ対策として、夏冬の温度変化の少ない地下ピット（免震ピット）を利用して外気を導入し、熱負荷の低減をはかるクールチューブ方式を一部採用しています。





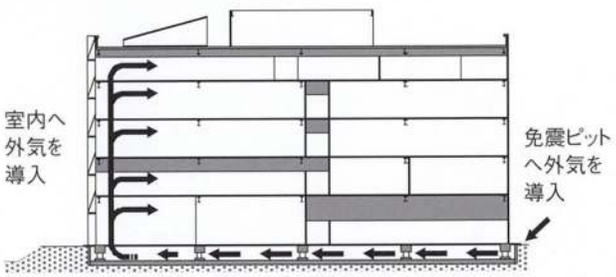


駐車場に配置した風力発電

太陽光パネルを取込んだ南面ファサード







土壌に接したピット内では
夏期は外気を冷却し
冬期は外気が温まる

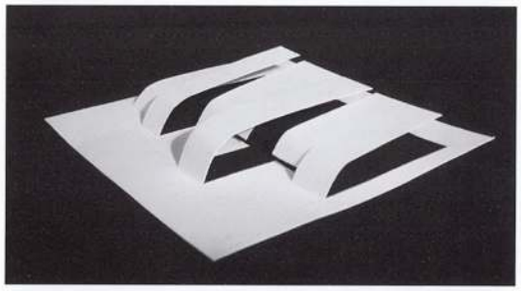
クールチューブ摸式断面図

ずらした壁がもたらす自然光

みなと医療生活協同組合宝神生協診療所

名古屋市港区

竹中工務店設計部
市川健二・大関幸恵



コンセプト模型



付近見取図

名古屋市南部の雑然とした街路に建つ、デイケアを併設した診療所です。自然光と外の景色を取込みつつ、プライバシーに配慮した開口部のとり方に工夫をしています。

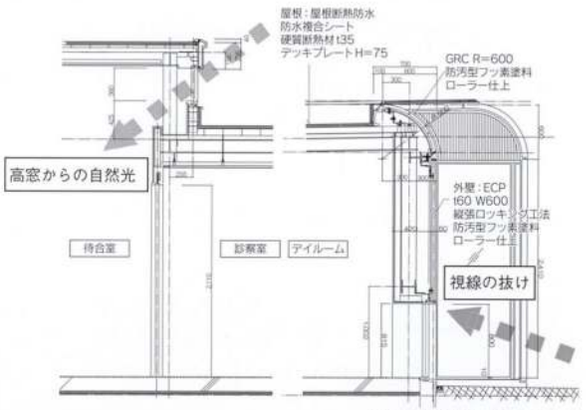
一般的な箱型のヴォリュームに開口を設ける方法とは異なり、この建物は壁をずらした隙間を開口とすることによって環境を制御しています。断面的な隙間の開口からは自然光を内部に取り入れ、明るい室内環境を獲得しています。平面的な隙間の開口からは内部と外部がつながって感じられる拡がりのある空間としています。



壁を大きくずらし庇としたエントランス



斜めに対して抜けのある開口で外部を取込んだ拡がりのある診療所



断面詳細図　縮尺1/100



敷地正面の喧騒と視線を遮るように建物正面に対しては壁を設け、その壁をずらすことで開口を設ける

今あるものを活かした学校の再構築

西春中学校 ―環境省モデル校―

北名古屋市

東畑建築事務所
高木耕一

改修前の西春中学校は、北校舎、南校舎、屋内運動場が渡り廊下でつながる昭和期の典型的な配置であった。普通教室や特別教室といった個別の空間は機能していたが、多様な学習空間やコミュニティスペースなどが欠如していた。また、「夏、暑い」、「冬、寒い」、「暗くて狭い」、「居場所がない」という生徒からの声が圧倒的に多く、十分な生活環境とはいえなかった。これらの基本的な問題点を改善するため、「生活空間の改善」「学習空間の再構築」「環境建築としての再生」をテーマに既存校舎を一旦スケルトンにして再構築を行った。既存北校舎と既存南校舎の間には環境学習センターを挿入し、各棟、各階に点在していた特別教室を１階に再配置して地域に開放する計画とした。

環境技術としては、断熱化改修などのパッシブな取り組みから自然エネルギーを活用したシステムまで様々な技術を導入した。自然光は、可動ライトシェルフにより直射光を遮蔽し、柔らかな間接光を取り入れ、均整度を高める試みを行った。通風・換気に関しては、防犯面も考慮した地窓や給気口を設け、風の塔に設置した自然換気窓によりドラフト換気・ナイトパージが行える。

温熱環境の改善結果は、工事前後に行ったアンケートおよび測定調査にて実証を得た。夏期・冬期における連続14日間の測定の中で、学校の使用状況、気象条件がほぼ同じ日を抽出して比較した。概ね、夏期で－３℃（最上階の教室は最大で－6.5℃）、冬期で＋１～３℃程度の改善が見られた。エネルギーの削減量は、夏期の電気が約39％、冬期の電気が約45％、都市ガスが約75％削減できた。改修後のアンケート調査でも通気性や、夏・冬の過ごしやすさの満足度が大きく高まったことから効果が認められる。特に改修前後を知る３年生においては60％を超える生徒が過ごしやすくなったと回答した。最後に事業の成果をまとめてみると、まず、ワークショップを通してみんなの思いが共有できたこと。２つ目に学校全体が実際に蘇ったこと。３つ目に、環境学習センターが地域運営され学校と地域が繋がりを見せたことである。



改修後の校舎



既存校舎屋上に設けられた芝生テラス



光を操る可動ライトシェルフとパティオ

Before　　After



改修前の校舎と中庭



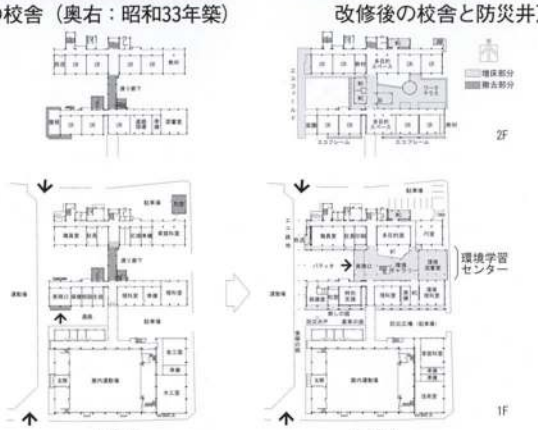
改修後の校舎とパティオ



改修前の校舎（奥右：昭和33年築）



改修後の校舎と防災井戸



西日遮蔽ルーバーとダブルグレージングで
ファサードをつくる

名古屋ビルデイング

愛知県名古屋市

日建設計
若林　亮・竹内　稔

競争力が高く、開放的なオフィス空間を持つように、西側の名古屋駅前のロータリーに面して開かれた眺望を得たいと考え、西日遮蔽の縦ルーバーとダブルグレージングのエアフローサッシュにより熱負荷の低減をはかったビルである。

外装のユニットサッシュが不整形な敷地に沿って緩やかに湾曲することから、絶えず真西に向いて直行する縦型のアルミルーバーは取り付け角度が異なり、これを取り付け部で角度を調整するディテールを工夫した。

また、ダブルグレージングのインナーサッシュは、その存在感をなくすよう吊り式引き戸式とし、見付けの小さな枠として、その枠をジョイント部で重ねるようにした。また、サッシュの下枠には、雨天の日や、ナイトパージのための自然換気窓を備えている。





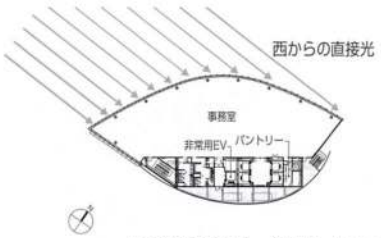
縦ルーバーとダブルスキンの窓廻り



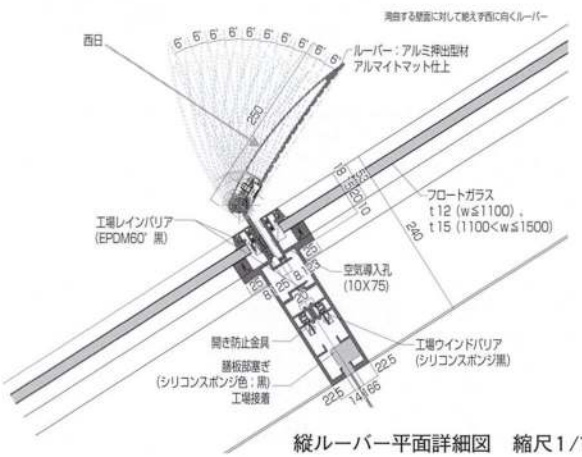
縦ルーバー



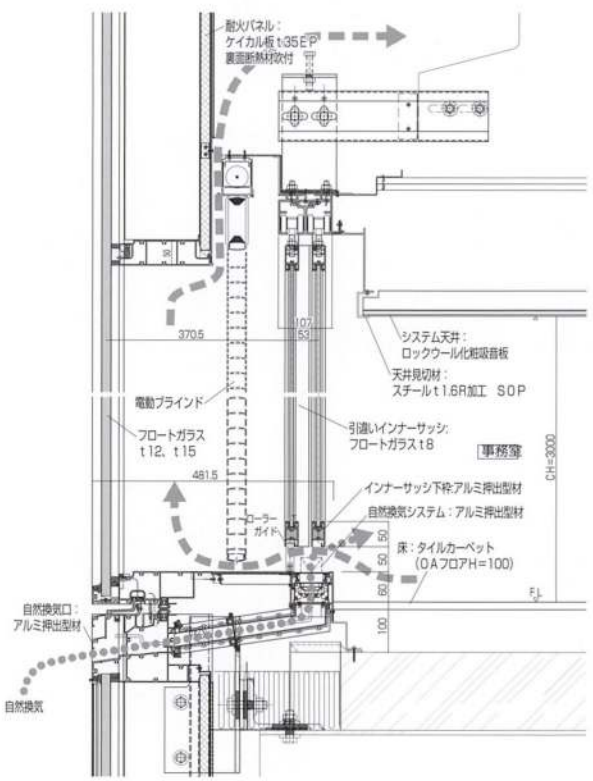
アルミルーバー型材



基準階平面図　縮尺1/1500



縦ルーバー平面詳細図　縮尺1/10



窓廻り詳細図　縮尺1/15

ガラスアトリウムのハイブリッド空調換気システム

アクア・トト　ぎふ

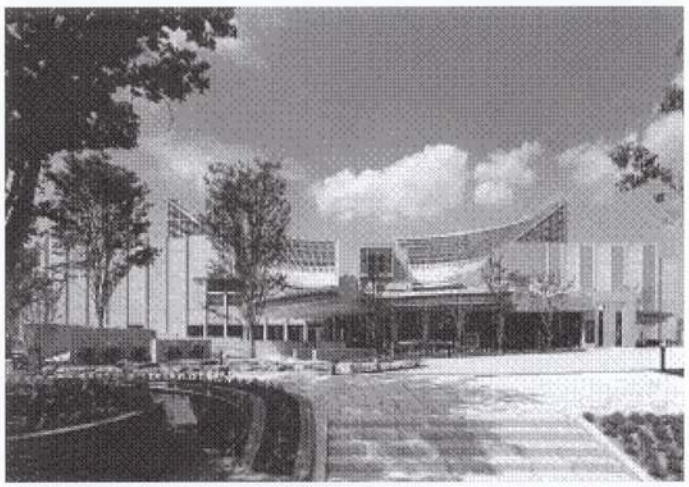
岐阜県各務原市

安井建築設計事務所
篠原住則

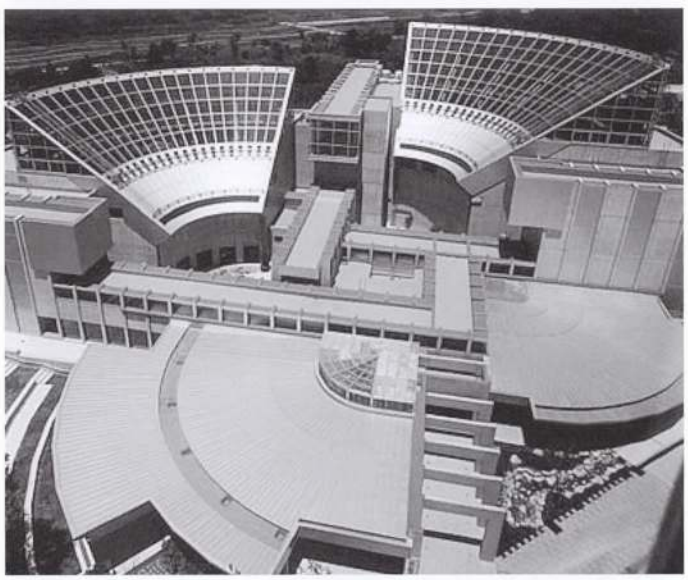
本施設は、国内最大級の世界淡水魚園水族館として、岐阜県木曽川流域の河川環境楽園内に建設された。木曽三川のひとつである長良川の源流から河口にいたるまでの、生き物の生息環境を綿密に再現し、来館者が自然を疑似体験できる空間を創出した。世界の水生生物の展示も行い、集客力向上、省エネルギーを目指し、建物形態と展示空間、環境技術が一体となる水族館施設とした。

この建物の外観の特徴であり、巨大な展示空間でもある扇型ガラスアトリウムにおける環境技術は、床吹居住域空調と自然換気を併用したハイブリッド空調換気システムである。自然の光と風を取り入れながら扇状の形態と勾配を生かした自然換気により、ドーム頂部の熱溜を排出し自然と一体となった快適空間を創出している。

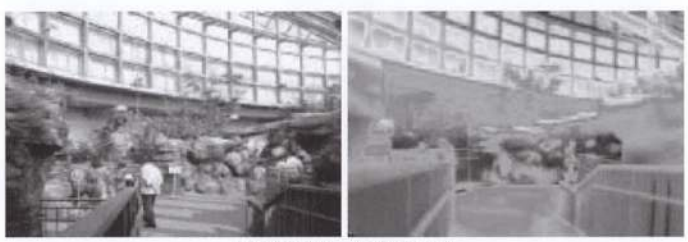
計画・施工にあたっては、CFDシミュレーション、実測検証によるコミッショニングプロセスを経て、その環境性能と効果を検証した。



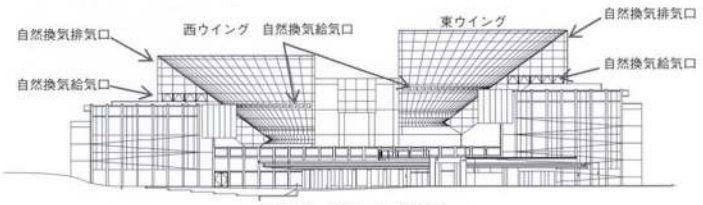
正面ファサード



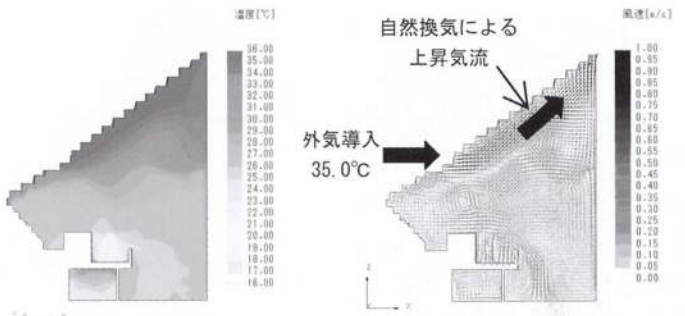
鳥瞰全景



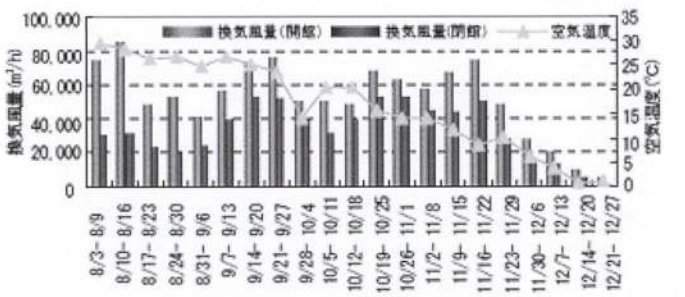
展示室（サーモグラフィ）



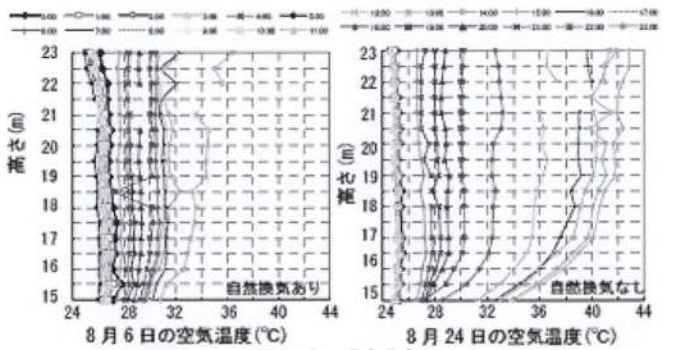
南立面（換気口位置）



CFDシミュレーション（アトリウム断面）



平均自然換気量と空気温度（実測値）



自然換気有無による上下温度分布（実測値）

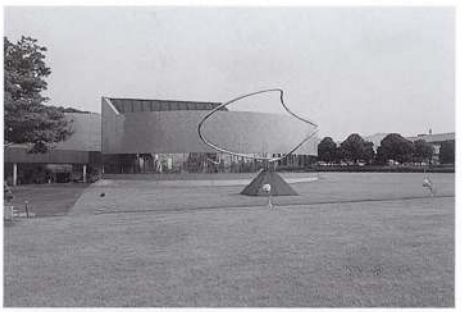
東海支部会員が語る

東海支部復活の経緯とその後

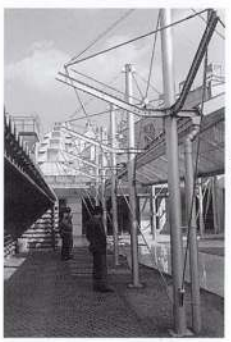
東海支部相談役
元彦根市長
愛知工業大学名誉教授

中島　一


静岡見学会　石水館（1982年6月）


静岡見学会　資生堂アートハウス（1982年6月）


静岡見学会　石水館内観（1982年6月）


静岡見学会　眉山ホール
（（現存せず）1982年6月）

支部復活前後の建築界

ご高承のとおり、㈳日本建築協会（以下協会という。）は、東京に中心を持つ㈳日本建築学会（以下学会という。）に対応して、関西を本拠として大正6（1917）年に設立されました。この間の当協会は、建築にかかわる多方面のご支援により発展を遂げ今日に至っております。設立の当初から、限られた学術関係者のみならず、建築に関わる設計・技術・資材・経営・行政・教育など各分野の皆さんに開放された団体として、その交流と総合性を通じ緊密な建築界の向上をはかり、社会への定義を意図したものであります。

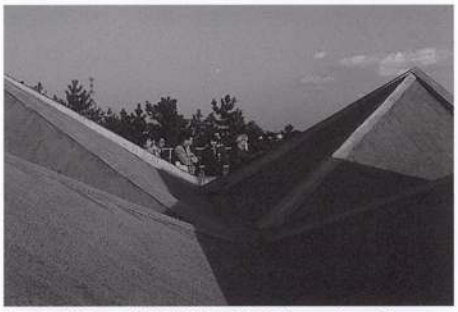
ところで、私ども東海支部（以下支部という）の設立は、昭和22（1947）年12月13日となっています。この当時の支部会員は少なく75/76会員名簿によれば約210名を数える状況でありました。

ちょうど、この頃の昭和25（1951）年に建築士法が公布施行された機に、㈳愛知建築士会（以下士会という）が設立されましたが、その他学会や㈳日本建築家協会※（以下家協会という。）の各東海支部が従前からあり、更に㈳愛知県建設業協会の、愛知県建築士事務所協会また、愛知県建築安全協会、東海建築材料協会等の関係諸団体があって各々目的とするところは共通の点もあり、それぞれ特質を備えていました。

※当時は日本建築設計監理協会の名称

また、一方、建築関係団体が互いに連携を保って建築行政に協力し、都市の健全な発展を図ることを目的として、昭和46（1971）年に愛知県建築開発等行政推進団体協議会を自主的に設立されたのであります。

これには上記の建築各団体はもちろん、一部開発関係団体も含まれ今後は連絡機関として一層発展することになりました。とは言っても、中でも前記の士会・学会・家協会等の従前からある団体にそれぞれ相互入会をしていることで、協会支部の維持が中々困難となり、むしろ協会本部直属にした方が適当だということで、一時支部解散となりました。しかし協会としては、東の方に伸びなければならないのに解散とは、将来の発展が期待できない等として、支部復活への強い要請もあり、支部先輩有志の大変なご尽力と、建築友好団体の力強いご支援により昭和35（1960）年10月15日に、支部復活を果たすことになったものです。



常滑見学会　常滑陶芸研究所（1981年12月）



東海の建築　　実務講習会



デザインシンポジウム中部'88基調講演
（1988年2月：名古屋にて）



常滑見学会　常滑市民族資料館（1981年12月）



常滑見学会　町並み散策



佐野正一 元㈳日本建築協会会長を迎えての全国支部会議（1982年7月：名古屋にて）

支部復活後の運営努力

支部復活への道程には、建築友好団体の温かいご支援・協力なしには進まなかったことは言うまでもありません。

ましてや、支部独自の自主事業の推進をはかることは言を待ちません。そのためには、支部役員各位の最大の努力と会員皆さんのご協力により成り立つものであります。

ここで当時の支部事業について、若干申し述べておきましょう。

■主な見学・研修事業について

□滋賀県〔大津・信楽方面〕滋賀県近代美術館・日本電気硝子㈱（NEG）大津工場・滋賀神苑等

□静岡県方面　資生堂アートハウス・石水館・登呂遺跡等

□愛知県常滑方面　常滑陶芸研究所・常滑民俗資料館・焼き物散歩道・山田常山窯等

□愛知県稲沢、岐阜県岐阜市方面、萩須美術館・岐阜県美術館・名和昆虫記念館・博物館等

■まちづくり

□中部建築賞創出（建築友好団体と共催）

□デザインシンポジウム中部'88（同上）

□'89世界デザイン会議（同上）

□'89デザインイヤー名古屋フォーラム（同上）

□国際デザインプラザ名古屋'90（同上）

■会報発行

□建築と社会「東海の建築」―昭和53（1978）年8月10日付NO.1を支部編集、会員・建築関係団体及び官公庁関係部局に配布、以後春・秋号を発行

□支部復活周年記念誌の発行―支部復活時の建築界と社会状況から、復活への苦労をしのび、新しい支部への躍進をはかる意図をもって、支部会員と情報の共有を図る。復活15周年を初出とし、15年ごとに発行。

□本部会報「建築と社会」に毎年3月号に「東海特集」を支部にて編集、本誌に取り入れてもらっている。

■技術向上・指導

□建築工事実務講習会（本部より講師派遣・テキスト配布）

□建築と社会「東海の建築」に技術のページを設け、時に応じ解説を行った。

□会員増強運動を行い、会勢の増強をはかった。

■会員相互の親睦と交流を図った。

終りに

東海支部も、本年の平成22（2010）年をもって50年の節目を迎えました。昨年は衆議院議員の選挙が行われ、ただでさえ不況のために根暗な建築界の神経をいらだたせたものがありました。その結果はご承知のとおりで、次の時代への転換をはっきり暗示したものとして注目したいと思います。しかし、この状態は政治だけでなく、旧体制に胡坐をかく分野を次々に襲うことも予想され、トワラーの第3の波に書かれたことも当らずと言えども遠からずといった状況になって来ました。このような御時世に節目を迎えた東海支部も、過去からの流れに身を任せて、のんびりとしているわけには行きません。このときに当り、当支部独自の立場での“支部のこれから”を改めて探る必要があるでしょう。それを探るには、“本部-支部の置かれた立場―支部を包含する社会の将来”等から類推することになりましょうが、レジメは抽象的な内容になっても、それに具体的な行為の延長線上にある当支部の姿勢となり、ひいては、当支部のアイデンティティに繋がることを期待いたしたい。

（なかじま　はじむ）

471
法令コーナー

全国建築審査会協議会の「建議」について

宮川和久
全国建築審査会協議会事務局
（京都市都市計画局建築指導部建築指導課）

「全国建築審査会協議会」については、本誌平成21年３月号で触れたところであるが、もう一度簡単に説明すると、全国の特定行政庁に設置されている建築審査会から構成される全国組織である。現在、京都市建築審査会の巽和夫会長（京都大学名誉教授）が協議会会長を務めているため、京都市が協議会事務局を担当している。

本協議会は、毎年１回開催される全国建築審査会長会議の開催を中心に、全国の建築審査会相互の課題共有や情報交換などを行い、建築行政の適正な運営を目的として設立されている。

第56回会長会議

本協議会では、平成16年以降、建築審査会の改革を目指して、シンポジウムや研究会の開催、アンケート調査の実施などに取り組んできた。その集大成として、昨年10月に山口県下関市で開催された第56回会長会議において、全国の建築審査会会長等400人余りが出席し、「建築審査会の目指す方向性と提案」として、建議・提言を行っていくことが決議された。

建議は、建築基準法第78条に規定された建築審査会の権能のひとつである。第56回会長会議で決議された建議は、法制度上の改善を国土交通大臣に求めるものである。また提言は、全国の建築審査会、特定行政庁、そして協議会自身の改善を提言するものである。ここでは、国土交通大臣に対する建議の内容について説明したい。

建議は、「再審査請求制度の廃止」と「指定確認検査機関の資料提出義務等」の２項目である。

再審査請求制度の廃止

再審査請求制度とは、建築基準法第95条に規定がある。建築基準法に係る処分・不作為に不服がある者は建築審査会に対して審査請求を行うことができるが、この審査請求に対する建築審査会の裁決に不満がある場合は、国土交通大臣に対して再審査を求めることができるというものである。平成20年度は、全国の建築審査会が処理した審査請求が132件であったのに対して、29件の再審査請求が提起されている。

しかし、この再審査請求制度に対しては、「地方分権の進展により建築行政は自治事務とされている」「国では、地方の状況が十分にわからないのではないか」「建築、都市計画、法律、公衆衛生、経済、行政の専門家から構成された建築審査会が合議によりなした裁決が、一行政機関である国土交通大臣の裁決で覆るのはいかがなものか」等の意見が協議会の中にあり、見直しが必要と考えてきた。都市計画法では、開発審査会の裁決に対する国土交通大臣への再審査請求制度は平成11年の法改正により廃止されている。

再審査請求制度の廃止については、協議会内部でも「市民の権利保護の趣旨から、不服審査の機会は多ければ多い方がいい」「再審査を、都道府県やブロック単位で行うことはできないか」という意見もあり、活発な議論を進めてきた。その結果、地方分権の流れや、行政不服審査法が再審査請求廃止の方向で法改正が検討されている状況、再審査請求制度を廃止しても訴訟の道があることなどから、再審査請求制度については廃止を求めることとした。もちろん、審理の一段化により権利保護のレベルが低下することがないよう、各建築審査会に対しては一層の公正な審理が求められることとなろう。

指定確認検査機関の資料提出義務等

審査請求に対して、迅速・的確な裁決を行うために、建築審査会から処分庁に対して建築確認に係る資料等の提出を求めることがある。処分庁が行政内の建築主事である場合、資料提出はスムーズに行われるが、民間の指定確認検査機関の場合、なかなか資料提出が行われない場合がある。

建築基準法第12条第５項では、特定行政庁、建築主事、建築監視員は指定確認検査機関等に対して報告を求めることができる旨の規定があり、これを拒めば罰則も適用される。しかし、建築審査会は法第12条第５項に規定されておらず、資料を求めることができない。一方、行政不服審査法では、審査庁が処分庁等に対して資料の提出を求めることができると規定されているが、これには罰則がなく、強制力のない、協力要請であるとされている。

そのため、指定確認検査機関が建築基準法第77条の25に規定される守秘義務を理由に、建築審査会に対して資料提出を拒否する場合が見受けられる。拒否とまではいかなくても、十分な資料が提出されない、なかなか提出されないといった事例がある。

そこで、国土交通大臣に対して、「指定確認検査機関から建築審査会への資料提出が円滑に行われるようにするために、建築審査会が審理に必要とし、求めた資料を指定確認検査機関が提出する場合は、秘密保持義務違反にならないことを国が明らかにすべきである」ことを求めることとした。

また行政不服審査法では、審査請求に関して指定確認検査機関等から建築審査会に提出された資料等については、審査請求人等の閲覧に供することとなっている。そこで、建議では「併せて、資料等を審査請求人等の閲覧に供した時にも秘密保持義務違反にならないよう、国において指定確認検査機関の秘密保持義務の範囲を整理すること」を求めている。

建議書の提出

平成22年２月３日、当協議会の巽和夫会長は、国土交通省において、前原国土交通大臣に建議書を手渡した。



前原大臣からは、「建議は重く受け止めたい。再審査請求の廃止については行政不服審査法の改正の中で扱われると聞いているので、廃止の方向で改正されるよう働きかけたい。指定確認検査機関の資料提出については当然のことなので、都道府県に周知徹底していきたい」との見解が述べられ、協議会としては確かな手ごたえを感じたところである。

また、国に対して要求するだけでなく、建築審査会や協議会自身も、建議と併せて決議された提言に沿って、情報公開や運営の在り方などについての改善に取り組む予定である。

※建議・提言の全文は、全国建築審査会協議会のホームページで見ることができる。
http://www.zenkenshin.jp/

（みやがわ　かずひさ）

373

構造の頁

建築における振動と固体音の低減にポリウレタン防振材を使う

小林久良雄

日本ゲッツナー㈱技術開発部部長

建築における防振は防振ゴムが主流であったが、急速に高分子エラストマーであるポリウレタン防振材の採用が多くなっている。

ヨーロッパ、オーストリアのゲッツナー社は、世界で有数の振動と固体伝播音を低減する特殊ポリウレタン防振材および防振システムの製造、設計開発を行う専業メーカーであり、鉄道、建築及び機械防振の分野で幅広く採用されている。鉄道分野では各国の高速鉄道、在来線、地下鉄そして路面電車の軌道の防振、建築分野では劇場、ホール、シネコン、体育館、フィットネス、プールなど、そして機械分野では新聞社の大型輪転機、機械式立体駐車場などの防振に豊富な実績がある。

新聞社、印刷センターの大型輪転機の防振（浮き基礎工法）

輪転機の防振工事（浮き基礎工法）は歴史的に振り返ると、防振材として、焼き砂を用いた面支持が在来工法であった。その後、床面に防振ゴム、壁面に炭化コルクとした点支持工法が実績として続いてきた。しかし、輪転機の高速印刷（最大20万部／時）、印刷精度の向上により、防振効果の良い材料及び価格面、安全面、納期短縮面に考慮した工法が求められてきた。最善な工法として、輪転機の支持コンクリートスラブを浮き構造にする浮き基礎工法がある。

輪転機に対する振動の軽減は、輪転機印刷工場の周辺、近隣住民に対する振動と騒音の問題、そして輪転機印刷工場内の職場環境の改善も大きな目的としている。この環境問題をクリアするための条件として、①輪転機稼動時問題のない振動値（印刷機器メーカー設定値）を満足する②輪転機稼動時の振動から転嫁される固体伝播音の低減、そして安全、安価で簡便な施工が可能である―ことを満足するためには、50年以上の耐用年数が可能であり、防振性能、特に高周波数帯においての減衰性がゴムに比べて良いエーテル系特殊ポリウレタン防振材シロマー（Sylomer®）やシロディン（Sylodyn®）の全面敷きが、輪転機防振の浮き床工法においては、最適とされている。**写真1**は、A新聞社において、ポリウレタン防振材を施工したものであるが、優れた施工性を示している。



写真1
A新聞社
大型輪転機の
防振基礎工事

B新聞社（1機あたり最大12万部／時）における発泡ポリウレタン防振材とゴム防振材の実機による比較（**図1**）では、同じコンクリートの浮き基礎に輪転機が2機設置され、おのおの異なる防振材にて防振されている。この2機の輪転機を同じ印刷処理数で運転して、防振効果を同時測定した。輪転機据付面（浮き床面）の変位を測定すると、目標の＋／－3.0ミクロン以内、固有振動数が設計の19Hzから20Hz台を達成していたが、発泡ポリウレタン防振材の特徴として、高周波数の領域での減衰が大きく違っていた。（使用部材：シロディン（Sylodyn®）NC-12.5）

高層建築物の中間階に位置する「多目的ホール」の防振

複合施設で必ず問題となるのが、それぞれ目的の違う環境をどう満足するかであるが、特にホール、劇場、シネコンなどが計画されている場合、音・振動の対策は大きな課題とされている。

本複合施設ビルは低層階に商業施設、中層階に多目的ホール、高層階にオフィスが同居する高層ビルのため、音響仕様として、上階のオフィスとの遮音量は85dB以上（500Hz）、ホールの防振支持材の固有振動数は10Hz以下が設定されている。多目的ホールは5～7階に位置し、高度な遮音・防振性能

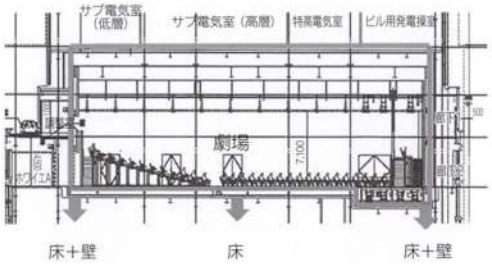


図2　多目的ホール―天井及び壁荷重をすべて床で支持する―

を実現するため、**図2**に示すように天井・壁は大型鉄骨フレームで自立し、天井面、壁面とは完全に縁切りをし、荷重をすべて床フレームで受ける構造となっている。

鉄骨フレームを支持する防振材の負担荷重は1ヵ所10tonから40ton以上となり、将来のメンテも不可能なため、防振材は、以下の選定条件を満たす必要があった。

①無積載時、積載時及び、移動客席使用時において固有振動数10Hz以下を満足する②長期クリープ特性がすぐれている③長期静的バネ定数の経年変化が少ない④50年以上も設計スペックを満足している―以上の条件を満たす防振材としてゲッツナー社のポリウレタン防振材が選定された。選定の要因は以下の理由である。

①耐久性において、ヨーロッパの高速鉄道、地下鉄の軌道防振材として多くの実績がある②鉄骨のベース形状に適応したサイズが選定でき、かつ大荷重において、対応が可能③あらゆるベースサイズ及び負担荷重において固有振動数を10Hz以下に満足できる④性能予測計算と実測値の誤差の精度が高い⑤日本国内においての大型建築物の実績も多い。



写真2
柱部におけるポリウレタン防振材の設置例
（多目的ホール）



写真3
施工中の複合ビル内の多目的ホール

厳しい設計条件の中で、施工においては鉄骨の精度はもちろんのこと、ベースのレベル及び組み立て精度も十分管理され、結果として、ホール鉄骨フレームの左右・前後の防振材のたわみ量は計算予測値の1mm以内の範囲であった（**写真2、3**）。

今後機会があれば、構造的問題解決についての事例をご紹介したい。

（こばやし　くらお）

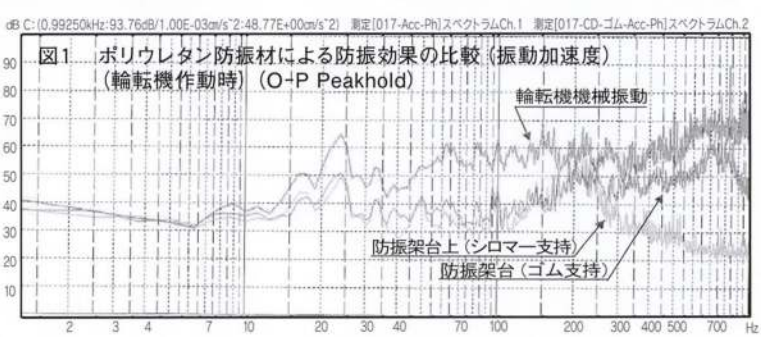


図1　ポリウレタン防振材による防振効果の比較（振動加速度）（輪転機作動時）（O-P Peakhold）

まちづくり活動に
取り組む人々。

10 「わが町中津」を考える会
霊崎伸行（たまさき のぶゆき）

このまちが好き



中津を大阪のオフブロードウェイに

阪急中津駅から商店街を中心に、淀川の自然を背景とする中津の一帯は古い民家と共にお年寄りも多く、ゆったりと時間が流れ、やさしい空気が漂い、懐かしく古い佇まいを残している。

梅田から徒歩圏内にありながらこの地域に都心的商業開発の手が及ばなかった由縁は、阪急電車、国道176号線、JRの高架と淀川がガードサンクチュアリ（聖域・保護区）ともいうべき城砦となってそれを阻んだといっても過言ではないだろう。

折しも大阪駅北ヤードの開発も始まり、この中津一帯にも新たな開発の波が押し寄せてくることは避けて通れないと思うが、商業的開発とは異なる開発のあり方があるのではないかと考える。それを考える一つのヒントは高架に求められる。

期せずしてここ6～7年来高架下の元倉庫であったスペースにライブハウス「Vi-code」、ギャラリー「アートカクテル」、ブロードウェイミュージカルのカリスマ ボブ・フォッシーの直弟子ジャン・ミネオが指導するダンス教室「BMT」、ショーコスギが運営する「ショー・コスギ塾」、劇場・オープンカフェ・フリーマッケット・太鼓教室等の多目的スペースを擁する「ピエロハーバー」、高架下ではないが中国楽器のオーケストラの稽古場「オリエント楽友」等の施設が次々とオープンし、古くからある南蛮文化館（キリシタン・南蛮のジャンルでは日本有数の私設美術館）が隣接していることもあいまって高架下周辺地域が芸術、文化の発信基地に発展する兆しが見え始めている。


「高架下」



「vi-code」


「ピエロハーバー」

中津は都心から近く家賃も比較的安いことから芸術、芸能を志す若者たちのインキュベータとしての役割を果たしてきた。若き日の西川きよしさんも駆け出しの頃へレンさんと中津に住んでおられ、現在も中津を住まいとしている吉本等の芸人や若いアーティストが少なくない。あまり知られていないが中津が生んだ芸術家としては1928年30歳で夭逝した天才画家佐伯祐三、「女の一生」や「無法松の一生」の劇作家森本薫があげられる。新しい芸術・文化の芽を育てるのは都心ではなく周辺部でこそ条件が整っているのではないだろうか。

地域住民の応援団と自認する私が「わが町中津を考える会」を発足させるきっかけになったのは、数年前、自宅周辺に大きなマンションが4棟も建ったことにある。1棟目の時は反対運動が盛り上がったが、あとはなし崩し。しかしこの反対運動が定年を数年先に控えた私の目を中津に向けさせた。手始めに町歩き。高架下の元倉庫跡に次々とオープンしていく新しいスポットを訪ね歩き、中津のマップ作りを始めた。ユニークなお店を見つけては取材し、許可を得てマップに掲載していった。高架下に集中するスポットはいずれも演劇、アート、ミュージカル等それぞれのジャンルで熱い志を持ったオーナーが質の高い活動を展開していることから「文化芸術エリア」と命名し、戦災から焼け残り今も人情豊かな長屋群や昔懐かしい風情が残る商店街周辺は「ふるさとエリア」と名付けた。希望があればマップを片手に中津の町を案内している。みなさんもオフブロードウェイともいえるこの町に遊びに来られませんか。

12

再読 関西近代建築
―モダンエイジの建築遺産―

千里ニュータウン

三好 庸隆

■千里ニュータウンと私

〈千里ニュータウン〉という言葉の響きは、学生時代や若き日々の研鑽時代の甘酸っぱくも懐かしい記憶を私に思い起こさせてくれる。

1970年頃から阪急電鉄北千里駅を最寄り駅とする大学キャンパスに5年通い、その後、恐らく日本で最も多くのニュータウン（以降、NT）を手がけ千里NTにも多くの足跡を残した市浦都市開発建築コンサルタンツ大阪事務所（北千里駅ビル内に存在していた）におよそ10年弱勤務した私は、千里NTが住宅地としての今の骨格をほぼ整え終えた頃から身近に見、生活し、そして専門家としての目で今日まで眺め続けているということになる。

当時の記憶は今となっては断片的であるが、しかし例えば、北千里駅から東へ、藤白台の三色彩道を左手にふじしろ幼稚園を見ながら阪大キャンパスに向かって歩いていると、ふとあの頃の記憶がよみがえる。暑い陽光の照り返しがかくも緑豊かで、文字通りモール（木陰の散歩道）として美しく成熟しているではないか。まさに深い感慨を覚える。

千里NTも建設当初から振り返れば、まちづくりに関していろいろなことを言われ続けてきた。まちは生命体である。とどまることのない川の流れのようなものである。まちの評価が難しい一因は、いつの時点で、どういう視点から評価するか、ということが人それぞれで異なるからであろう。私はその後もNTの計画・設計・研究をライフワークとしており、プランナー・設計者として今も千里NT近くの国際文化公園都市・彩都に深く関与している。この彩都も、まちづくりとして賞賛もあれば、揶揄する声や、厳しい意見があることを承知している。千里NTで学んできたことを彩都に活かし、彩都での次の時代を見据えた新しい試みを、千里NTでも応用する。計画的住宅地、まち、都市を創造するという20世紀に開拓された時代の英知は、今どこに行こうとしているのか。

NTのプランナー・設計者・研究者の視点から、『建築と社会』のバックナンバーを手繰りつつ、文字通り千里NTを再読し、考えてみたい。

■千里ニュータウン建設の背景とその使命

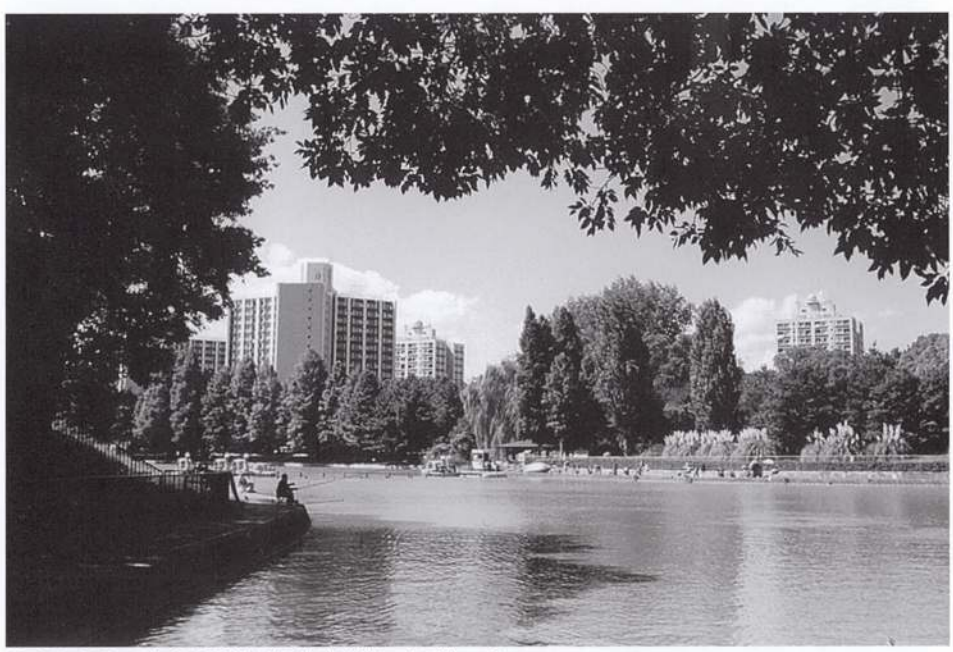
千里NTに関してはこれまで多くの論評がなされている。この稿においてはそれらの論評との重複を出来るだけ避け、異なった視点から論述できればと思う。

さて、千里NTとは一体何であるのかを考える時、計画当初のこの事業の背景や使命について振り返ってみることは、意義あることである。

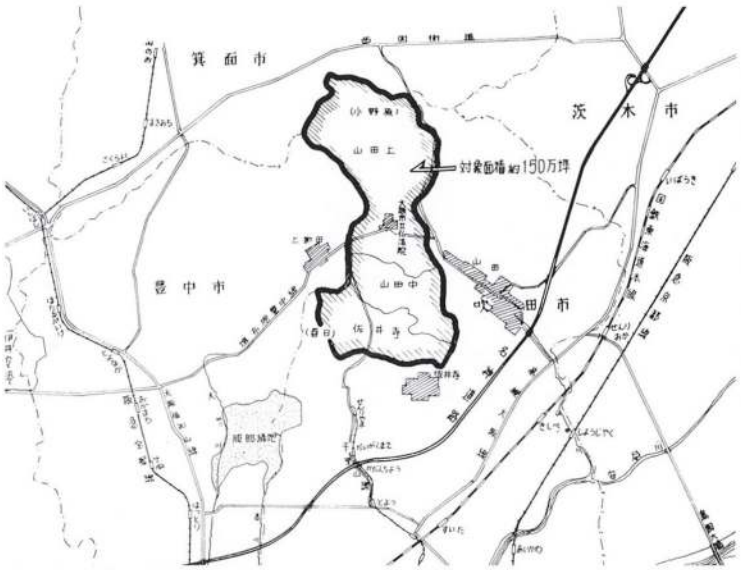
計画初期の本事業にかける熱い想いは、50年以上前にさかのぼる『建築と社会』昭和34年(1959) 6月号の「NEW TOWN-大阪の場合」（執筆者：大阪府住宅建設課企画係長 前田勇氏）や、昭和37年1月号「千里丘陵住宅地区開発」（執筆者：大阪府企業局宅地開発部企画課 寺内信氏）などの記事からうかがい知ることが出来る。前者は、本事業のアウトラインが徐々に新聞等で公表され出した時期で、用地買収がおよそ半分位（約500ha）進んだ段階での論文であり、主として本事業の位置づけ、概要に重点が置かれている。後者は本事業建設開始（昭和36年）後、間もない頃の論文で、主としてマスタープランの検討プロセスや住宅地計画内容について詳しく報告されている。

まちびらき年		昭和37年（1962年）
開発規模		約1,160ha
施行者		大阪府
広域的な位置づけ		北大阪地域における新都心 （「大阪府新総合計画」（平成3年））
人口	計画人口	約150,000人 （約37,300戸）
	現在人口	約95,800人 （平成12年国勢調査）
当初の住宅の種別と戸数	公共賃貸集合	10,500戸（26.2%） 府営、市営
		12,970戸（32.3%） 公社、公団
	分譲集合	4,570戸（11.4%）
	戸建	5,780戸（14.4%）
	その他	6,300戸（15.7%）
	合計	40,120戸（100.0%）

出典：『千里ニュータウンの現状に関する調査』（大阪府豊中市、2000年）ほか

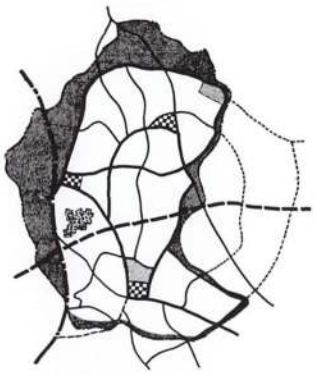


①千里南公園 南千里駅北側（現在）（撮影：太田博一氏）

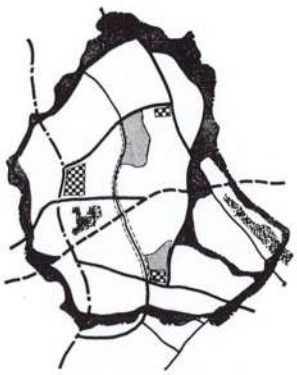


②千里丘陵地区附近見取図

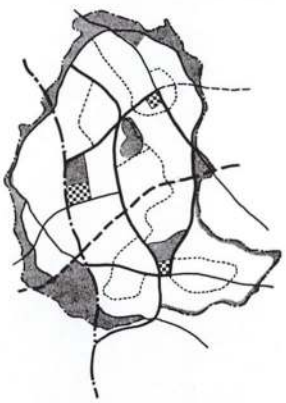




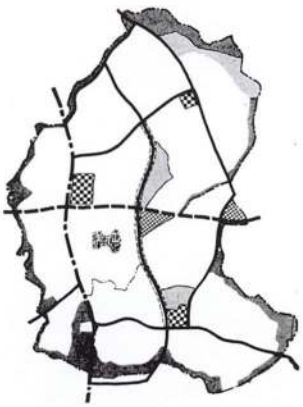
第1図　マスタープラン第1次案



第4図　第　4　次　案



第2図　第　2　次　案



第5図　現行マスタープラン



第3図　第　3　次　案

凡　例

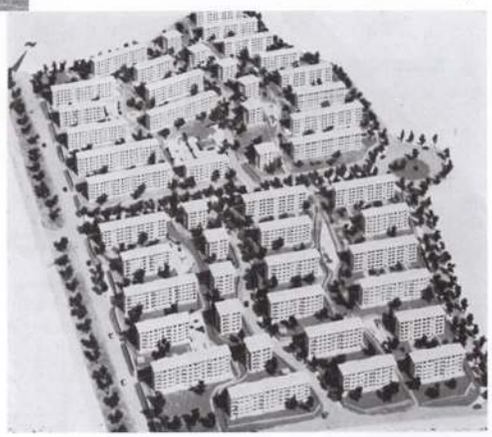
- 幹線都市計画街路
- 〃
- 都市計画街路
- 公園（パークウエイ）道路
- 計画街路
- 区域境界線
- 周辺緑地
- 地区センター
- 都市公園
- 既存集落



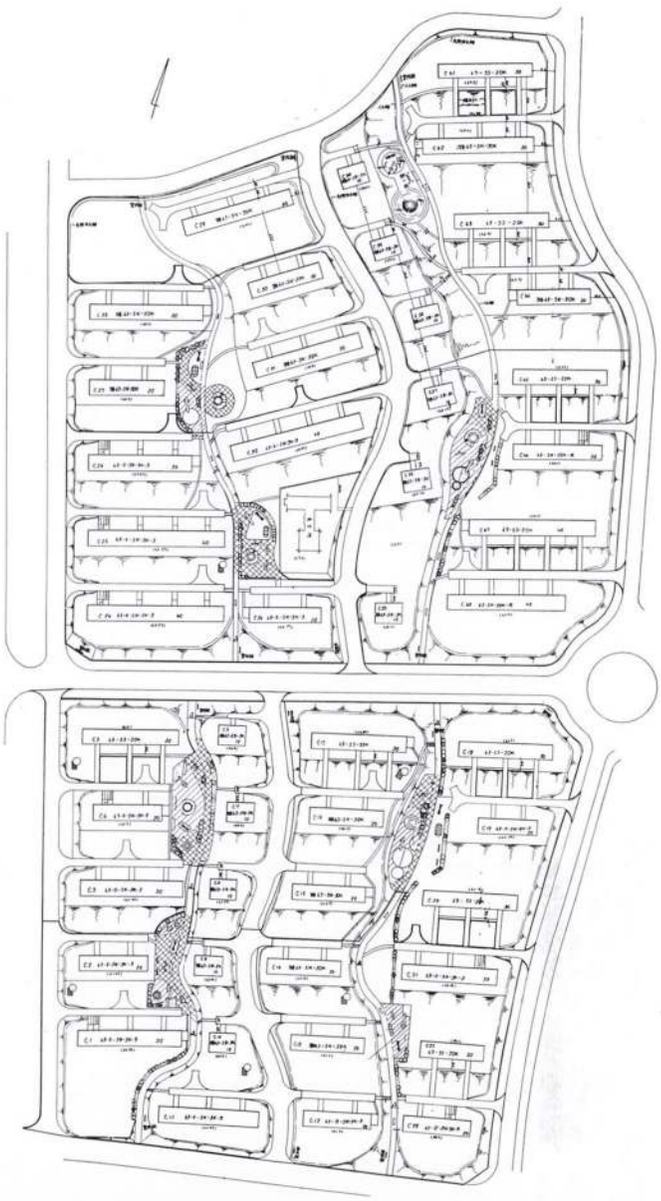
③千里丘陵住宅地区開発マスタープラン

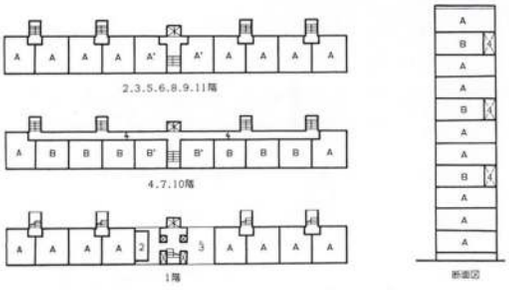


▲
◀④建築作品
一千里ニュータウン
南地区センター専門街



⑤千里津雲台団地設計 ▶





A．A’ 3DK住戸
B．B’ 2DK住戸
1．　エレベーター
2．　電気室
3．　ピロティ
4．　廊　下

⑥千里E地区高層住宅



1．食事室兼台所
2．居　　間
3．浴　　室
4．便　　所
5．洗　面　所
6．納　　戸
7．押　　入
8．バルコニー
9．廊　　下



「建築と社会」第40輯6号（昭和34年6月号）、第43輯1号（昭和37年1月号）、第45輯7号（昭和39年7月号）、第47輯4号・7号（昭和41年4月号・7月号）より

NTを論じる時、必ずと言っていいほど言及される事項の一つに、NTの生みの国である英国NTとの相違があり、その最も大きな点の一つである職住近接の問題がある。千里NTは英国NTとは異なり職場がなく、純住宅地≒ベッドタウンであり、生活の多様性や面白味に欠けるといった批判がよくなされる。

計画当初はどのように考えられていたのか。前田（1959）によると、当時NTという言葉が日本で盛んに用いられ始めたことについて言及しつつ、英国NTとの考え方の差異についてかなり意識していることがうかがえ興味深い。論文では、英国の第一次産業革命以降の社会問題や一連の社会改良主義者たちの田園的理想都市の流れに触れるとともに、英国の家庭生活の長い伝統にも触れ、日本と英国の政治、経済、社会構造について「…あまりにもいろいろ条件が違っている」と述べ、「日本で本格的なNew Town、職場と住宅とを一緒に考えた新しい衛星都市を考える場合、果たして英国で行われている形が、最も理想的なものであろうか」と問題提起がなされている。そして「具体的に言って職場と住居との結合に神聖な宗教的な意味を認めるような伝統のない我が国で、職場と住宅とをそんなに無理にまで小さな街の中で一致させる必要があるのであろうか」「特に大阪の場合、東京の場合とは違って大都市の立地条件としてもロンドンのそれとあまりにも違いすぎる。…大阪の場合は半径40キロで神戸、京都、奈良を完全に包含してしまう。…また大阪市内に住宅適地が少なく、また私鉄の沿線開発が非常に早くから発達したために、郊外住宅と市内住宅との比重はその量、質ともに東京やロンドンの場合と著しく違っている。大阪のNew Townを考える場合、これらの地理的、経済的、社会的な特性を充分考慮して、われわれにふさわしいものを考える必要がある」としている。当時の国家的プロジェクトであり、計画・技術論両面において未経験のことが多い大事業を担う技術者の熱気が行間から伝わってきてなかなか力強い。

住宅問題に対しては、当時どのような位置づけであったのか。これも前田（1959）に詳しい。当時、住宅問題は徐々に量から質的な問題に重点が移行しつつあった。そのような中、「大阪の場合でも既成住宅地はものすごい地価高騰のため、集団的な住宅建設をほとんど不可能にしてしまっていた」「…豊中市などの衛星都市における人口増加と、これに伴う住宅ブームは自治体としての機能に致命的な打撃を与えようとしている」状況であり、「いまや、これらの無秩序に行われている住宅建設を始め、各種の事業を有機的に結びつけ、大都市圏の合理的な開発に踏み切るときであろう」と考えられた。そして総合的な視野のもとで、徹底的に大規模な計画を実施し、公営、公団住宅などすべての機関があらゆる事業を効率的に集中する事業を起こすことにより、住宅建設と都市計画との悪循環を絶ち、土地の投機的な値上がりの排除を目指すことが意図されていたのである。このような大規模開発の適地は、当時府下でいくつか挙げられていたが、「いわゆる千里丘陵は最も大阪市中心部に近く、またその付近の発展状況などから見てももっとも緊急に取り上げねばならず、また、もっとも取り上げやすい地区と思われた」わけである。

本事業は、おおよそ以上のような背景と使命に基づき、計画の基本方針として、4点が挙げられている。以下にその要点を記してみる。

A. 梅田ターミナルに依存しない独自の文化的な性格を持つ住宅都市を造る。このため人口はできるだけ大きくしたい。…積極的に大阪市のビジネスセンターへの通勤を徹底的に便利なものにする。

B. 平均100～150人／haの人口密度で収容するために、かなり高密度の公共アパートと低密度の独立住宅を複雑な地形に合わせて混在させる。

C. 今後、かなりの発展を予想される周辺地区との間には、…かなり幅の広い緑地帯を設けて独立環境を保持するよう努める。…大きく北大阪全体を背景として各種の文化的な施設を誘致し、大阪市内からの人口を引き出し、通勤交通の一方向性を是正するとともに、この地区の文化的な性格を強めていく。

D. 用地は地元の協力を得て全面的に買収し、徹底的に府、自らの手で開発を行い、…（諸事業の為の）特別会計を設ける（下線 筆者）。

この基本方針において、かなり初期の段階から、文化的性格を持つ住宅都市が目指されていること、また、小林一三モデルよろしく都心と逆方向のマグネットとして文化的施設の誘致が力強く謳われており、単なるベッドタウンでよしとは決して考えていなかったことに改めて注目しておきたい。

事業面についても確認しておきたい。用地買収については、全面買収方式であり、寺内（1962）によれば、「…土地の筆数にして約5万筆、土地関係の権利者がざっと3,000人にも及んだため、その調査もさることながら買収交渉は並大抵のものではなく、加えて現地において一部反対運動が展開されたりしたので、予期した以上に時間がかかったが、この開発の意義を充分に理解されたことと、担当者の努力の甲斐もあって、ほとんどの用地を確保することが出来た」ようである。事業収支に関する戦略についても、興味深い記述が見られる。前田（1959）によれば「…公共的な事業を最初から計画的に行うことによって意外なほど採算のいいものになる。結局、無計画な散発的な開発では不心得な連中だけが利益を吸い取ってしまうのを計画的にコントロールしていくわけである」として「…できるだけ多くの個人住宅用分譲地を生み出すために（個人分譲地の価値は公共的住宅用地の価値に比して、かなり高く仮定しているし、また充分需要があると思われるので）公共的住宅型式はかなり密度の高いものにしたい」としている（下線 筆者）。このような戦略から、千里NTの戸建住宅街区は、「…従来ほとんど大阪府下には見られなかった高級な住宅街区も造っていきたい」とされた。その結果、今は一般庶民の手の届きにくい高級住宅地となっているのは周知のとおりである。

■千里ニュータウンの成果と今後

本項をまとめるに際し、改めて千里NTの足跡に目を通すと、その事業スピードに今更ながら驚かされる。また『建築と社会』におけるその他の千里NT関連記事からも共通して、高度経済成長下の時代の空気のようなものを感じ取ることができ、私個人としても初心に返る気持ちを味わうことが出来た。

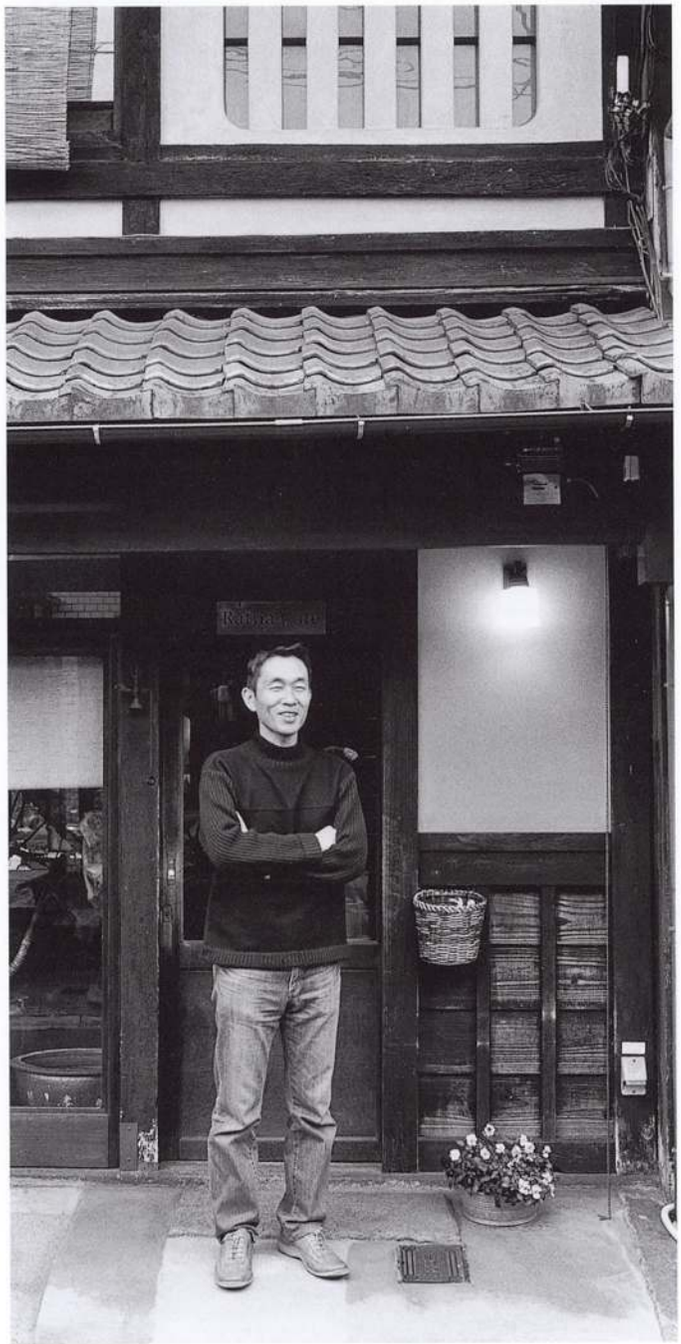
その千里NTは、およそ50年の歴史を経て、日本を代表する良好な住宅都市に成長して今日に至っている。しかし、かつての建設スピード故、その良好さ故に、住宅の老朽化が目立つとともに、世代交代が進んでいない。また、そこかしこで見受けられるマンション建替事業は、他地域におけるマンション建替事業と同様に余剰容積を食いつぶす方式で、採算ありきで事業化が進み、そこに千里NT建設初期に見られたような未経験の大規模プロジェクトにかける熱い想いを見つけ出すのは正直言って難しい。千里NTにおいてまちづくりの一世代を終えつつある今日、建設計画に関連するハード面や、生活支援に関連するソフト面について真の生き続けられるまちづくり、暮らしづくりに向けての熱い想い、未来を見据えた強い志・イメージが今の千里NTに最も必要とされているのであろう。

（みよし つねたか／武庫川女子大学教授・工学博士／PPI計画・設計研究所）



⑦新千里東町こぼれび通り（現在）
（撮影：太田博一氏）

森田 一弥　—MORITA KAZUYA—



学歴
1994　京都大学工学部建築学科卒業

経歴
1997　　同修士課程修了　（布野研究室）
1997〜01　左官職人として文化財建築物の修復工事に従事
2000　　一級建築士事務所　森田一弥建築工房　設立
2007〜08　ポーラ美術振興財団の若手芸術家在外研修員としてスペインに滞在
2008　　一級建築士事務所　森田一弥建築設計事務所　に改称

受賞歴
2001　JCDデザイン賞2001　新人賞（繭）
2004　日本建築士会連合会賞　奨励賞（ラトナカフェ）
2006　AR AWARD 2006（イギリス）優秀賞（Concrete-Pod）
2009　大阪建築コンクール 渡辺節賞（Shelf-Pod）など

聞き手　古谷隆祥（昭和設計）
写真撮影 河合止揚

素材を知り、つくる面白さを知る

左官職人という異色の経歴をもつ建築家。森田一弥氏は左官の世界で何を得て、設計の世界で何を実現しようとしているのか。同世代の建築家であり同時代を生きる設計者として率直な話を聞いた。

学生時代はフィールドワークを中心にチベットの都市ラサを研究するが、日本の建築も学びたいと卒業後に左官の世界へと進む。左官でも大工でもいいから、見るだけより現場で働きたかったというがその決断と行動力には驚く。話を聞き終えた頃には、左官への道が必然のように思えていた。

京都での左官仕事は文化財の修復作業が多く、古い建物や傷んだ建物の解体を通して、建物の素材や技術、デザインが長い年月を経た後の結果を実感できる良い機会になったという。文化財といえどもその時代で手に入る素材や技術を合理的に駆使している事実を目の当たりにしたことは、その後の設計に大きく影響している。

結果的に下積みの2年を含めて5年の左官職人を経て、ひと通りの左官仕上は身につけたが、古いものを元通りに直すことが多く、本当に面白い事をするには自分が設計するしかないと設計の世界へと進む。左官職人の仕事を奪うより、職人魂に火をつける仕事を生み出す側にまわるべきだと。建築が乾式化し左官自体が減少している現状だが、技術の継承より左官そのものを残すことが後世につながるという。今でも職人と勉強会を開催しネットワークを大切にしている姿に、ものをつくる人間に対する共感や敬意をみてとれる。

設計初期の作品である「ラトナカフェ」では1種類の土による多様な左官表現を試みている。山から土を探すことや古い町家からの建具収集、左官調合から塗り作業まで、とにかく現場と密に関わっている。これらは左官職人時代の経験や観察力を活かした結果であるとともに、フットワークの軽さやエネルギーを感じさせた。建物からは建築家の強烈な個性というより、全体として違和感のないバランスの良さを感じたが、裏を返せば、左官や町家のもつ素材の強さが設計者の個性を超えてしまうということだろうか。

日本における左官は木造の軸組で構成された壁の間を埋める平面でしかないと限界を感じるというが、設計の世界へ歩みを進めた今もなお、スペインのブロック積工法（カタラン・ボールト）を参考に左官が構造体として自立するアイデアを提示し、災害仮設住宅として利用できないかと研究・実験に参画するなど、左官への好奇心はつきることなく、左官を知る建築家の強みを発揮している。

建築家としては左官に限定せず、素材と技術と建物の関係を大事に設計しているという。「Shelf-pod」では多数の書籍を収蔵したいという要求に対して、書棚を構造利用する試みを構造家とともに実現しており、そのテーマ性と実行力の高さも感じた。

森田氏の設計事務所兼自宅は京都市の郊外、棚田広がる静原にある。それは彼と京都や左官との距離感でもある。「鉄やコンクリートは万能過ぎて面白くない。左官技術や切妻屋根などローカルな技術はどこでも成立するわけではないが、意外と広い世界で成立していて面白い。」と、ローカルな環境に身を置き、ローカルな基本技術を身につけてこそ、ローカルと普遍性の両立が可能と考えている。

アジアの建築を学ぶことから始まり、京都のローカルな左官技術を土台としてネットワークを構築し、再び世界とも繋がっている。建築家はもっと地方で貢献しないといけないという彼の姿は、IT化が進み、点と点がダイレクトに繋がる現代を反映しているのかもしれない。設計はどこでもできると。生活はそこにしかないと。

お知らせ Information

▶「聴竹居」と藤井厚二展 ―日本の気候風土に根ざした住宅の追求―

藤井厚二（1888～1938）は、大正２年に東京帝国大学工科大学建築学科卒業後、竹中工務店を経て、京都帝国大学において気候風土と日本の住宅との関係について研究を進め、日本における環境工学の先駆者として知られる。さらに、日本の気候風土とライフスタイルや趣向に適合させた住宅を数多く設計してきた。自邸も実験住宅として５回建てており、昭和３年に竣工した５回目の自邸が「聴竹居」で、これはまさに環境共生住宅であり、彼が追い求めた「日本の住宅」の理想型が実現されている。またデザインの面でも、ヨーロッパで起こったモダニズムと日本の数奇屋の意匠を巧みに融合させており、日本のモダニズム建築の傑作として評価されている。

会　期　2010年３月６日～４月11日（日）
　　10：00～17：00
　　休館日：３/９・15・16・23・30、４/６
会　場　大阪くらしの今昔館　企画展示室
　　大阪市北区天神橋6-4-20
観覧料　企画展のみ300円
　　一般：常設展＋企画展800円
　　学生：常設展＋企画展500円

■シンポジウム―参加費無料―

日　時　2010年４月３日（土）16：00～18：00
会　場　大阪市立住まい情報センター
　　３階ホール
テーマ　藤井厚二「日本の住宅」から学ぶこと
パネラ　石田潤一郎（京都工芸繊維大学大学院教授）
　　小玉祐一郎（神戸芸術工科大学教授）
　　松隈　章（ギャラリーエークワッド）
定　員　240名（当日先着順）

▶「村山龍平邸和館」見学会

藤井厚二が設計した村山龍平邸和館の見学会。神戸市東灘区の村山龍平邸は普段非公開であるが、今回は特別の公開となる。

日　時　2010年４月10日（土）
　　10：30～12：00
講　師　石田潤一郎氏
参加費　1,000円（見学料、講師代等）
定　員　30名
締　切　３月26日（金）必着
申込先　参加希望・住所・氏名・年齢・電話番号を明記し、往復ハガキ（１通につき１名）、またはホーム頁から下記へ申し込み。TEL06-6242-1170
　　大阪くらしの今昔館／〒530-0041
　　大阪市北区天神橋6丁目4-20

▶「郷土の遺産再発見～幻燈で見る明治・大正・昭和の都市遺産」

堺市内の百舌古墳群が世界遺産登録を検討されていく中で、郷土の貴重な明治・大正・昭和の都市遺産の現状をスライドで見ながら、保存再生の意味を考える。参加費無料。

日　時　2010年３月20日（土）11：00～
場　所　南海高野線北野田駅前
　　堺市立東図書館（アミナス北野田４階）
講　師　明治建築研究会代表・柴田正己
内　容　浜寺公園駅舎，諏訪ノ森駅舎、旧浜寺町役場庁舎、旧大浜潮湯、旧堺公会堂、旧堺紡績会社跡、旧堺セルロイド会社跡、終戦時の内閣総理大臣鈴木貫太郎の生まれた邸宅跡、旧蔵屋敷跡、明治期の難波駅舎、新歌舞伎座、旧大阪市庁舎、旧砲兵工廠本館、旧第四師団司令部庁舎そのほか

問い合わせは、堺市東区大美野155-13、明治建築研究会（TEL072-236-3357）へ。

▶竹中大工道具館「技と心」セミナー開催

「技と心」セミナー41回、42回の開催と参加申し込み方法は下記のとおり。

会　場　竹中大工道具館
参加費　無料（入館料別途要）
申込み　往復ハガキに所要事項を記入し（１枚につき４名まで可）、竹中大工道具館「技と心」セミナー係へ。
　　〒650-0004　神戸市中央区中山手通4-18-25

●復元設計を通して読む古代建築のかたちと技術

――平城宮大極殿の復元設計、山田寺金堂、正家廃寺金堂、加守廃寺六角堂、新薬師寺金堂などの復元図を実際に描いてみてわかってきたこと。

講　師　清水重敦（奈良文化財研究所景観研究室長）
日　時　2010年５月15日（土）13：30～15：00
　　（申込み締切りは４月30日）

●石器でつくる大型建築―縄文時代の技術と道具―

――木の建築の部材相互を仕口によって組み合わせる工法は鉄器使用によって可能になると考えられていた定説をさらに約2000年前に遡らせる発見があった。その技術内容とは？

講　師　渡邉　晶（竹中大工道具館学芸部長）
日　時　2010年７月17日（土）13：30～15：00
　　（申込み締切りは７月２日）

▶ミラノサローネ2010視察ツアー

世界最大規模の国際家具見本市であり、インテリアのトレンドを発信する「ミラノサローネ」。ミラノ市内では「デザインウィーク」として定着している。

東京デザインセンターでは、8年目となる今年も視察ツアーを企画している。今年は、隔年で開催されるキッチンの見本市「Eurocucina」もあわせて視察できる。さらにツアーには、出発前にミラノ・デザインウイークの最新情報MAPがもらえるなどの特典もある。

●Aプラン（添乗員同行）
4月12日(月)～18日(日)
¥358000-（日本航空直行便）
●Bプラン（フリープラン）
4月13日(火)～18日(日)
¥288000-

3月も引き続きツアーへの申し込みを受け付けているが、確認はJTB法人東京第5事業部営業3課(三浦／河村、TEL03-5909-8119)へ。

▶第17回空間デザイン・コンペティション応募要項

日本電気硝子㈱が主催する「空間デザイン・コンペティション」は、例年通り［提案部門］と［作品例部門］に分けて実施される。

審査委員は、香山壽夫／村上徹／小嶋一浩／三宅雅博の4氏。賞金はA［提案部門］の最優秀賞1点100万円／優秀賞1点30万円／入選8点各5万円。B［作品例部門］は、最優秀賞1点50万円／優秀賞1点10万円／入選8点各5万円。

A［提案部門］
課　題　多目的な教育空間のためのガラス質
登　録　2010年8月6日（金）までにhttp://www.kenchiku.co.jpへ
提　出　2010年8月20日(金)　—消印有効—
提出先　㈱建報社「空間デザイン・コンペティション—提案部門」係
〒113-0034東京都文京区湯島2-30-8

B［作品例部門］
ガラスブロック、ネオパリエ&ラピエ、ファイアライト、グラソア、チュービー、アクラス、ベルーナ、その他の日本電気硝子社製品を使用した感性豊かな作品例の募集。
資　格　2010年8月6日（金）までに竣工した建築物・構築物を設計した個人または組織
登　録　［提案部門］に同じ
提　出　［提案部門］に同じ
提出先　㈱建報社「空間デザイン・コンペティション—作品例部門」係

詳しくはhttp://www.kenchiku.co.jpに掲載。

▶「名古屋デザインDO！2010」

35歳未満のデザイナーや学生を対象に、テーマ「未来のために—まもる、すくう・できる」に対する斬新な発想とデザインの提案を求める第7回国際コンペティション。主催は名古屋市・㈱国際デザインセンター・中部デザイン団体協議会で構成される「名古屋国際デザインコンペ開催委員会」。

分　野　プロダクト部門、空間部門、ビジュアル・コミュニケーション部門、その他の部門の4部門に分かれる。
資　格　2010年4月23日現在18歳以上35歳未満の個人またはグループ
公用語　日本語と英語
手数料　出品手数料不要
応　募　第一次審査用作品受付
2010年4月1日～4月23日
賞　金　グランプリ1点100万円／部門賞4点各10万円／入選15点記念品

応募要項はhttp://www.idcn.jp/compeに掲載。

▶「創っ展〈ツクッテン〉2010—ATC関西学生卒業作品展」

建築、インテリア、環境デザイン、プロダクトデザイン、ファッションなどのデザイン系学生が企画から運営に至るまで意見を交換しながらつくり上げていく卒業作品展が4日間、今年もATCビルITM棟で開催される。

会　期　2010年3月19日(金)～22日(月・祝)
11：00～18：00
会　場　ATCビルITM棟10階
大阪デザイン振興プラザ特設会場
入　場　無料

▶グッゲンハイム美術館の設立50周年記念展招待作家として

ニューヨークのグッゲンハイム美術館は、フランク・ロイド・ライトの設計により1959年に設立されて以来50周年を迎えた。これを記念して、各国から招聘された200人のデザイナー・建築家・芸術家が様々な視点から“吹き抜けのロトンダ”空間への介入を試みる。題して《CONTEMPLATING THE VOID》。大阪産業大学工学部建築・環境デザイン学科教授で、建築家の山口隆氏も招待作家のひとりとして出品している。

会　期　2010年2月12日～4月28日(水)
木曜日休館、日～水曜日・金曜日／10：00～17：45、土曜日／10：00～19：45
場　所　ニューヨークのグッゲンハイム美術館
入場料　大人18＄、12歳以下は無料

▶「第41回日展」開催


「ひととき」佐藤　哲

「日展」は明治40年の「第1回文展」に始まり、「帝展」、新「文展」を経て戦後「日本美術展覧会」と改称し、組織を「日展」と改組後今年で41回の開催となる。

今回の応募作品総数は14,331点で、入選点数は2,363点。大阪展では日展の大家作家による作品と入賞者の作品の273点に加え、大阪・奈良・和歌山・兵庫の地元作家の入選作品等358点も陳列する。

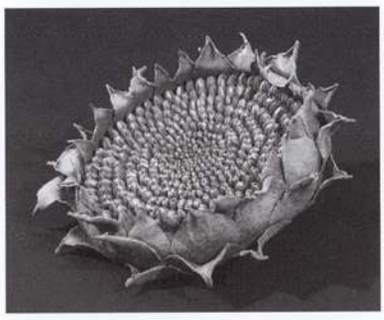
会　期　2010年2月20日～3月28日(日)
9：30～17：00　月曜日休館
会　場　大阪市立美術館（天王寺公園内）
大阪市天王寺区茶臼山町1-82
観覧料　1000円、高大生700円
中学生以下と市内在住の65歳以上は無料［要証明］
展　示　内閣総理大臣賞——「慈雨」／久保田俶通、シュプリンゲン「悠」／宮田亮平、「静寂」／黒田賢一
文部科学大臣賞——「敦盛（黒川能）」／能島和明、「ひととき」／佐藤哲

招待券は日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。

▶西宮市大谷記念美術館新収蔵品展

植物の構造を精緻に再現した「陶の博物誌」シリーズで知られる陶芸作家・杉浦康益、シルクスクリーンの技法を用いて独創的な陶芸作品を生み出した荒木高子、力強い線描と簡素な色面により詩情豊かな表現を築き上げた津高和一、具象・抽象両面に生命感あふれる独自の画風を確立した須田剋太など、様々な手法で新たな表現を切り開いてきた現代美術作品の魅力を紹介する。

会　期　2010年2月20日～3月28日(日)
10：00～17：00　水曜日休館
会　場　西宮市大谷記念美術館


杉浦康益「ひまわりの種子」二〇〇五年

西宮市中浜町4-38
阪神電車「香櫨園」駅南西徒歩6分
入館料　300円、高大生200円、小中生100円
招待券は日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。

▶太田三郎新作展「子供の時代」

太田三郎（1950年、山形県生まれ）氏の、本展で発表される新作《あひるの子供たち》はダウン症児を持つ親によって設立された『あひるの会』との交流から、また《石の小箱》は児童虐待の報道に基づいて制作された。

会　期　2010年3月19日(金)～4月10日(土)
11：00～19：00（土曜は17：00まで）
日・月休廊
会　場　アートコートギャラリー
大阪市北区天満橋1-8-5
OAPアートコート1階
展　示　既成の切手を使用した新作、被爆樹の葉を用いた未発表作品、そして代表作《Seed Project》より、2006～2009年に制作された作品も展示

本展の売上の一部は㈱日本ダウン症協会大阪支部に寄付される。

▶「筆飛将軍」林閬苑 —異色の唐画師—



林閬苑（リン・リョウエン）は1770～80年ごろに、大坂の文人画の先駆者福原五岳に学び、道頓堀にかかる幸橋の近くに住み、中国風の絵画を描く「唐画師」として活動した。

「筆飛（ヒッピ）将軍」と自称しており、大胆な筆運びの水墨画は、独特の雰囲気を創出している。

宮女遊戯図
安永7年　個人蔵

会　期　2010年2月24日～4月5日(月)
9：30～17：00　火曜日休館
会　場　大阪歴史博物館8階
特集展示室（常設展示場内）
大阪市中央区大手前4-1-32
観覧料　600円、高大生400円
中学生以下・市内在住の65歳以上は無料［要証明］
展　示　宮女遊戯図、鹿図、蹴鞠図など約30点
招待券は日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。

▶特別展「喜寿記念 上村淳之展」 ～鳥たちに魅せられて～



上村淳之「春鳩」

上村松園、松篁、そして淳之。
今回は、喜寿を迎えた淳之の世界が展観される。余白という東洋独自の象徴空間に描かれる鳥たちを通して自然の大切さを見直す機会になればと、新作を中心に紹介される。

会　期　2010年3月21日(日・祝)～5月16日(日)
10：00～17：00
月曜日休館（ただし3/22と5/3は開館・3/23と5/6は休館）
会　場　松伯美術館
奈良市登美ケ丘2-1-4
入館料　高校生以上1000円、小中生500円
展　示　月明に舞う、花の水辺Ⅰ Ⅱ、雪原に舞う、雪間、大極殿上壁 四神之図試作など本画約20点
招待券は日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。

▶INAXギャラリー大阪 糸あやつりの万華鏡



12代結城孫三郎 撮影／倉持 壮

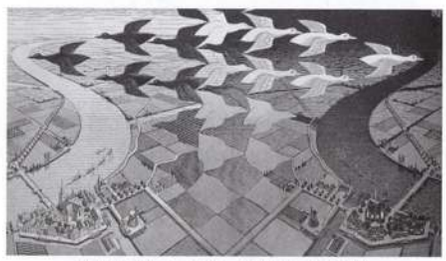
結城座は、徳川家光の治世に初代結城孫三郎が日本橋で旗揚げした江戸糸あやつり人形の一座である。現在は12代目結城孫三郎を座長とし、古典からシェークスピアまで幅広いレパートリーで芝居を繰り広げている。
会場での圧巻は17体の人形と、ずらりと並ぶ約100の頭（かしら）である。芝居に登場する多くのものは座員の手作りだ。

会　期　2010年3月6日～5月20日(木)
10：00～17：00　水曜日休館、ただし3/31～4/17は臨時休館
会　場　INAXギャラリー大阪（入場無料）
大阪市中央区久太郎町4-1-3
伊藤忠ビル一階

▶特別展『M.C.エッシャー展 ～視覚の魔術師～』

「トロンプ・ルイユ（だまし絵）」。オランダ出身の版画家M.C.エッシャー（1898～1972）が、風景や動植物画、建築デザインや幾何学的な図形まで緻密に計算し、卓越した版画技法で築き上げたその不思議空間。
本展では、ハウステンボス美術館所蔵のエッシャーの代表作を一堂に会し、あわせて日本の浮世絵版画から影響を受けたエッシャーの版画技術を、現存する版木とともに展観する。

会　期　2010年3月20日(土)～5月9日(日)
9：00～17：00（金・土は21：00まで）
月曜休館（3/22は開館・3/23は休館、5/3は開館・5/6は休館）
会　場　奈良県立美術館
奈良市登大路町10-6
入館料　1000円、高大生700円、小中生400円
招待券は日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。



《昼と夜》　1938年　板目木版（2色刷）

▶「大恐竜展～知られざる南半球の支配者～」

1億7000万年前のジュラ紀中期、超大陸「パンゲア」は南北に分裂し、北にローラシア大陸、南にゴンドワナ大陸が誕生した。本展では、1990年代に入り一躍発掘・研究が進んだ南半球—ゴンドワナ大陸に生息した恐竜にスポットを当てる。
会場では、史上最大級肉食恐竜「マプサウルス」（アルゼンチン）の全長13mの成体と、幼体の復元骨格を同時公開。また三重県（トバリュウ）、兵庫県（丹波竜）、福井県で発掘されたティタノサウルス類の骨格も紹介。

会　期　2010年3月20日(土)～5月30日(日)
9：30～17：00
月曜日休館（ただし3/22と5/3は開館、3/23と5/6は休館）
会　場　大阪市立自然史博物館
大阪市東住吉区長居公園1-23
地下鉄御堂筋線「長居駅」東へ800m
入場料　1200円、高大生700円
中学生以下と市内在住の65歳以上は無料［要証明］
招待券は日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。



サイロプラントの総合プランナー

サイロ建設はもちろん、設計・製作・工事からメンテナンスまで
お客様のあらゆるニーズに信頼と実績でお答えします！

営業内容の御案内

・サイロ建設	⟶	穀物・石炭・糖蜜・チップ他各種
・サイロ付帯設備	⟶	ゲート及びコンベヤ残留防止対策（特許品） ホッパー部残留防止対策
・施設延命対策	⟶	サイロ気密補修・サイロ外壁補修 防水補修・機器能力アップ、機能追加
・環境対策	⟶	コンベヤ防塵連続カバー（特許品） 集塵改善・防塵ライニング

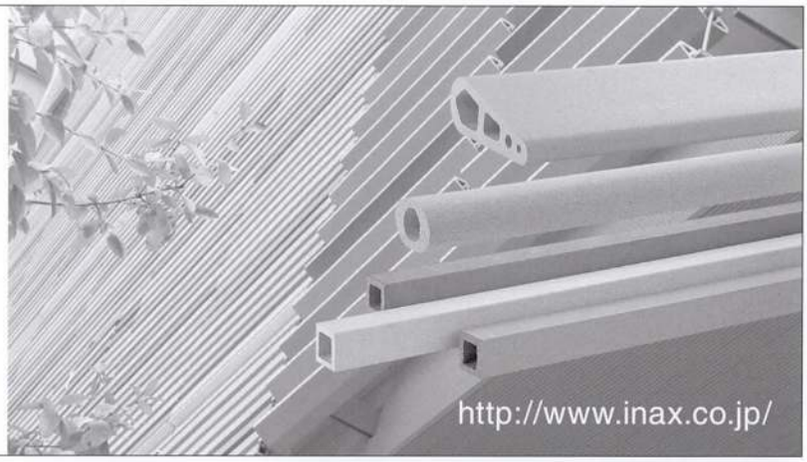
中部資材株式会社
〒455－0032 名古屋市港区入船二丁目4番31号
プラント部 直通 TEL (052)661-7234 FAX (052)661-7238
担当 江口・石川
http://www.chubushizai.co.jp

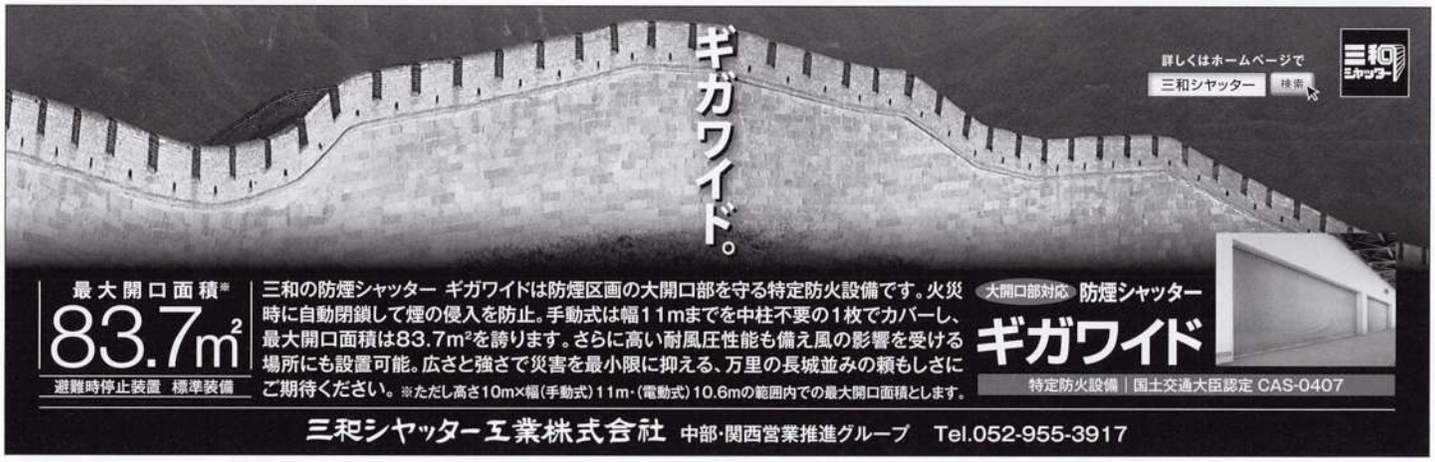
LINAX
For Precious Life

セラミックスの可能性を追求
テラコッタルーバー

設計者の想いに、技術と感性で応えます。

株式会社INAX　中部統括支社
名古屋市東区東桜1-4-16 〒461-0005　TEL:052-310-1700





作品作風

モリサワ本社ビル 協賛広告

（施工）

大末建設株式会社

〒541-0056　大阪市中央区久太郎町2-5-28　久太郎垣和ビル　TEL.06-6121-7214　FAX06-6121-7404　http://www.daisue.co.jp

（アスロック工事）

株式会社ノザワ商事

〒650-0035　神戸市中央区浪花町15　TEL.078-391-5611　FAX.078-333-4144　http://www.nozawa-kobe.co.jp

（耐火板工事）

日本インシュレーション株式会社

〒556-0014　大阪市浪速区大国1-1-6　TEL.06-4706-4102　FAX.06-6633-7323　http://www.jic-bestork.co.jp

（建具工事）

不二サッシ株式会社

〒541-0047　大阪市中央区淡路町3-5-13　TEL.06-4706-4102　FAX.06-4706-4124　http://www.fujisash.co.jp/

（シャッター・防潮板工事）

東洋シヤッター株式会社

〒523-0021　大阪市淀川区田川北3-2-1　TEL.06-6300-3081　FAX.06-6300-3089　http://www.toyo-shutter.co.jp

（軽天・ボード工事）

協和建工株式会社

〒560-0875　大阪府豊中市長興寺北3-7-3　TEL.06-6848-8060

（空調・衛生設備工事）

ダイクウ株式会社

〒540-0035　大阪市中央区釣鐘町1-3-4　TEL.06-6910-6590　FAX.06-6910-6592　http://www.daikuu.com

（電気工事）

六興電気株式会社

〒530-0043　大阪市北区天満4-13-7　TEL.06-6352-5781　FAX.06-6352-5737　http://www.6kou.co.jp

（パーテーション・スライデイングウォール工事）

伊藤喜商事株式会社

〒651-0087　神戸市中央区御幸通3-1-14　TEL.078-271-3111　FAX.078-271-3117　http://www.itoki-syoji.co.jp

理事会

第7回常任理事会

1月28日（木）16：00～17：30
出席者　中井会長ほか8名
議　事（1）平成21年度収支見込
（2）平成22年度常設委員会事業計画
（3）後援名義等の使用承諾
（4）22年度総会 理事会 常任理事会日程
（5）名誉正会員推薦内規について
（6）その他報告事項等

編集委員会

第10回編集委員会

1月13日（水）18：00～19：30
出席者　設楽委員長ほか4名
議　事（1）2月号特集「建築とエコ技術」の経過報告
（2）3月号特集「東海支部復活50周年」の報告
（3）4月号特集「食と建築」の企画
（4）5月号インテリア・住宅系分科会担当特集の企画
（5）8月号特集「再生・受け継ぐ・繋がる」の報告
（6）各小委員会・分科会の報告
（7）収支状況報告

第10回法令分科会

1月19日（火）15：00～16：45
出席者　鷲尾幹事ほか4名
議　事（1）「法令コーナー」の企画
（2）2010年10月号特集の情報
（3）情報交換

第2回建築系分科会

1月18日（月）19：00～21：00
出席者　下坂幹事ほか6名
議　事　2010年7月号特集企画案検討

第2回計画系分科会

1月8日（金）18：30～20：40
出席者　飯田委員ほか4名
議　事　2010年4月号「食と建築」特集の企画

第3回計画系分科会

1月20日（水）18：30～20：30
出席者　飯田委員ほか4名
議　事　2010年4月号「食と建築」特集の企画

第8回設備分科会

1月6日（水）18：00～20：00
出席者　赤澤幹事ほか6名
議　事（1）見学会の企画
（2）「設備の頁」の企画
（3）2010年6月号「電池」特集の企画
（4）来年度の委員体制
（5）新企画の提案

第1回インテリア・住宅系分科会

1月12日（火）18：30～19：45
出席者　神谷幹事ほか1名
議　事　5月号インテリア特集の企画

第2回インテリア・住宅系分科会

1月25日（月）18：30～21：00
出席者　神谷幹事ほか2名
議　事　5月号インテリア特集の企画

第10回作品作風小委員会

1月28日（木）19：00～20：00
出席者　居内副委員長ほか5名
議　事（1）作品の選定
（2）作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
（3）「gallery」掲載報告・予定

第10回広告企画小委員会

1月13日（水）17：00～18：00
出席者　設楽委員長ほか4名
議　事（1）2月号特集「建築とエコ技術」の報告
（2）3月号特集「東海支部復活50周年」の報告
（3）4月号特集「食と建築」
（4）広告掲載状況の報告
（5）収支状況報告

第10回10年委員会

1月7日（木）18：30～19：30
出席者　設楽委員長ほか6名
議　事（1）第3回学生のための現場見学会
（2）第4回学生のための現場見学会
（3）第2回続大阪「かくれたえええとこ」再発見コンクール

事業委員会

第6回情報見学小委員会

1月14日（木）18：00～19：00
出席者　瀬戸川委員長ほか6名
議　事（1）本年度事業について
（2）来年度事業について

出版委員会

第9回出版委員会

1月21日（木）18：00～19：15
出席者　上原委員長ほか9名
議　事（1）プロのノウハウと特装本の経過報告
（2）進行中のテーマについて

教育委員会

第3回工高生教育小委員会

1月15日（金）18：00～19：45
出席者　神野副委員長ほか5名
議　事（1）第56回工高生デザインコンクール応募規定原案の検討
（2）今後の作業予定等

特別委員会

群像インタビュー

1月25日（月）14：00～16：30
出席者　古谷隆祥（インタビュアー）ほか6名
関西の建築界「群像」登場者の人間像に迫るためのインタビュー
森田一弥氏／森田一弥建築設計事務所

入会者（敬称略）

〔個人正会員〕
小倉　正士　㈱安井建築設計事務所 東京事務所

●訃報

〔理事〕
淺沼誠夫 氏　平成21年12月16日逝去 享年83歳
長年にわたり理事として教会運営にご尽力いただいたことに対し、厚く御礼申し上げます。

〔個人正会員〕
保浦文夫 氏　平成21年12月逝去 享年70歳

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見２丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

www.naniwa.com
We have hope

■印刷事業　ポスター、カタログ、パンフレット、書籍、年鑑、社史、雑誌、文字、画像データ処理
■メディア事業　SPプランニング・コンサルティング、ITソリューション、web及びメディアコンテンツ企画制作

株式会社NPCコーポレーション
本　社　〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19
tel:(06)6351-7271(代)　fax:(06)6352-7479
第二ビル　〒530-0043 大阪市北区天満1-11-8
tel:(06)6351-0128(代)　fax:(06)6351-0208
東京支社　〒105-0004 東京都港区浜松町1-2-1 一光浜松町ビル7F
tel:(03)3433-5211(代)　fax:(03)5776-7733
（旧社名ナニワ印刷㈱、日本データネット㈱）

地球環境を守り、100年建築に貢献する
NACL のアルミ表面処理
株式会社日本電気化学工業所
http://nacl.jp　E-mail:sc@nacl.co.jp
本部営業部　〒560-0036 大阪府豊中市蛍池西町2丁目7番26号 NACLﾋﾞﾙ2階
TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632
東京事務所　〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目7-2 東京NACLﾋﾞﾙ
TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332－6861
TEL 東京（03）3272－8501

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・京丹後（0772）72－2220
舞　鶴（0773）76－0133

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443－6181

日本全国
いつでも、どこでも、なんでも
建設工事用仮設鋼材
建設機械・請負工事の
システム・ネットワーク。



ジェコス株式会社

本　社／〒103-0016　東京都中央区日本橋小網町6番7号（第2山万ビル）
TEL 03（3660）0777（代表）
大阪営業本部／〒553-0003 大阪市福島区福島7丁目20番1号（KM西梅田ビル）
TEL 06（6455）2411（代表）　URL http://www.gecoss.co.jp.